

第四 信越電力株式會社六分半利付米貨社債關係

## 第四 信越電力六分五厘利付米貨社債關係

### (一) 舊信越電力株式會社壹番抵當六分五厘利減債基金付米貨社債

緒言

日本帝國法律ニ準據シ設立サレ現存スル法人ニシテ日本東京市ニ本店ヲ有スル信越電力株式會社  
(英語ニテ「シンエツ・エレクトリック・パワー・コムパニー・リミテツド」) (以下「會社」ト稱ス)  
ヲ第一當事者トシ日本帝國法律ニ準據シ設立サレ現存スル法人ニシテ日本東京市ニ本店ヲ有スル三井  
信託株式會社(英語ニテ「ゼ・ミツイ・トラスト・コムパニー・リミテツド」) (以下「受託會社」ト  
稱ス)ヲ第二當事者トスル西曆千九百二十七年(昭和二年)十二月一日附信託證書

社債ノ要  
項

會社ハ其銀行借入金ノ減却及ビ其他ノ會社目的ノ爲メニ使用スル資金トシテ適法ニ行ハレタル株主  
總會及ビ取締役會ノ決議ニ因リ元金總額七百六十五萬弗ノ社債ヲ發行シ其元利金ノ支拂ヲ擔保スル爲  
メ以下記載スル會社財産上ニ抵當權ヲ設定スルコトトセリ、右社債ハ一番抵當六分五厘利減債基金附  
社債(以下「社債」ト稱ス)ト稱シ本債券ハ利札附トシ券面種類ヲ一千弗及五百弗ノ二種トシ受託會  
社ノ證明並ニナショナル・バンク・バンク・オブ・ニューヨーク(亜米利加合衆國紐約州法ニ準據シ  
設立サレ現存スル國立銀行法人、以下「立會署名者」ト稱ス)ノ立會署名ヲ附スルモノトシ西曆千九

百二十七年十二月一日附シ滿期日ヲ西曆千九百二十七年十二月一日トシ、利息ハ西曆千九百二十七年十二月一日ヨリ起算シ年利率六分五厘トシ毎年二回六月一日及十二月一日ニ支拂フモノトシ元利金ハ亞米利加合衆國紐育州紐育市、マンハツタン區ニ於ケル「デイロン・リード・エンド・コムパニー」(前記紐育州法ニ依リ設立サレ現存スル株主組合、以下「財務擔當者」ト稱ス)又ハ財務擔當者トシテノ其承繼者ノ本店ニ於テ西曆千九百二十七年十二月一日現在ノ品位量目又ハ之ト同等ノ亞米利加合衆國金貨ヲ以テ支拂フモノトシ又社債權者ノ選擇ニ依リ英國倫敦市ニ於テ、ジェー・ヘンリー・シユレーター・エンド・コンパニー又ハ其承繼者ノ本店ニ於テ大英國金貨(換算率ヲ磅金貨ニ對シ四・八六六五弗トス)ヲ以テ支拂フモノトス、而シテ元利金ハ平時タルト戰時タルトヲ問ハズ又所持人ノ國籍又ハ住所ニ付宣誓又ハ調査ヲ爲スコトナク一樣ニ支拂ハルヘキモノニシテ又元利金ノ支拂ニ付債券所持人ガ其支拂ノ當時日本ニ住居セザル限り現ニ課セラルル或ハ日本政府或ハ行政團體或ハ稅務當局ノ現在又ハ將來ノ法規ニ依リ課セラルベキ一切ノ稅金ヲ控除スルコトナキモノトス、其課稅タルヤ債權ニ對スルト又ハ債券ニ表示スル債權ニ對スルト又ハ之ガ擔保物タル財產ニ對スルト又ハ社債權者ノ利益ノ爲メ設定サレタル利權ニ對スルト又ハ債券ヨリ受クル利息收入其他ノ支拂ニ對スルト又ハ債券ノ所有又ハ本書規定ニ基キ發生シタル利益又ハ權利ノ享有ヲ理由トシテ社債權者ニ對スルト否トヲ問ハズ會社ハ之等ノ稅金ヲ支拂フコトヲ約ス。

本社債ハ會社ノ選擇ニ依リ後ニ記載スル方法及價格ヲ以テ利息支拂日ニ於テ全部又ハ一部ノ償還ヲ爲サルベキモノトス。

債券ノ利札及ビ債券ニ各別ニ裏書セラルベキ受託會社ノ證明及立會署名者ノ立會署名ノ方式要項ハ左ノ様式ニ依ルベキモノニシテ餘白ノ部分ハ凡テ債券發行前適當ニ記入セラルベキモノトス。

債券ノ書式  
〔債券ノ書式〕

第 號

金 弗

(又ハ所持人ノ選擇ニ從ヒテ)

金 磅 志 片

日本帝國

信越電力株式會社(シンエツ・エレクトリック・パワー・コンパニー・リミテツド)

一番抵當六分五厘利減債基金附社債

最終償還日 西曆千九百五十二年十二月一日(昭和二十七年二月一日)

日本帝國法律ニ準據シテ設立現存スル法人信越電力株式會社(シンエツ・エレクトリック・パワー・

コンパニー・リミテツド)(以下「會社」ト稱ス)ハ本債券所持人ニ對シ金 弗也或ハ所持人ノ

選擇ニ從ヒ金 磅 志 片也及西曆千九百二十七年（昭和二年）十二月一日ヨリ起算シ年六分五厘ノ利息ヲ前記元金支拂濟ニ至ル迄毎年二回即チ六月一日及十二月一日ニ於テ支拂フベキコトヲ約ス但シ利息ノ支拂ハ各半年分ノ利息ヲ表示スル添附利札ノ提出ニ依リ之ト引換ニ爲サルベキモノトス。本社債元利金ノ支拂ハ亞米利加合衆國紐育州紐育市マンハツタン區所在「テイロン・リード・エンド・コンパニー」若クハ其承繼人本店ニ於テ西曆千九百二十七年十二月一日現在ノ品位量目若クハ之ト同等ノ亞米利加合衆國金貨弗ヲ以テ爲シ又ハ所持人ノ選擇ニ從ヒ英國倫敦市所在「ジェー・ヘンリー・シユレーダー・エンド・コンパニー」若クハ其承繼人ノ本店ニ於テ大不列顛王國ノ金貨ヲ以テ爲ス。

本社債元利金ハ戰時平時ヲ問ハズ債券又ハ利札所持人ガ日本政府ト親善關係ニ在ル市民タルト否トヲ問ハズ所持人ノ市民權又ハ住所地ニ關シ無條件ニテ且何等ノ調査ヲ爲スコトナク之ガ支拂ヲ爲スベキモノニシテ債券又ハ利札所持人ガ日本ニ住居セザル限リ本社債ノ元金並ニ利息ハ本證書中、後ニ詳記セル規定ノ如ク本社債ニ對スルト又ハ社債權者ニ對スルト又ハ其他ノ理由ニ因ルトヲ問ハズ現ニ課セラルルコトアルベキ一切ノ税金ニ對スル控除ヲ爲スコトナク支拂ハルベキモノニシテ斯ル税金ハ一切會社ニ於テ支拂フベキモノトス。

本債券ハ會社ガ適法ニ發行シタル「一番抵當」六分五厘利減債基金附社債ト稱セラルル社債券ノ一ニシテ社債總額ハ金七百六十五萬弗、債券ノ種類ハ一千弗券及ビ五百弗券ノ二種ヨリ成リ凡テ無記名式トシ「テイロン・リード・エンド・コンパニー」ニ於テ之ガ總額ヲ引受ケタリ、本社債ハ凡テ會社受託會社タル三井信託株式會社「ゼ・ミツイ・トラスト・コンパニー・リミテッド」間ノ西曆千九百二十七年（昭和二年）十二月一日附信託證書ニ基キ發行サレ且同證書中記載サレル六日町區裁判所下船渡出張所ニ工場財團第二號トシテ組成サレタル工場財團中ニ包含サレタル會社財産上ニ設定サレタル抵當權ニ依リ平等ニ擔保セラルルモノナリ、抵當物件ノ種類、擔保權ノ性質及範圍、本社債發行ノ條件並ニ擔保ノ方法及ビ受託會社社債及利札所持者ノ權利ニ關スル事項ニ付テハ前記證書及之ガ追加證書中ニ之ヲ規定ス。

會社ハ其欲スル處ニ從ヒ滿期日前何時ニテモ利息支拂日ニ於テ前記證書所定ノ公告方法ニ依リ少クモ三十日前ノ豫告ヲ以テ元金額並ニ經過利子ヲ加算シタル價額ヲ以テ社債ノ全部又ハ一部ヲ償還スルコトヲ得又滿期日前何時ニテモ利息支拂日ニ於テ前記證書所定ノ減債基金（但シ最終償還日迄ニハ全部ヲ償還シ得ルニ充分ナル基金）ノ運用ニ依ル一部ノ償還ヲ爲スコトヲ得、本社債ニシテ前記證書ノ規定スル處ニ依リ償還ノ決定アリタルトキハ會社ニ於テ其ノ償還價格ノ支拂ニ付不履行ナキ限リ之ニ對スル利息ハ右償還廣告ニ指定セル日以後支拂ハレザルモノトス。

前記證書ニ規定セル如キ會社ノ不履行アリタルトキハ右證書ニ規定セル事由ニ基キ會社ハ社債元金ニ付期限ノ利益ヲ失フモノトス。

本債券及利札ハ引渡ニ依リ讓渡セラルベキモノニシテ會社ニ於テ其債券又ハ利札ノ所持人ニ對シ支拂ヲ爲シタルトキハ其債券ノ元金又ハ利札ノ表示スル利息ニ付其責ヲ免ルルモノトス。

會社ハ本社債發行ノ全權限ヲ有スルコト及ビ本社債發行ニ先ダチ爲シ又ハ生ズルコトヲ要スル及ビ本社債ヲ會社ノ有効ナル債務トスルニ付必要ナル一切ノ行爲、條件及ビ事項ハ會社定款及日本帝國法律上合法的ニ爲サレタルコトヲ宣言ス。

債券ハ受託會社ノ證明(右證明ハ債券ニ裏書ヲ爲シ受託會社ノ社長ノ署名ノ真寫ヲ附シ適法ニ授權サレタル特別代理人ニ依リ之ニ署名セラル)ナキトキ又ハ立會署名者タル「ナシヨナル・パーク・バーク・オブ・ニユーヨーク」ノ立會署名ナキトキハ如何ナル目的ニ對シテモ無効トス。

右證據ノ爲メ西曆千九百二十七年(昭和二年)十二月一日信越電力株式會社(シンエツ・エレクトリック・パワー・コンパニー・リミテッド)ハ其名ニ於テ社長若クハ代表取締役ノ一名ノ署名ノ真寫ト印鑑ヲ本債券ニ附シ特別代理人ニ署名シ秘書役若クハ副秘書役ノ一名之ニ社印ヲ押捺シ之ヲ證明シ債券ニ添附セル利札上ニ代表取締役ノ一名ノ署名ノ真寫ヲ附ス。

信越電力株式會社

(シンエツ・エレクトリック・パワー・コンパニー・リミテッド)

社長

右特別代理人

證明ス

秘書役

〔利札ノ書式〕

第 號

金 弗

(又ハ所持人ノ選擇ニ從ヒ)

金 磅 志 片

昭和二年十二月一日信越電力株式會社(シンエツ・エレクトリック・パワー・コンパニー・リミテッド)ハ後記社債ニ付期限前ノ償還ノ決定及ビ其支拂若クハ支拂ノ提供アラザル限リ一番抵當六分五厘利減債基金附社債第 號ニ特定セル右社債六ヶ月分利息トシテ所持人ニ對シ本利札引換ニ並米利加合衆國紐育州紐育市マンハツタン區所在「デイロン・リード・エンド・コンパニー」若クハ財務擔當者トシテノ其承繼人ノ本店ニ於テ昭和二年十二月一日ノ並米利加合衆國金貨又ハ之ト同等ノ品位量目ノ金貨ヲ以テ金 弗又ハ所持人ノ選擇ニ從ヒ英國倫敦市所在「ジエー・ヘンリー・シユレター・エンド・コンパニー」又ハ其承繼人ノ本店ニ於テ大不列顛王國金貨 磅 志 片也ヲ支拂フ

但戰時平時ヲ問ハズ且所持人ガ日本ニ居住セザル限リ現ニ課セラルル税金又ハ日本政府行政團體、若クハ稅務當局ニ依リ現在若クハ將來ノ法規ニ基キ課セラルルコトアルベキ税金ノ控除ヲ受クルコトナシ。

代表取締役

〔受託會社證明ノ書式〕

本債券ハ昭和二年十二月一日附信託證書ニ基キ發行サレタル一番抵當六分五厘利減債基金附社債之一ナルコトヲ證明ス。

受託會社 三井信託株式會社

(ゼ・ミツイ・トラスト・コンパニー・リミテッド)

社長

右特別代理人

〔立會署名ノ書式〕

右立會署名ス

立會署名者 ナシヨナル・パーク・バンク・オブ・ニューヨーク

權限ヲ有スル役員

債券ノ効力

斯クノ如クシテ受託會社之ヲ證明シ立會署名者之レニ立會署名ヲナシタルニ依テ本證書ノ規定ニ從ヒ發行セラレタル債券ハ合法有効ニシテ會社ヲ拘束シ且ツ本證書ニ基キ設定サレタル抵當權ヲ本社債ノ元利金ノ支拂保證トシテ有効ナル抵當ト爲スニ必要ナル一切ノ事項ハ完結シ本證書及ビ債券ノ作成交付ハ凡テノ點ニ於テ適法ニ成立ス。

信託證書ノ作成

本件及ビ社債權者ノ本社債ノ引受、買入ノ對價トシテ又本書ニ依リ其受領ヲ承認スル其ノ他ノ有價ノ對價ニ對シ又本社債元金 弗並ニ其利息ノ支拂及ビ本書以下ニ記載スル一切ノ誓約及ビ條件ノ誠實ナル履行遵守ヲ保證スル爲メ會社ハ本信託契約證書ヲ作成シ本書ニ基キ受託會社、其信託承繼者及ビ其讓受人ニ對シ日本帝國法律ニ基キ設定サレ(昭和二年十二月六日登記)六日町區裁判所下舟渡出張所ニ於テ工場財團第二號トシテ登記サレタル工場財團(以下單ニ「工場財團」ト稱ス)ニ屬スル

電力供給契約書ノ預託

財產上ニ抵當權ヲ設定シ又本書ニ基キ受託會社ニ對シ會社ノ中津川第二及ビ第一發電所ノ實質の全部ノ發力ノ賣買ニ關スル東京電燈株式會社トノ大正十一年十二月一日附及ビ同十三年六月二十八日附兩契約各個ニ基ク一切ノ權利並ニ本社債最終償還日以後迄前記契約更新ニ關スル昭和二年十一月二十五日附證書ニ基ク一切ノ權利ヲ讓渡ス會社ハ本書作成ト同時ニ右兩契約書及ビ前記期間更新ノ證書原本ヲ受託會社ニ對スル讓渡證並ニ東京電燈株式會社ノ右讓渡ニ關スル同意ヲ證スル昭和二年十二月一日附證書ト共ニ受託會社ニ交付ス。

會社ハ工場財團ニ現在及ビ將來包含スル一切ノ財産ヲ之レニ關聯スル諸權利ト共ニ受託會社其承繼人讓受人ニ對シ永久ニ保維保存ス可シ、下記記載ノ條件ノ下ニ上記一切ノ諸財産ハ平等對等按分ノ擔保利益トシテ信託的ニ社債券利札所持者ノ爲メニ存在スルモノニシテ社債券發行、賣出シ交渉ノ前後等ニヨリ何レガ特定ノ社債權者ガ優先スル如キコトナク社債券ニ記載サレタル各條項ニ基キ本書ノ以下記載ノ條件ニ準據シテ使用處分セラルルモノ也

擔保ノ目録

工場財團ニ屬スル財産目録タル下舟渡出張所ノ認證ニ係ル工場財團目録謄本(甲表下記ス)ヲ本書各原本ニ添附シ本書ノ一部トス右財産ハ工場財團所有權保存登記申請ノ日タル(昭和二年十一月二日)前ニ於テ完成シ會社ノ所有ニ屬スル左記發電所、送電線、電話線並ニ配電線ヲ包含スルモノニシテ大要左ノ如シ。

目録

發電所

(イ) 中津川第一發電所

新潟縣中魚沼郡秋成村、同縣同郡蘆ヶ崎村、長野縣下高井郡平穩村及堺村等ニ存在スル會社ノ中津川發電所トシテ知ラレタル財産ノ一切ニシテ建物、敷地、原野、田畑、森林、池沼、其他該發電所ニ附屬スル其他ノ不動産並ニ發電所、修繕工場、事務所、住宅、雇人部屋、護岸、其他該

發電所ノ施設ニ用ヒラルル一切ノ附屬物、堰堤取入口、水門、溝渠、導水鐵管、弁、放水路、排水路、水閘墜道、落差施設、鐵塔、鐵桁、其他ノ施設物、一切ノ水車、調整機、發電機、勵磁器、變壓機、發動機、蓄電池、配電盤、開閉器、遮斷機、避雷針、起重機、計器、調節器、其他上記發電所施設ニ包含セラレ又ハ關聯附屬スル一切ノ財産

(ロ) 中津川第二發電所

會社ノ中津川發電所トシテ知ラレタル一切ノ財産ニシテ即チ新潟縣中魚沼郡秋成村、蘆ヶ崎村、下船渡村等ニ存在スル一切ノ建物、敷地、原野、田畑、森林、池沼其他ノ不動産並ニ發電所修繕工場、事務所、住宅、雇人部屋、護岸其他該發電所ノ施設ニ用ヒラルル一切ノ附屬物、堰堤取入口、水門、溝渠、導水鐵管、弁、放水路、排水路、水閘墜道、落差施設、鐵塔、鐵桁其他ノ施設物、一切ノ水車、調整機、發動機、勵磁器、變壓器、發電機、蓄電池、配電盤、開閉器、遮斷機、避雷針、起重機、計器、調節器、其他上記發電所施設ニ包含セラレ又ハ關聯附屬スル一切ノ財産

(ハ) 中津川第三發電所

會社ノ中津川發電所トシテ知ラレタル一切ノ財産即チ新潟縣中魚沼郡蘆ヶ崎村ニ存在スル一切ノ敷地、原野、田畑、森林、池沼、其他ノ不動産並ニ發電所、修繕工場、事務所、住宅、雇人部

屋、護岸其他該發電所ノ施設ニ用ヒラルル一切ノ附屬物、堰堤取入口、水門、溝渠、導水鐵管、  
瓣、放水路、排水路、水閘、墜道、落差施設、鐵塔、鐵桁其他ノ施設物、一切ノ水車、調整機、發  
電機、勵磁器、變壓機、發動機、蓄電池、配電盤、開閉器、遮斷機、避雷針、起重機、計器、調  
節器、其他上記發電所施設ニ包含セラレ又ハ關聯附屬スル一切ノ財產

架空送電線路

(一) 中津川第一送電線

即チ會社ノ中津川第一、二回線一萬千ボルト三相送電線ヲ指稱シ次ノ如シ。

新潟縣中魚沼郡秋成村所在第一發電所ニ始リ、其北方ヲ走リ約四・六哩ニシテ同郡蘆ヶ崎村ノ  
中津川第二發電所ニ至ルモノニシテ該送電線ニ屬スル一切ノ鋼鐵、木材、塔、桁、柱ガイ、腕木、  
碍子、碍子ピン、基礎施設等本送電線ヲ組成スル工作物諸線切斷開閉器、チヨークコイル、避雷  
針其他該送電線ニ包含シ若クハ關聯スル權利財產等

(ホ) 中津川第二送電線

即チ會社ノ中津川第二、二回線一萬一千ボルト及三千三百ボルト三相送電線ヲ指稱シ次ノ如  
シ。

新潟縣中魚沼郡蘆ヶ崎村所在中津川第二發電所ニ始リ北西ニ向ヒ〇・三四七哩ヲ走リテ同村中

津川第三發電所ニ到ルモノニシテ該送電ニ屬スル一切ノ鋼鐵、木材、塔、桁、柱ガイ、腕木、碍  
子、碍子ピン、基礎施設等本送電線ヲ組成スル工作物諸線切斷開閉器、チヨークコイル、避雷針  
其他該送電線ニ包含シ若クハ關聯スル權利財產等

(ニ) 架空配電線路

下記所在地ニアル地上及地下ノ「マルチ」回線三千三百ボルト三相及單相ノモノ

一 西大瀧線

新潟縣中魚沼郡蘆ヶ崎村所在中津川第三發電所ニ始リ南西方ニ走ルコト五八・〇八六四哩、  
新潟縣中魚沼郡蘆ヶ崎村、上郷村、長野縣下水内郡水内村及岡山村ヲ通過シ同縣下高井郡堺村  
及市川村ニ到ル。

二 穴藤線

會社第三發電所ヲ發シ南東二四・八七〇七哩蘆ヶ崎下船渡村中深見村ヲ經由シ同縣同郡秋成  
村ニ到ル。

三 下船渡線

新潟縣中魚沼郡下船渡村ニ於テ穴藤線ヨリ分岐シ北東一四・一二一六哩ニシテ下船渡村ニ到  
ル。



四、外 丸 線

新潟縣中魚沼郡下船渡村ニ於テ下船渡線ヨリ分岐シ北東一二・一八哩ニシテ外丸村ニ到ル。

五 中津川地中配電線

會社ノ中津川第一發電所ニ始リ西方〇・七三哩ニシテ秋成村所在ノ同發電所取入口ニ至ルモ

該配電線路ヲ組成スル一切ノ土地一切ノ鐵、材木、塔、桁、柱、碍子、腕木、碍子ピン其他一切ノ基礎工事、ダクトコンテユート、マンホール、ジャンクシヨンボックス其他一切ノ諸線、電導器、遮斷器、避雷針、變壓器、ヒューウス、油入開閉器、保護裝置、計器、ランプ其他之ニ關聯スル一切ノモノ

(b) 電話線路

一 配電用電話線路

新潟縣中魚沼郡蘆ヶ崎村所在中津川第三發電所ヲ發シ右蘆ヶ崎村、同縣同郡上郷村、同縣同郡下船渡村、同縣同郡中深見村、同縣同郡秋成村、長野縣下水内郡水内村、同縣同郡岡山村ヲ經由シ同縣下高井郡堺村及同縣同郡市川村ニ至ル即チ起點ヨリ南西、南東、北東ニ走レル亘長二〇・〇八哩

二 中津川第二取入口電話線路

新潟縣中魚沼郡秋成村所在中津川第二發電所取入口ヲ發シ同村所在、中津川第一發電所ヲ經由シ同郡蘆ヶ崎村所在第二發電所ニ至ル即チ起點ヨリ北方ニ向ヒ四・一五哩ノ亘長

三 中津川第一取入口電話線路

新潟縣中魚沼郡秋成村所在中津川第一發電所ヲ發シ長野縣下高井郡堺村所在同發電所取入口一番舎ニ到ル亘長一一・六九哩

四 中津川第二、第三電話線路

新潟縣中魚沼郡蘆ヶ崎村中津川第二發電所ヲ發シ北西ニ亘長〇・〇七哩ヲ走リ同村中津川第三發電所ニ至ルモノ

擔保ノ追

後記第六章ニ規定スル如ク會社ハ時々工場財團登記申請ノ日以後ニ取得セル或ハ現工場財團各部ノ取換、新替、擴張、改良、附加、添加ニ依ル財産又ハ權利（電柱線、架設權及ビ浸水地契約ニ基ク權利ヲ含ム）ヲ本書ニ基キ設定セル抵當權ノ目的物ニ編入スベシ。

第一章 債券ニ關スル總則

社債ノ要

第一條 債券利札及受託會社ノ證明及立會署名者ノ立會署名ノ方式ノ要項ハ上記ノ文言及要領ヲ以テ

第四 信越電力株式會社六分五厘利付米貨社債關係

爲サルベキモノトス。

債券ハ會社ノ「一番抵當六分五厘利減債基金附社債」ト稱シ昭和二年十二月一日附トシ拂渡期日ヲ昭和二十七年十二月一日トス。

昭和二年十二月一日ヨリ年六分五厘ノ割合ニヨル利息ヲ附シ元金償還ニ至ル迄年二回即チ毎年六月一日及十二月一日ニ支拂フモノトス。

元利金ノ支拂ハ垂米利加合衆國紐育州紐育市マンハツタン區所在「テイロン・リード・エンド・コンパニー」又ハ財務擔當者トシテノ其承繼人ノ本店ニ於テ昭和二年十二月一日現在ノ品位置目又ハ之ト同等ノ垂米利加合衆國金貨弗ヲ以テ爲シ或ハ所持人ノ選擇ニ從ヒ英國倫敦市所在「ジェイ・ヘンリー・シユレーダー・エンド・コンパニー」又ハ其承繼人ノ本店ニ於テ金貨壹磅ニ對シ四・八六六五弗ノ換算率ニヨリ大不列顛王國ノ金貨ヲ以テ爲スモノトス。

本債券ハ利札附ニシテ一千弗券及五百弗券ノ二種トシ記名式ヲ用ヒザルモノトス。

一千弗券ハM1一ヨリ順次上位ノ番號ヲ附シ五百弗券ハD1一ヨリ順次上位ノ番號ヲ附ス本證書ニ基キ發行スル社債總額ハ金七百六十五萬弗也トス。

債券ニハ會社ヲ代表シテ社長又ハ他ノ代表取締役之ニ署名シ社印ヲ押捺シ秘書役又ハ副秘書役ノ一名之ヲ證明スルカ又ハ社長其他ノ代表取締役ノ署名ノ代リニ社長又ハ其他ノ代表取締役ノ署名ノ

真寫ト捺印ニ其他ノ適法ノ代理人ノ署名ヲ以テスルコトヲ得。

假債券及  
本債券

第二條 會社ハ本社債ノ交付準備完了スル迄之ガ代用トシテ本債券ト同一ノ規定條件ニ從ヒ五百弗又ハ其倍數ノ券面額ヲ有スル印刷又ハタイプライターニテ記載シタルモノニシテ前記ノ文言ヲ附シ所持人拂又ハ指圖式トシアル一通又ハ夫レ以上ノ數ノ假債券ヲ作成シ受託會社ハ會社ノ要求ニ應ジ之ニ證明ヲ附シテ立會署名者ニ交付シ立會署名者之ニ立會署名ヲ爲シ交付スルモノトス但シ假債券ニハ利札ヲ附セズ且ツ其ノ文言ハ必要ニ應ジ適當ノ加除ヲ爲スコトアリ會社ハ紐育株式取引所ノ書式ニ合致スル本債券及利札ヲ可成的速カニ鋼鐵印刷ヲ以テ印刷作成スベシ。

會社ハ右本債券出來シタルトキハ之ヲ受託會社ニ交付シ受託會社ハ之ニ證明ヲ附シタル上立會署名者ニ交付ス、立會署名者ニ於テ右本債券ノ交付ヲ受ケ且會社ニ代リ交換ノ爲メ假債券ノ提出ヲ受ケタル時ハ本債券ニ立會署名ヲ爲シ右提出アリタル假債券ト同一ノ元金額ニ相當スルモノヲ交付スルモノトス。

斯ク交換サルル迄ハ假債券ハ凡テノ點ニ於テ本書ニ基キ發行サル可キ本債券ニ於ケルト同様ノ本證書ニ基ク權利利益ヲ享有スルモノニシテ之ニ對スル利息ハ支拂期到來シタルトキハ右假債券ノ呈示ニ應ジ利息ヲ支拂ヒ且支拂濟ノ記號ヲ附ス可キモノトス。

引換ノ爲メ提出アリタル假債券ハ立會署名者ニ於テ抹消ノ上之ヲ受託會社ニ交付シ受託會社ハ會

社ノ書面ニヨル要求ニ應ジテ之ヲ會社ニ交付スルモノトス。

利札ノ形 第三條 本債券添付ノ利札ニハ會社ノ現在ノ代表取締役又ハ其後任者ノ署名ノ真寫ヲ附スルモノトシ  
債券ガ證明サレ立會署名サレ又ハ發行サルル當時ニ至リテ會社ノ其代表取締役ガ最早其職ニ在ラザ  
ル場合ト雖モ其者ノ署名ノ真寫ヲ右目的ノ爲メ採用シ使用スルコトヲ得。

債券ノ署名 第四條 會社ノ役員又ハ特別代理人ニシテ債券ニ署名シ捺印シタル者ガ其債券ガ現實證明サレ立會署  
名サレ又ハ發行サルル以前ニ其職ヲ退キタル場合ト雖モ斯ル債券ハ右署名又ハ捺印シタル役員代理  
人ガ恰モ其地位ニ在ルト同様ニ取扱ハル可キモノニシテ該債券ノ發行證明立會署名ニ何等影響ヲ及  
ボサズ債券作成ノ時會社ノ適法ノ役員代理人タル者ハ假令其者ガ債券日附ノ當時其地位ニアラザリ  
シ場合ト雖モ受託會社ノ爲メ債券ノ證明ヲ爲スコトヲ得。

受託會社ノ證明 第五條 債券面ニ爲メ受託會社ノ證明ハ受託會社ノ爲メ其社長之ニ署名スルカ又ハ受託會社ノ其當時  
又ハ後任ノ社長ノ署名ノ真寫ヲ附スルカ又ハ此等ノ人ノ記名ニ加フルニ適法ナル特別代理人ノ署名  
ヲ以テ之ニ證明スベシ。

債券ガ證明サレ立會署名サレ又ハ發行サルル當時ニ到リ社長ガ最早其職ニ在ラザル場合ト雖モ其  
者ノ署名又ハ署名ノ真寫又ハ記名ハ右目的ノ爲メ採用シ使用スルコトヲ得、受託會社ノ特別代理人  
ニシテ受託會社ノ爲メ債券ニ證明ヲ爲シタル者ガ其債券ノ現實立會署名サレ又ハ發行サルル以前ニ  
其職ヲ退キタル場合ト雖モ斯ル債券ハ右證明ヲ爲シタル者ガ恰モ其職ニ在ルト同様ニ取扱ハル可キ  
モノニシテ其發行及立會署名ニ何等ノ影響ヲ及ボサズ債券證明ノ當時受託會社ノ社長又ハ特別代理  
人タル者ハ假令其者ガ債券日付ノ當時社長又ハ特別代理人ニアラザリシ場合ト雖モ受託會社ノ爲メ  
債券ノ證明ヲ爲スコトヲ得。

債券ノ効力 第六條 債券ニシテ本書中前記書式ニ依ル受託會社及立會署名者各自ノ證明及ビ立會署名ヲ附シタル  
モノニ限り本書規定ニ基キ權利利益ニ均霑シ又ハ擔保ニヨリ確保セラレ得ルモノトス而シテ斯ル受託  
會社ノ證明及立會署名者ノ立會署名ハ債券ノ効力發生ノ絶對條件トス斯ル證明及立會署名ヲ附シタ  
ル債券ハ其發行ニ當リ本書規定ニ基キ適法ニ發行サレタルモノニシテ其債券ノ所持人ハ本書ニヨリ  
設定サレタル信託的抵當權ニ對スル權利及利益ヲ享有シ得ルモノナリ。

第七條 會社受託會社立會署名者財務擔當者及「ジェー・ヘンリー・シユレーター・エンド・コンパ  
ニー」ハ債券又ハ利札ガ滿期前タルト滿期後タルト問ハズ又支拂ヲ受クル目的ノ爲メタルト其他  
如何ナル目的ノ爲メタルト問ハズ其債券又ハ利札ノ所持人ヲ以テ其所有者ト看做シ之ニ異ナル通  
知ニ拘束セララルコトナキモノトス。

本債券ニ對スル利息ハ債券ニ添付シタル各利札ニ規定セル如ク其各滿期日ノ到來毎ニ之ト引換ニ  
於テノミ支拂ハルベキモノナリ。

債券又ハ利札ニシテ償還又ハ支拂ヲ完了シタルモノハ抹消シ立會署名者ハ會社ノ費用ヲ以テ受託會社ニ對シ、抹消債券又ハ利札ノ記號番號及券面額ヲ通告シ之ヲ受託會社ニ交付スルモノトス、受託會社ハ會社ノ書面ニ依ル要求ニ應ジテ之ヲ會社ニ交付スルモノトス。

債券ノ再發行

第八條 利札附本債券又ハ假債券ノ毀損又ハ滅失シタル場合ニ於テハ會社ハ其認定ニ依リ毀損セル債券利札又ハ假債券ニ對シテハ之ト引換抹消ノ上若シ又滅失セル債券利札又ハ假債券ニ對シテハ其代用トシテ同一文言日附及種類ノ新券ヲ發行スルコトヲ得、此場合ニ於テ受託會社之ニ證明ヲ附シ立會署名者之ニ立會署名シテ交付スルモノトス。

斯ル再發行ヲ申請スル者ハ債券利札又ハ假債券ノ毀損滅失ニ付會社、受託會社及立會署名者、財務擔當者ニ對シテ之等ノ者ノ認定ニ從ヒ各自ノ満足スル證據ヲ提出スベキモノニシテ且此等ノ者等ノ認定ニ從ヒ各自ノ満足スル保證ヲ立ツベキモノトシ且前記ノ者等又ハ其何レカ猶豫メ定メタル其他ノ相當ノ規定ニ從ヒ又相當ノ費用ヲ支拂フ可キモノトス。

### 第二章 社債ノ發行

本書ガ作成セラレタル後ハ會社ハ總額金七百六十五萬弗ノ社債券ヲ作成シ之ヲ受託會社ニ交付スルコトヲ得、本證書ガ登記所ニ提出セラレ日本法律ニ基キ債券及利札所持者ノ爲メニ本證書ノ記載通り

信託的ニ受託會社ニ對シニ番抵當權ガ設定登記セラレタル時ハ受託會社ハ此等ノ債券ニ署名ヲ爲シ之ヲ立會署名者ニ交付ス可シ。

受託會社ノ證明アル債券ヲ立會署名者ガ受取りタルトキハ斯ル證明及抵當權ノ設定登記ニ關シ取調べヲ爲スコトナク立會署名者ハ之ニ立會署名ヲ爲シテ會社ノ社長、又ハ後任者又ハ其他ノ代表取締役ノ署名セル會社ヨリノ書面ニヨリ要求通りニ此等ノ債券ヲ交付スルモノトス。

### 第三章 社債手取金ノ使途

會社ハ前記社債金元金七百六十五萬弗ノ手取金ヲ必要ニ應ジ左ノ如ク使用スルコトヲ約ス。

- (一) 會社ハ手取金ノ其受領ト同時ニ其受領當日ニ現存スル銀行借入金ノ少クトモ元金三百萬圓以上ヲ辯濟スベシ右手取金受領後九十日以内ニ會社ハ右受領ノ日ニ現存スル各種銀行借入金ニ付相當ノ詳細ニ示シ且上記ノ通りニ元金三百萬圓ニ到ル迄辯濟シタルコトヲ記載セル會社ノ社長又ハ其他ノ代表取締役自身ノ署名セル證明書ヲ受託會社ニ提出シ且受託會社ノ要求アルトキハ其支拂ノ證據ヲ提出ス可シ。
- (二) 會社ハ右手取金ノ殘額ヲ會社ノ其他ノ目的ニ使用スベシ。

第四章 社債ノ償還

期償還ノ時 第一條 會社ハ自己ノ選擇ニ從ヒ滿期前利息支拂日ニ於テ何時ニテモ其當時ノ未償還社債ノ全部又ハ一部ヲ本章第二條所定ノ如ク少クトモ三十日ノ廣告ニ依ル豫告ヲ以テ額面及未拂ノ經過利子（償還日迄）ノ合算額ヲ以テ償還スルコトヲ得

斯ル額面金額及未拂ノ經過利子ノ合算額ヲ以下社債ノ償還價格トシテ表示スルコトアル可シ。

續還ノ手 第二條 會社ガ滿期日前ニ償還權ヲ行使セントスル時ハ斯ル償還日ヨリ少クトモ四十五日以前ニ於テ

昭和二年十二月一日ニ於ケル品位量目ノ有スル亞米利加合衆國ノ金貨弗ヲ以テ償還セラルベキ償還價格ヲ財務擔當者ニ供託ス可シ。

茲ニ財務擔當者ハ償還日（但週ノ何レノ日ナルヲ問ハズ各場合ニ）以前少クトモ一週一回引續キ四週間ニ亘リ償還公告（第一回目ノ公告ハ償還以前少クトモ三十日前六十日以内ニ於テ之ヲ爲ス）ヲ紐育市マンハツタン區ニ於テ發刊シ一般ニ頒布セラルル日刊新聞ニ爲シ上記公告期間中少トモ一回米國イリノイス州市俄古市、カリフォルニア州桑港市及英國倫敦市ノ各市ニ於テ發刊セラレ一般ニ頒布セラルル日刊新聞ニ之ガ公告ヲ爲ス可シ但シ日米間戰時狀態ニ在ル場合ハ倫敦市ニ於テ一回ノ代リニ前記公告期間中一週間一回（但週ノ何レノ日タルヲ問ハズ）引續キ四週間之ヲ爲スモノトス。

會社ハ斯ル公告ヲ上記公告期間中少クトモ一回日本ノ官報及日本東京市ニ於テ發刊スル新聞ニシテ會社ノ定款ニ基ク公告ノ方法ニ用ヒラルルモノニ之ヲ爲シ其他ノ法律ガ要求スル公告ヲ爲ス可シ。

斯ル公告ニハ會社ノ滿期日前ノ償還權ノ行使償還日及一部償還ノ場合ニハ償還セラルル債券番號（但此番號ハ立會署名者ガ抽籤ニヨリ定ム）及償還價格並ニ下記記載ノ如キ元金ノミヲ償還スル場合ハ其ノ旨及其他償還セラルヘキ債券ニ對シテノ償還日以後利息ヲ附セサルコト債券ハ米國紐育州紐育市マンハツタン區デイロン・リード・エンド・コンパニーノ本店又ハ財務擔當者トシテノ承繼人ノ本店或ハ債券所持人ノ選擇ニ從ヒ英國倫敦市ジェー・ヘンリー・シユレーダー・エンド・コンパニー又其承繼人ノ本店ニ於テ支拂ヲ受クル爲メ呈示ス可キコトヲ記載ス可キモノトス公告ヲ爲シ償還ス可キ債券ヲ指定シタル時ハ斯ル債券ハ公告ニヨリ定メラレタル日ニ於テ償還價格ヲ以テ償還セラル可キモノ也。

償還迄又ハ其以後ニ滿期トナル一切ノ利札ハ公告ノ趣旨ニ從ヒ債券ガ提出サレタル時ニ償還價格ニヨリテノミ償還サルモノ也。

但シ償還當籤シタル債券ニシテ償還ノ爲メノ呈示ニ際シ右償還日ニ支拂期トナル利札ヲ缺キ居ル

トキハ右債券ニ對シテハ其元金額ノミ支拂ヒ利札ニ依リ表示セラルル利息ニシテ前記通知ニ特定セル償還日又ハ其以前ニ支拂期到來シ而モ未拂ニ屬スルモノハ其利札文言ニ從ヒ其所持人ニ對シ各別ニ支拂ハルルモノトス斯ク特定セル償還日以後會社ガ前記規定ノ如ク償還サルベキ債券ノ償還價格ヲ供託シタルトキハ其債券ニ對スル利息ハ債券利札又ハ本書ニ別段ノ定メアル場合ト雖モ其ノ時ヲ以テ計算ヲ止ムルモノトシ會社及其當時ノ工場財團及其他本書ニ基キ受託會社ニ供託サレ質入レ又ハ讓渡サレタル一切ノ物件及權利ハ右債券及利札ニ關スル限り擔保ノ責ヨリ除カルルモノニシテ右債券及利札ハ財務擔當者ニ供託シタル金額ヨリ支拂ヲ受クル目的ノ外存在セザルモノト看做サルルモノトス。

斯ク財務擔當者ニ供託シタル金額中ヨリ財務擔當者ハ何時ニテモ英國倫敦市ジエー・ヘンリー・シユレーダー・エンド・コンパニーノ店舗ニ於テ償還ヲ受クル爲メニ呈示セラルヘキ償還債券ノ支拂ニ充當スベキ英國貨幣ノ金額ヲ該ジエー・ヘンリー・シユレーダー・エンド・コンパニーニ提供ス可シ、右金額ノ送金費用及英貨壹磅カ四・八六六五弗ノ換算率以上トナリタル場合ノ爲替差金ハ請求アリ次第財務擔當者ニ補償ス可シ。

償還資金ノ性質 第三條 上記ノ如ク償還セラルヘキ債券カ特定スル迄ハ其爲メニ會社ニヨリテ供託セラレタル一切ノ供託金ハ一切ノ償還社債ノ擔保トシテ保持セラル然レ共一度償還ス可キ債券特定サレタル後ハ斯ル

特定ノ債券ノ償還ノ爲メノ信託資金トシテ保有セラル可シ。

償還資金ノ利息 第四條 會社ハ又ハ被供託者ハ償還ノ爲メ供託金ヨリ生ズル利息ハ如何ナル債券所持人ニ對シテモ支拂ノ義務ナシ。

第五條 第四章ノ規定ニヨリ償還セラル可キ一切ノ債券並ニ添付利札ハ即時抹消セラルヘク且償還濟債券ニ付テハ再發行セザルモノトス。

償還債券ノ處理 抹消債券及利札ハ之ヲ立會署名者ニ交付シ立會署名者ハ之ヲ受託會社ニ交付ス受託會社ハ會社ノ書面ニ依ル要求ニ應シ右債券及利札ヲ會社ニ引渡スモノトス。

### 第五章 減債基金

減債基金 第一條 會社ハ減債基金ヲ設立シ此方法ニヨリテ社債ノ償還ヲ爲ス可シ。但シ以下本章ノ規定ニ從フモノトス。

基金支拂ノ方法 第二條 會社ハ減債基金勘定トシテ特定メラレタル日ニ於テ下記金額ノ支拂ヲ爲スヘシ。

(イ) 昭和二年十二月三十一日迄及昭和三年六月一日同十二月一日昭和四年六月一日ニ毎回金七萬五千弗也。

(ロ) 昭和四年十二月一日及其ノ後昭和十二年六月一日ニ至ル迄毎年六月一日及十二月一日ニ毎回金

十萬弗也。

(ハ) 昭和十二年十二月一日及其後昭和二十七年六月一日迄毎年六月一日及十二月一日ニ毎回金十九萬二千弗也。

但シ會社ハ如何ナル場合ト雖モ本社債ノ未償還額ノ總額ヲ超過スル金額ノ減債基金ヲ支拂ハシメラルルコトナシ。

又財務擔當者ノ手許ニ減債基金勘定ノ剩餘金アルトキハ其額タケ右所定ノ支拂額ヨリ控除スヘシ(右剩餘金ハ償還社債ノ支拂ノ爲メニ保維セラレアラサルコトヲ要ス)

總テノ減債基金ハ昭和二年十二月一日現在ニ於ケル品位量目ノ有スル亜米利加合衆國ノ金貨弗ヲ以テ財務擔當者ニ對シ拂込ムモノトス減債基金勘定トシテ拂込マレタル金額中ヨリ財務擔當者ハ減債基金ノ運用ニヨリ償還セラルヘキ社債ニシテ英國ロンドン市ジエー・ヘンリー・シユレーダー・エンド・コンパニー店舗ニ於テ償還價格ヲ英國貨幣ニヨリテ支拂フニ要スル金員ヲ該ジエー・ヘンリー・シユレーダー・エンド・コンパニーニ分配ス可シ。

右金額ノ送金費用及英貨一磅カ四・八六六五弗ノ換算率以上トナリタル場合ノ爲替差金ハ請求アリ次第會社ヨリ財務擔當者ニ補償スヘシ、爲替利得金ハ會社ノ所得トス。

第三條 財務擔當者ハ各減債基金勘定日ト直後ノ利息支拂日ニ先ダツ四十五日目トノ間ノ期間ニ於テ

減債基金トシテ自己ニ供託サレアル金員(即チ右減債基金勘定日ニ供託サレタル金員並ニ其前ニ供託サレタルモノニシテ償還當籤ノ債券ノ支拂ノ爲メニ引當テラレ居ラザルモノ)ヲ債券ノ買入ニ使用スベシ。

右買入レハ券面額及經過利子ノ合計額以内ニテ且元金總額ガ右供託サレタル金額ヲ超過セザル範圍ニ於テ公ノ市場又ハ公私ノ賣買ニ於テ財務擔當者ノ考フル所ニ從フテ爲ス可シ。

昭和四年十二月一日ニ至ル期間中財務擔當者カ何レノ減債基金支拂日ト直後ノ利息支拂日直前四十五日目迄ニ總額七萬五千弗ノ社債券ヲ元金ニ經過利子ヲ加算シタル額又ハ其以内ニテ買取ルコトヲ得ザリシ場合又其後昭和十二年十二月一日ニ至ル期間中何レノ減債基金支拂日ト直後ノ利息支拂日直前四十五日目迄ニ總額十萬弗ノ社債券ヲ元金ニ經過利子ヲ加算シタル額又ハ其以内ニテ買取ルコトヲ得ザリシ場合及其後昭和二十七年六月一日ニ至ル期間中何レノ減債基金支拂日ト直後ノ利息支拂日直前四十五日目迄ニ總額「十九萬二千弗」ノ社債券ヲ元金ニ經過利子ヲ加算シタル額又ハ其以内ニテ買取ルコトヲ得ザリシ場合ニ財務擔當者ハ直チニ此由ヲ立會署名者ニ書面ヲ以テ通知シ右期間中ニ買取リタル額面額ヲ指示シ立會署名者ハ其欲スル方法ヲ以テ抽籤ニ依リ直後ノ利息支拂日ニ社債ノ償還價格ヲ以テ償還セラルヘキ社債券ヲ確定スヘシ。

斯ル社債ノ額面額ハ右利息支拂日ニ終ル六箇月間總額七萬五千弗、十萬弗又ハ十九萬二千弗(各

其場合ニ依ルノ社債ヲ償却スルニ必要ナルモノタルヘシ、立會署名者ハ償還ニ當籤セル社債券ヲ財務擔當者及會社ニ書面ヲ以テ通知ス可シ茲ニ於テ財務擔當者ハ本書第四章ノ規定ニヨリ社債償還ニツキナス可キ償還公告ヲナスヘシ。

前記ノ償還公告カ爲サレタルトキハ償還確定シタル債券ハ公告所定ノ日ニ於テ償還價格ヲ以テ償還セラルヘシ右公告ノ趣旨ニ從ヒ債券ノ呈示ヲ爲シ償還期日又ハ其以後ニ滿期到來スル利札全部ト共ニ之ヲ提出シタルトキハ減債基金ノ金額ヨリ償還價格ヲ以テ支拂ハル可キナリ然シ償還ヲ受クル爲メ提出サレシ社債ガ經過利子ヲ表示スル利札ノ添付ナキ時ハ元金ノミヲ支拂ヒ利子ヲ支拂ハズ。斯ク償還決定トナリシ債券ニハ償還日以後ノ利息ヲ附セス而シテ債券面利札面又ハ本書ニ之レト異ナル定メアリトスルモ會社又ハ工場財團及ビ社債擔保トシテ本證書ニ基キ受託會社ニ書入レ質入サレタル他ノ擔保ハ斯ル當籤セル債券ノ元利ニ對シ責任又ハ効果ヲ生ゼザルモノトス而シテ減債基金ヨリ支拂フ目的以外ニハ斯ル社債ハ未償還社債トシテ推定セラルルコトナシ、千九百五十二年六月一日期日ノ減債基金勘定ニ付財務擔當者ニ供託サレタル金員ニシテ債券ノ滿期前其ノ買入レニ使用セザリシモノハ滿期ニ於テ其元本支拂ニ充當スヘシ。

本條ノ規定ニ基キ買入又ハ償還サレタル債券ニ對スル一切ノ經過利息ハ第一ニ減債基金勘定ヨリ支拂フモノトス但シ會社ハ財務擔當者ノ要求アルトキハ一切ノ利息支拂ニアテタル減債基金ヲ補充

スベク斯クシテ減債基金勘定ハ結局元金ノ支拂ニノミ使用スルモノトシ此ノ目的ノ爲會社ハ買入レ又ハ償還サレタル債券ニ對スル利息ノ支拂ニ充分ナル殘ヲ財務擔當者ノ手許ニ留メ置クベシ。

第四條 會社カ減債基金勘定トシテ拂込ミタル一切ノ金額ハ上記ノ如ク債券ノ買入レニ使用セラルルカ又ハ上記ノ如ク償還セラルヘキ債券カ特定スル迄ハ一切ノ未償還社債ノ擔保タル供託金トシテ保有セラルルモ一度償還債券カ確定シタル後ハ斯ル特定ノ社債ノ償還ノタメノ信託資金トシテ保有セラル可キモノナリ。

第五條 會社及被供託者ハ減債基金勘定ニ拂込マレタル金額ヨリ生スル利息ニ付キテハ社債權者ニ對シ何等支拂責任ナキモノトス。

第六條 第五章ノ各條項ニ從ヒテ買入レラレ又ハ償還シ支拂ハレタル債券ハ直チニ抹消シ再度發行ス可カラス、抹消債券利札ハ立會署名者ニ交付シ、立會署名者ハ之ヲ受託會社ニ交付スヘシ。

受託會社ハ會社ノ書面ニ依ル請求ニ應ジ斯ル債券ヲ會社ニ交付スルモノトス。

### 第六章 會社ノ特約

會社ハ受託會社及當時ノ債券並ニ利札所持人ノ爲メ受託會社ト左記事項ヲ約諾ス。

第一條 會社ハ債券、利札及本書中記載ノ期日場所及方法ニ依リ之等ノモノニ記載サレタル趣旨及意



義ニ從ヒ適法正確ニ社債元利金ノ拂渡ヲナス其ノ戰時タルト平時タルトヲ問ハス債券及利札所持人ガ日本政府ト親善關係ニアル國家ノ國籍ヲ有スルト否トヲ問ハス右所持人ノ國籍又ハ住所ニ關シ何等ノ宣言ノ宣言書ヲ徵シ若クハ取調ヲナスコトナク社債權者ガ日本ニ居住セザル限り債券ニ對スルト又夫レニヨリ證明サルル債務ニ對スルト夫レヲ擔保スル財產ニ對スルト又ハ社債權者ノ爲メ設定サレタル權利ニ對スルト社債ヨリ生スル利子收入其他之ニ對スル拂渡ニ對スルト又ハ社債券ヲ所有スルノ理由ニヨリ社債權者ニ對スルト本書規定ニヨリ生スル權利ヲ享有スル者ニ對スルト又ハ其他如何ナル場合ニ依ルトヲ問ハズ日本帝國行政團體又ハ稅務當局ノ現在又ハ將來ノ法令ニ基キ現ニ課セラルルカ又ハ今後課セラルベキ税金ニ對スル控除ヲ爲スコトナシ斯ル税金ハ會社ニ於テ支拂フベキコトヲ約ス。

第二條 會社ハ滿期後未拂利子ノ累積ヲ避クル爲メ直接又ハ間接ニ利子支拂期間ヲ延長シ又ハ延長ニ同意スルガ如キコトヲ爲サザルハ勿論直接ニモ間接ニモ利札ヲ買取リ又ハ之ヲ利札ノ儘資金トシテ用ヒ或ハ其他ノ方法ニ依リ利子支拂ヲ延期スル如キ協定ノ當事者トナリ又ハ之ニ同意スルガ如キコトヲ爲ス可カラズ。

第三條 會社ハ債券ノ殘存スル間其元利金支拂ノ爲メ亞米利加合衆國紐育州紐育市マンハツタン區所在「デイロン・リード・エンド・コンパニー」本店內及英國倫敦市所在「ジェー・ヘンリー・シユ

レーター・エンド・コンパニー」本店內ニ事務所又ハ代理人ヲ設置ス且立會署名及ビ毀損滅失債券ノ取扱ノ爲メ又ハ社債權者集會ニ於ケル投票資格ヲ得ル爲メニスル債券ノ供託並ニ代理權限ヲ證スル社債權者ノ委任狀ノ供託（第十二章第一條ノ規定ニ依ル）ノ爲前記マンハツタン區所在「ナシヨナル・パーク・バンク」本店內ニ適當ノ施設ヲ爲ス。

第四條 會社ハ昭和二年十二月一日現在ノ品位及量目又ハ之ト同様ノ亞米利加合衆國金貨弗ヲ以テ各利息支拂期日ノ少クトモ十五日前ニ右支拂日ニ支拂ハルヘキ利息ノ拂渡シニ充分ナル資金ヲ、又昭和二十七年十二月一日ノ少クトモ十五日前ニ期日ニ拂渡サルベキ殘存社債元本ノ拂渡ニ充分ナル資金（但シ其目的ニ使用サルル金員ニシテ未タ財務擔當者ニ供託サレ居サル範圍ノモノ）ヲ財務擔當者ニ供託スベキコトヲ約諾ス、財務擔當者ハ右會社ノ供託金ノ中ヨリ「ジェー・ヘンリー・シユレーター・エンド・コンパニー」ニ對シ英國倫敦市同店舖ニ於テ支拂ノ爲メ呈示サレタル債券及利札ニ對シ英金貨ヲ以テ拂渡スニ必要ナル金員ヲ分配ス。

右送金費用及金貨壹磅ニ對スル換算率タル四・八六六五弗以上ノ爲替差金ハ財務擔當者ノ要求ニ應ジ會社之ヲ補償スベキモノトシ爲替益金ハ會社ノ所得トス。

第五條 會社ハ左記事項ヲ約諾ス。

會社ハ現在工場財團ノ完全ナル所有權ヲ有ス。會社ハ右財團ヲ本書規定ノ方法ニ依リ受託會社ニ

對シ抵當權ヲ設定スルニ付適法ノ權能ヲ有ス會社ハ其當時存在スル工場財團ニ對シ完全ナル權利ヲ有シ且之ヲ維持ス會社ハ受託會社及社債權者ノ爲凡テノ者ノ請求ニ對シ右財團ヲ保有シ之ヲ擁護ス其他會社ハ其有スル利權ノ許可條件ヲ完全ニ遵守ス可シ。

會社ハ其財產ノ如何ナルモノノ上ニモ本書ニ基キ設定サレタル抵當權ノ外何等ノ抵當權其ノ他ノ負擔ナク右財產ニ對スル税金其他ノ課金ノ支拂ノ滯納ナク又如何ナル契約ノ條項ニモ違反ナキコトヲ誓約ス。

第六條 會社ハ債券發行ニ先タチ本書ヲ提出シ之ニ基キ設定サレタル抵當權ノ登記ヲ受ケ債券及利札ニ對シ會社ノ支拂フヘキ金額其他本書規定ニ基キ支拂ハルヘキ金額ノ支拂其他本書ニ基ク條項履行ノ保證ノ爲メ本書ニ基ク抵當權ヲ設定スル爲メ法律ノ要求スル其他一切ノ行爲ヲ爲スヘキコトヲ約諾ス會社ハ財務擔當者ノ要求スル時及方法ニ於テ自己ノ費用ヲ以テ本書第六章第十三條及第九章ニ規定スル會社合併及工場財團ノ賣買讓渡ニ關スル制限及第六章第十四條ニ規定スル會社財產ヲ擔保トスル今後ノ社債發行ニ關スル制限及本書規定ノ條件中財務擔當者ノ指定スルモノニ付廣告ヲ爲スベキコトヲ約諾ス。

會社ハ本社債金拂込濟ノ通知ヲ日本東京ノ會社ニ於テ受ケタル後二週間以内ニ本店所在地タル日本東京市ニ於テ社債總額、利率及元利金支拂方法及期限等法律ノ要求スル一切ノ事項ニ付會社ノ本支店所在地ニ於テ登記ヲ爲スコシ會社ハ本書ヲ提出シテナス抵當權設定及社債ノ登記及新タニ財團ニ屬セシムル變更登記ニ關スル一切ノ登録稅及費用ヲ支拂フベシ會社ハ本書並ニ本書ニ基ク抵當權又ハ債券利札ニ關シ課セラルル印紙稅其他ノ税金負擔ヲ支拂フ可シ。

第七條 會社ハ各事業年度後九十日以内ニ事業年度中ニ會社カ取得シタル各種ノ財產及權利ニシテ工場財團ニ屬スルモノニ關シ取換、更新、擴張、改良又ハ附加シタル財產及權利ニ付（通行權及浸水地ニ關スル權利ヲモ含ム）其性質、所在、用法及會社ニ對スル價格ヲ相當詳細ニ示シタル證明書ヲ作成シ社長又ハ他ノ代表取締役之ニ署名シ且財務擔當者ノ認ムル顧問技師ノ證明ヲ附シ之ヲ受託會社及財務擔當者ニ提出スベキコトヲ約諾ス。

各營業年度末ヨリ四十五日間内ニ上記ノ證明ニ關聯スル一切ノ事項ノ詳細ナル報告書ヲ顧問技師ニ會社ハ提供スルモノトス。

前記ノ取換、更新、擴張、改良又ハ附加シタルモノニ關スル右技師ノ決定ハ會社ニ對シ絶對的證據トナル可キモノナリ、會社ハ各事業年度後百二十日以内ニ其年度内ニ會社カ取得シ又ハ工場財團ニ屬スルモノニ關シ取換、更新、擴張、改良又ハ附加シタル一切ノ財產及權利（通行權及浸水地ニ關スル權利ヲモ含ム）ヲ本書ニ基キ設定サレタル抵當權ノ目的トスル爲メ各場合ニ應ジ工場財團ニ線入ルルモノトシ其爲メニ法律ノ必要トスル追加證書ヲ受託會社ヲ相手方トシテ作成シ且登記其

他ノ方法ニヨリ手續ヲ爲スベキコトヲ約諾ス。且會社ハ財務擔當者ニ對シ前記財産ガ工場財團ニ追加セラレタ本書ニ基ク抵當權ノ一人又ハ他ニ適法ニ繰入レラレタルコト（但前記ノ條件ニテ）ニ付財務擔當者ノ認ムル法律顧問ノ意見書ヲ提出スベシ。

上記ノ中津川第一送電線同ジク第二送電線、中津川第一地中配電線、中津川第一取入口電話線、中津川第二取入口電話線、中津川第二及第三電話線ナル送電配電電話ノ線ハ工場財團中ノ土地止又ハ有効ナル契約ノ下ニ架設セラレ居リ信託證書ニ記載サレタル社債及其利札其他ノ支拂期ニ於ケル支拂擔保ノ爲メ此等ノ會社ノ權利ヲ擔保ニ差入ルル様有効ナル承諾ヲ其關係者ヨリ取得スルニ最大ノ努力ヲ直チニナス可キコトヲ約諾ス。

上記ノ承諾ヲ全部得ル迄ハ會社ハ各營業年度ノ終リヨリ四十五日以内ニ受託會社及財務擔當者ニ何程上記承諾ヲ得タルカノ進行程度ヲ相當詳細ニ示シ財務擔當者ノ承認スル技師ノ證明ヲ附シタル會社ノ社長又ハ他ノ代表取締役ノ證明ノ署名ヲ附シタル報告書ヲ提出ス可シ。

會社ハ營業年度終了後九十日以内ニ其年度内ニ於テ承諾ヲ得ラレタル部分ノ諸線ヲ抵當權ノ目的物中ニ法律ノ手續ニヨリ追加スベキモノトス（尙茲ニ通行權トハ線ノ存在ヲ適法トスル其部分ノ土地所有權地上權賃借權ノ意ナリ）上記諸線ノ通行權ノ契約ガ滿期トナリ其更新延期ヲナシ得ザルカ工場財團中ニ包含サレタル送電線、配電線又ハ電話線ノ一部ノ通行權ヲ保維スルヲ得ザル如キ行

爲ヲナサレタル時ハ會社ハ直チニ斯ル通行權ヲ收用スル手續ヲナシ以テ土地ノ所有ヲナス可シ。

但シ財務擔當者ガ認ムル顧問技師ガ斯ル通行權ハ會社業務ノ能率ニ何等必要ナキモノナルコトヲ受託會社及財務擔當者ニ證明シタルトキハ此限りニ非ズ。

工場財團中ニ現在又ハ將來含マレシ送電線、配電線、電話線ノ保維ニ關スル通行權ヲ獲得シタル時ハ直チニ法律ノ許ス限リ登記其他ノ方法ニヨリ受託會社ト契約シテ本信託證書ニ基ク工場財團中ニ包含セシム可シ。

此等ノ送電線、電話線、配電線ニ關シ會社ハ其通行權契約ヲ現存ノモノモ將來ノモノモ之レヲ保持更新維持スルニ必要ナル一切ノ行爲ヲナシ一切ノ支拂ヲナスベキモノトス而シテ斯ル契約ガ消滅スル如キ如何ナル怠慢モナス可ラズ但シ會社ノ業務能率ニ何等害ナキコトヲ證明スル財務擔當者ノ認ムル顧問技師ノ證明書ヲ附シ受託會社及財務擔當者ニ書面ヲ以テ十五日間ノ豫告ヲナスコトニヨリテ斯ル契約ヲ消滅セシメ得ルモノトス。

第八條 會社ハ本書ニ基キ設定サレタル抵當權ハ工場財團上第一順位ノ抵當權ナルコト此抵當權ハ常ニ其當時存在スル「工場財團」並ニ之ニ關シ取換、更新、擴張、改良又ハ附加シタルモノ並ニ會社ガ現在又ハ將來取得シ本信託證書ノ條件ニ依リ工場財團ニ附加セラレル財産及權利ニ對スル（前記ノ如キ）抵當權トシテ保有スベキコトヲ約諾ス會社ハ如何ナル場合ト雖モ此抵當權以外ニハ本書ニ基

キ設定スレタル抵當權ト同一又ハ優先ノ効力アル權利負擔ヲ工場財團並ニ受託會社ニ預入レ賃入レセシ其他ノ擔保財產及之レヨリ生ズル收入利益ノ上ニ任意ニ設定シ又ハ設定セシメラルルコトナシ又會社ハ工場財團ノ全部又ハ一部又ハ之レヨリ生ズル收入及利益又ハ右工場財團ニ關シ又ハ本書規定ニ依リ受託會社債券利札所持人ノ有スル權利ニ對スル一切ノ税金及官廳ノ課スル諸費ヲ支拂ヒ且技術者職工其他ノ者ノ請求權ニシテ未拂ノトキ法律上前記抵當權及債券利札ニ關スル其他ノ擔保權ニ先ダテ又ハ之ト同等ノ順位ニ於テ支拂ハルルガ如キモノヲ支拂ヒ解決スベシ、又會社ハ其費用ヲ以テ受託會社及凡テノ債券、利札所持人ノ爲メ前記抵當權ノ優先的權利ヲ保護スルニ必要ナル凡テノ行爲ヲ爲ス可シ但シ本條ノ規定アルモ受託會社ニ於テ債券及利札ニ對スル擔保カ實質上危險ナク又阻害セラレズトノ意見ヲ有スルトキハ會社ハ前記ノ税金賦課又ハ請求ニ對シ抗爭スルコトヲ妨グズ。

第九條 會社ハ本書ニ依リ抵當ニ入レラレタル又ハ斯ク要求セラレタル又ハ會社ガ今後受託會社ニ對シ抵當權ヲ設定スル義務生ジタル一切ノ財產、利權及權利並ニ受託會社ニ質入レ書入レスル其他ノ擔保物ヲ受託會社ニ對シ更ニ確實ニシ且ツ會社ガ認定スベク約定シタル抵當權及其他ノ擔保權ヲ保護シ保存スル爲メ受託會社及財務擔當者又ハ其一ノ要求スル方法ニ依リ受託會社又ハ財務擔當者各個人ノ要求スル法律上ノ保證書ヲ作成交付シ又ハ作成交付セシム可キコトヲ約諾ス。

第十條 會社ハ努メテ自己ノ存續及現ニ有シ又ハ將來取得スル權利特權及利權許可ヲ保有シ又前記利權ノ許可條件ヲ遵守シ其當時存在スル工場財團ノ全部又ハ一部ニ適用サルル國家ノ統治、執行、行政又ハ司法機關ノ一切ノ行爲、規定、命令及指揮ヲ遵守スベキコトヲ約諾ス、但シ右行爲、規定、命令及指揮ニ付抗爭スルコトヲ得又右抗爭ノ繼續中ハ受託會社ニ於テ之レニ依リ實質上債券及利札ニ對スル擔保力ヲ危險ナラシメズ又阻害セズトノ意見ヲ有スルトキハ右異議ヲ留メタル事項ノ履行ヲ見合ハスコトヲ得、會社ハ任意ニ其營業ノ權利ヲ消滅シ又ハ其運轉ヲ制限シ以テ債券又ハ利札ニ對スル支拂ヲ阻害スルガ如キ行爲ヲ爲サシム可カラズ。

會社ハ東京電燈株式會社ト締結セル大正十一年十二月一日附並ビニ同十三年六月二十八日附ノ二個ノ契約書ニ基ク義務ヲ誠實ニ履行スベク且其條件及右兩契約ノ更新ニ關スル昭和二年十一月二十五日附證書ノ一切ノ條件ヲ遵守ス可シ（右契約及證書ニ付キテハ本書緒言中ニ更ニ詳細ニ記載シアリ）財務擔當者ノ承認アル顧問技師ノ認諾アルニ非レバ會社又ハ受託會社ハ前記契約書或ハ其更新ニ關スル證書ノ條項ノ變更修正ヲ爲シ又ハ之ヲ同意シ又ハ條項ヲ拋棄スルコトヲ得ズ。上記ノ變更修正又ハ拋棄ハ當時時間ニ於テ書面ニヨリ双方署名シタルモノヲ以テ證シヨクモノニシテ締結後直チニ會社ハ此書面ヲ受託會社ニ該書面ニ基ク會社ノ一切ノ權利ノ讓渡書ト共ニ交付ス可シ且ツ會社以外ノ當事者ヨリ右讓渡承認書ヲモ得テ交付ス可シ會社ハ前記契約期間ノ滿了ニ先ダテ

其契約ノ生命ヲ延長スル契約ヲ締結スベシ其契約ハ前記兩契約更新ニ關スル證書ニ依リ定メラレタル性質ノモノタルベシ而シテ會社ハ斯ル契約ニ基ク義務ヲ誠實ニ履行シ其條項ヲ遵守スベシ。

受託會社ハ斯ル契約ノ効力發生ニ付自己ノ作成又ハ同意ヲ必要トスル時ハ之ヲ作成シ又同意スベシ會社ハ斯ル契約書ヲ作成シタルトキハ直チニ其原本並ニ其契約ニ基ク權利受託會社ニ對スル讓渡證及右讓渡ニ對スル東京電燈株式會社ノ同意書ヲ受託會社ニ交付スベシ財務擔當者ノ認ムル顧問技師ノ認諾アルニ非レバ會社又ハ受託會社ハ斯ル契約書ノ條項ヲ變更修正シ又ハ之ニ同意シ又ハ條項ヲ拋棄スルコトヲ得ズ。

上記ノ變更修正又ハ拋棄ハ當事者間ニ於テ書面ニヨリ双方署名シタルモノヲ以テ證シテシテ縮結後直チニ會社ハ此書面ヲ受託會社ニ該書面ニ基ク會社ノ一切ノ權利ノ讓渡書ト共ニ交付ス可シ。

且ツ會社以外ノ當事者ヨリ右讓渡承認書ヲモ得テ交付ス可シ。

第十一條 會社ハ左記事項ヲ約定ス、會社ハ工場財團ニ屬スルト否トヲ問ハズ其一切ノ財産ニ對シ充分ナル運轉力ヲ有セシメ且之レヲ修繕シテ維持シ保有ス可シ會社ハ其全營業系統ヲ通シ最高ノ運轉能力ヲ充分ニ維持シ得ル如キ機械及施設物ヲ備付クベシ會社ハ隨時其朽廢シ毀損磨滅シタル建設物又ハ機械器具ヲ新タニシ又ハ取換ヘ以テ債券及利札ニ對スル支拂能力及會社ノ營業能力ヲ充分ニ維持保有ス可シ。

會社ハ各事業年度ニ於テ其年中本第十一條ニ記載セル標準ニ從ヒ其財産ノ維持ニ要シタル一切ノ費用ヲ右年度ノ營業費用中ニ繰入レ且昭和二十一年十一月三十日ニ終了スル事業年度以降各事業年度ニ於テ會社ハ其年度ノ純收入中ヨリ法定積立金、配當金又ハ賞與、其他ノ形式ニ依ル特別報酬ノ制當ヲ爲ス前ニ減價銷却積立金トシテ計上セラルベキ金額ハ「シツクス・パーセント・アニユアル・シンキング・フアンド・メソツド」ト稱スル方法ニ基キ「シート・ボ・スター・エンド・アンダートン・インコーポレーテツド」ノ作成ニ係ル減價銷却表ニ從ヒ決定スベシ、昭和二十二年五月三十一日現在貸借對照表（ハスキ・エンド・セルス事務所ノ證明ニ係ル）ニ記載セル會社ノ減價銷却ヲ要スル財産全部ニ適用サルモノトス、右表ハ前記期日以後ニ於テ會社ガ建設ヲ完了シ又ハ取得スル一切ノ財産ニ對シテモ亦同斷ナリ會社ハ各營業年度毎ニ其年度ノ法定積立金ヲ右銷却積立トシテノ計算ニ入ルルコトヲ得。

財務擔當者ガ昭和二十二年十二月一日以後何時ニテモ會社ニ對シテ財務擔當者ノ判斷ニ於テ斯ル表ガ不正確ナルコト又ハ會社ニ斯クセヨト通知シタル時ハ會社ハ何時ニテモ財務擔當者ニヨリ承認サレタル會計士ノ意見ニ於テ會社ノソレト同一程度ニスル迄ノ追加償却ヲ爲スベキモノトス。

第十二條 會社ハ其當時存在スル工場財團ニ付火災ニ依ル損害其他日本ニ於ケル同種ノ營業ニ從事ス

ル相當ナル會社ガ通常保險ニ附スベキ事故ニ對シ受託會社ニ満足ナル有力ナル保險會社ト右財産ノ保險可能價格ノ金額ノ保險契約ヲ爲スベキコトヲ約諾ス。

保險證券ニ基ク損害ノ填補ハ特約ヲ以テ受託會社ニ對シ支拂ハルベキモノトナシ且其他工場財團ニ關スルモノニ付會社ガ取得スル權利アル保險金ハ一切同様ニ支拂ハルベキモノトナスベシ。

右保險證券ハ一切受託會社ノ要求ニ應ジ受託會社ニ預入ルベシ本證書作成後會社ハ直チニ右保險證券ヲ表及ビ保險金ノ支拂ハ前記ノ如ク支拂ハルベキ様取計ラヒタル旨記載シタル書面ヲ作リ會社ノ社長又ハ其他ノ代表取締役ノ署名ヲ附シ之ヲ會社ニ交付スベシ。

爾後右工場財團ニ屬スルモノニ付追加又ハ別個ノ保險證券ノ發行アリタルトキハ會社ハ右追加又ハ別個ノ證券ニ關スル同様ノ書面ヲ受託會社ニ交付スベシ。

保險金全部(但シ爲替平準換算率ニ依ル一萬弗以下ノ支拂金ヲ除クモノトス右金額ハ受託會社ガ會社ノ書面ニ依ル要求ニ應ジ會社ニ對シ支拂スベキモノニシテ會社ハ工場財團ノ利益ヲ爲メ毀損又ハ滅失セル財産ノ取換、修繕又ハ再築其他ノ目的ニ之ヲ使用ス)ハ受託會社之ヲ受領シ債券及利札ニ對スル擔保トシテ保有スベキモノトス併

(イ) 受託會社ハ右受領セル保險金ノ中ヨリ毀損又ハ滅失セル財産ノ取換修繕又ハ再築ヲ爲メ會社ガ支出シタル費用ト同額ヲ會社ニ對シ支拂スベキモノトス。

但シ會社ニ於テ右拂渡ヲ要求スルトキハ會社ハ右費用ヲ以テ取得シタル財産ハ會社ガ所有シ且本書ニ基キ第一順位トシテ設定サレタル抵當權ノ目的物トシテ工場財團ニ繰入ラレタルコト。

(ロ) 右金額ハ本書中第八章第四條ニ於テ財團ヨリ解除サレタル財産ノ賣却代金ノ處分方法ニ關シ規定セルト同様ノ方法及條件ニヨリ之ヲ充當スルコトヲ得但シ右金額ヲ社債ノ償還ニ充當シタルトキハ其償還社債ニ對スル利息ハ會社ヨリ別ニ支拂フベク右金額中ヨリ之ガ支拂ヲ爲スベカラズ尙右金額ヲ以テ償還ヲ爲シタル場合ト雖モ減債基金勘定トシテ會社ガ支拂フベキ金額ヲ減少スルコトナシ、本第十二條ニ基キ受託會社ニ支拂ハレタル金額ニ對シ受託會社ノ附スル利息ハ會社ガ工場財團ヲ所有シ且本書所定ノ不履行事實ナキ限り會社ニ對シ之ヲ支拂フベキモノナリ會社ハ一切ノ保險證券ニ基ク保險料ヲ支拂フベシ。

第十三條 會社ハ左記ノ場合ノ外會社ノ合併ヲ爲シ又ハ當時存在スル工場財團ノ全部或ハ實質上之ト同等ノモノヲ賣買讓渡セザルベキコトヲ約諾ス。

(イ) 合併會社或ハ賣買讓渡ノ相手方ガ本書ニ基キ設定サレタル抵當權附ニテ右工場財團ヲ取得シ其當時未償還ニ屬スル本社債ノ元利金ニ付其文言ニ從フ適確ナル支拂及ビ本書並ニ追加證書ニ規定スル一切ノ條件ノ適確ナル履行ノ責ニ任ズベキコトヲ以テ右合併又ハ賣買讓渡ノ條件トシタル場合

(ロ) 右工場財團ニ付本社債擔保抵當以外ニハ本書ニ基キ設定サレタル抵當權ニ優先シ又ハ同等ノ順位ニ在ル抵當權其他ノ負擔ヲ設定セザルコトヲ以テ右合併又ハ賣買讓渡ノ條件トシタル場合  
(ハ) 第九章ニ規定スル其他ノ制限及ビ條件ニ順應シテ右合併又ハ賣買讓渡スル場合  
會社ハ前掲約定ヲ保證スル爲メ本書作成ト同時ニ工場財團所有權保存ニ關スル登記濟證ヲ受託會社ニ預入ルベシ。

其後ト雖モ隨時本書中規定スル如ク工場財團ノ一部トシテ附加シタル財産ノ登記ヲ證スル原本タル書類ヲ受託會社ニ預入ルベシ。

之等ノ書類ハ債券及利札所持人ノ爲メ受託會社ニ於テ信託的ニ之ヲ保存スルモノニシテ會社ノ合併又ハ工場財團ノ賣買讓渡ニ關シ前記書類ヲ會社ニ引渡シ又ハ會社ノ使用ニ供スベカラズ。

但シ合併又ハ賣買讓渡ニシテ本條及第九章ノ規定ニ從ヒテ爲サルル場合又ハ右合併賣買讓渡ノ手續ノ完了ト同時ニ會社ト合併シタル會社又ハ賣買讓渡ノ相手方ノ名義ニ於ケル工場財團所有權登記濟ヲ證スル原本タル書類ヲ本書規定以外ノ方法ニヨリ爲サルル合併又ハ賣買讓渡ヲ防グ方法トシテ債券及利札所持人ノ爲メ受託會社ニ預入ルル場合ハ此限リニアラズ、會社ハ一般ニ滿期到來セル債券及利札ニ對スル完全ナル支拂又ハ本書第十三章第二條ノ規定ニヨル其他ノ支拂アル迄ハ其當時存在スル工場財團ヲ本書ニ基ク抵當權ノ目的物ヨリ解放スルガ如キ行爲ヲ爲サザルコト前記抵當權ヲ

解放スルコトヲ防グ爲メ受託會社ノ要求スル行爲ヲ爲スベキコトヲ約諾ス。

第十四條 (甲) 會社ハ左記事項ヲ誓約ス

會社ハ左記ノ如キ場合ニハ會社財産ノ如何ナル部分ヲモ抵當ニ入ルルコトナシ。

即チ右抵當權設定ノ際抵當權ニ依リ擔保サルル會社債務ニシテ右抵當權ノ對價タル金額ニ依リ銷却サルルモノ以外ノ債務ノ元金總額ガ日本ノ現行法律ニ依リ工場財團ニ編入シ得ル性質ノ會社財産(斯ル財産ヲ以下「抵當可能財産」ト稱ス)ノ全部ニ付前掲第六章第十一條所定ノ計算ニ依ル減價銷却金ヲ控除シタル後ノ會社ニ對スル原價或ハ其再建設豫算額ノ中何レガ低キ數字ノモノ(何レノ場合ニ於テモ右抵當權設定前八ヶ月以内ノ日現存ノモノニ依ル)ノ三分ノ二ヲ超ユル場合  
但シ右抵當權設定ニ先ダツ十八ヶ月中ノ連續セル十二ヶ月間ニ對スル會社ノ「ファンデットトツト(固定負債)」ノ利息ニ引當テラルル會社純收益(前記計算ニ依ル減價銷却金ニ充當シタル後本條(丙)ノ規定ニ從ヒ決定ス)カ右抵當權設定後存在スル會社ノ固定負債(ファンデットトツト)中右抵當權ノ對價タル金額ニ依リ銷却サルルモノ以外ノ一切固定負債ニ對スル年度利息總額ノ二倍以上ニ相當スルトキハ此限リニアラス。

會社ハ其財産ヲ抵當ニ入ルルニ先タテ受託會社及ヒ財務擔當者ニ對シ左記ノ書類ヲ交付スベシ。

(イ) 會社ノ抵當可能財産全部ノ完全ナル表ニシテ抵當權設定前八ヶ月以内ノ日現在ノ會社ニ對スル

原價（本章第十一條ノ規定ニ從ヒ計算シタル減價銷却金ヲ控除シタルモノ）（財務擔當者ノ承認スル會計士ノ證明シタルモノ）及其再建設評價額（財務擔當者ノ承認スル顧問技師ノ證明セルモノ）ヲ示セルモノ。

(ロ) 右會計士ノ證明書ニシテ

(一) 豫定ノ抵當權設定ノ後抵當權ニ依リ擔保サルル會社債務ニシテ右抵當權ノ對價タル金額ヲ以テ銷却サルルモノ以外ノ債務ノ圓ヲ以テ表ハシタル元金總額

(二) 右抵當權設定ニ先ダツ十八ヶ月連続セル十二ヶ月間ニ對スル會社ノ固定負債ノ利息ニ引當テラルル會社ノ純收益（前記計算ニ依ル減價銷却金控除ノ後本條(丙)ノ規定ニ從ヒ決定ス）

(三) 右抵當權設定ノ後存在スル會社ノ固定負債ニシテ右抵當權ノ對價タル金額ヲ以テ償却サルルモノ以外ノモノニ對スル年度利息支拂總額ノ圓ヲ以テ表ハシタル數額ヲ示セルモノ

(乙) 前記本條(甲)所定ノ抵當權設定ニ對スル誓約ニ拘ラス會社ハ何時ニテモ信濃川ニ目下工事中ノ信濃川水力擴張分ニ其完成前何時ニテモ（以下單ニ「擴張分」ト稱スルコトアリ）抵當權ヲ設定シ又會社ノ他ノ財産ヲ斯ル抵當權ノ目的物トナスコトヲ得、但シ斯ル抵當權設定ノ場合會社ハ左記條件ヲ遵守スヘキモノトス。

(一) 擴張分上ニ設定スル抵當權ニ依リ擔保サルル會社ノ債務元金總額ハ右擴張分工事ニ會社カ支

出シタル金額及ヒ右擴張分完成ノ原價豫算額ノ三分ノ二ヲ超ユルコトヲ得サルコト或ハ右抵當權ニ依リ擔保サルル債務元金總額ハ右擴張分工事ノ爲メ會社カ夫レ迄ニ支出シタル金額ノ三分ノ二ヲ超ユルコトヲ得ト雖斯ル場合ハ右抵當權設定ト同時ニ右超過額ヲ會社ノ一般資金ト分離シテ其支出及ビ用方ヲ單ニ右擴張分完成ノ原價然モ其原價ノ三分ノ二ヲ限度トシテ銷却スル目的ニノミ使用スルコトヲ保障スル制限（受託會社ノ承認セルモノ）ノ下ニ置クコトヲ要ス。

(二) 會社ハ右ノ如キ抵當權設定ニ先タチ之レニ依リ擔保サルル債務償還期限以上ノ期間ニ對シ右擴張分ノ發電力ノ全部又ハ實質の全部ノ賣買ヲ確保スル爲メ東京電燈株式會社又ハ其他受託會社ノ満足スル資産状態ニ在ル需要者ト有効ナル契約ヲ締結スヘキコト。

右契約ハ總體的ニ會社カ右契約ニ基ク發電全力開始後擴張分上ニ設定セル抵當權ニ依リ擔保サルル債務ニシテ右抵當權設定後ニ存在スルモノノ全部ニ對スル年度利息及減價基金ト少クトモ同等ノモノトナル如キ規定ノモノナラサルヘカラス。

(三) 前記抵當權設定ニ先タツ十八ヶ月中、連續セル十二ヶ月間ニ對スル會社ノ固定負債ノ利息ニ引當テラルル會社ノ純收益（本章第十一條ノ規定ニ依リ計算シタル減價銷却金ニ充當シタル後本條(丙)ノ規定ニ從ヒ決定ス）及前記契約ニ基ク發電全力開始後第一年度ニ於ケル擴張分ヨリノ純收入豫算額ノ合計ハ前記抵當權設定後存在スル會社ノ固定負債ニシテ右抵當權ノ對價タル金



額ニ依リ償却サルモノ以外ノ全部ニ對スル年度利息總額ノ二倍以上トナルヘキコト。  
會社ハ本項(乙)ノ規定ニ從ヒ擴張分ノ全部又ハ一部ヲ抵當ニ入ルルニ先タチ受託會社及ヒ財務擔當者ニ對シ各別ニ左記ノ書類ヲ交付スヘシ。

(イ) 會社カ擴張分工事ニ支出シタル一切ノ金額ヲ示セル表ニシテ財務擔當者ノ承認スル會計士ノ認證ヲ附セルモノ及(擴張分上ノ抵當權ニ依リ擔保サルル債務元金總額ニシテ右抵當權設定當時前記支出額ノ三分ノ二ヲ超ユル場合ハ)擴張分完成ノ原價豫算額ヲ示セル表ニシテ財務擔當者ノ承認スル顧問技師ノ認證ヲ附セルモノ及ヒ抵當權設定證書原案寫右原案寫ノ中財務擔當者ニ交付スヘキ分ヨリ右原案ハ超過金額分離保管及ヒ擴張分ノ工事完成ノ目的ノ爲メノ引出及ヒ用方ニ關スル本項(乙)ノ(一)ノ規定ノ要求スル性質ノ條項(受託會社ノ承認セルモノ)ヲ含ム旨ヲ裏書ヲ以テ受託會社ノ證明ヲ附スヘキコト。

(ロ) 擴張分上ニ設定セル抵當權ニ依リ擔保サルル會社債務ニシテ斯ル抵當權設定當時ニ存在シ而モ此抵當權ノ對價タル金額ヲ以テ償却サルル擔保付債務以外ノモノノ圓ヲ以テ示シタル元金總額ヲ表ハス明細書(財務擔當者ノ承認スル會計士ノ證明ヲ附シタルモノ)

(ハ) 會社ノ社長又ハ其他ノ代表取締役ノ認證セル擴張分ノ發力ノ賣買ニ關スル前記契約書ノ寫及財務擔當者ノ承認スル顧問技師ノ證明書ニシテ左記事項ヲ示セルモノ、右契約ニ基キ

會社カ契約所定ノ義務ヲ履行スルトキハ契約ニ依ル發電全力開始後會社ハ毎年一定ノ最小限度ノ金額ノ支拂ヲ受ケ得ルコト。

(各年度ニ受クヘキ最小限度額ヲ記入スヘシ) 及右最小限度ノ支拂ヲ基準トシテ前記契約ニ基キ擴張分ヨリ受クヘキ會社ノ年度純收入、豫算額及前記契約ニ依ル發電全力開始後第一年度ニ右契約ニ基キ擴張分ヨリ受クヘキ會社ノ純收入豫算額(但シ右年度ニ對シ定メタル率ニ依ルコト) 斯ル年度純收入評定ニ當リ營業費負擔税金減價銷却其他右技師ニ於テ適當ト認ムル項目ニ對スル適當ノ控除ヲ爲スヘシ又證明セル計算書ハ詳細ナル計算ヲ示スヘシ若シ東京電燈株式會社以外ノモノトノ契約書ナルトキハ財務擔當者ヘ交付スル寫ニハ其契約相手方ノ資産状態ハ受託會社ノ満足スル旨ヲ裏書ヲ以テ受託會社ノ證明ヲ附スヘシ。

(ニ) 斯ル抵當權設定後存在スル擴張分上ニ設定セル抵當權ニ依リ擔保サルル債務ニシテ右抵當權ノ對價タル金額ヲ以テ償却サルル擔保付債務以外ノモノノ全部ニ對スル利息及減債基金ノ合計額ヲ其滿期日ヲ含ム各年毎ニ「パー」爲替率ニ依リ圓ヲ以テ示セル明細書(財務擔當者ノ承認スル會計士ノ證明ヲ附シタルモノ)

(ホ) 右抵當權設定ニ先ダツ十八ヶ月中連續セル十二ヶ月間ニ對スル會社ノ固定負債ノ利息ヲ引當テラルル會社ノ純收益(本章第十一條ノ規定ニ依リ計算セル減價銷却金ニ充當シタル後本

條丙)ノ規定ニ從ヒ決定ス)ヲ示セル計算書ニシテ財務擔當者ノ承認スル會計士ノ認證ヲ附セルモノ

(ハ) 斯ル抵當權設定後存在スル會社ノ固定負債ニシテ其抵當權ノ對價タル金額ヲ以テ償却サルル固定負債以外ノモノ全部ニ對スル年度利息勘定總額ヲ圓ヲ以テ示セル明細書(財務擔當者ノ承認スル會計士ノ證明ヲ附シタルモノ)

(イ) 前記本條甲)及ヒ(乙)ニ規定セル表、計算書及ヒ證明書ニ含マレタル計算及ヒ數字ハ凡テ會社カ本條ノ規定ニ基キ會社財産上ニ抵當權ヲ設定スルコトヲ得ルヤ否ヤヲ決定スルニ付會社ニ對シ終局的ノモノトス。

(丙) 抵當權ニ依リ擔保サルル會社ノ債務及ヒ固定負債ニシテ外國貨ナルトキハ「パー」爲替率ヲ以テ圓貨ニ換算スヘシ。

本條(乙)ノ(ニ)ニ定メタル場合ノ外斯ル債務又ハ固定負債ニ對シ支拂ハルヘキ利息ハ前記誓約事項ニ關シ會社ノ純收益又ハ純收入ノ額ノ決定ノ爲メ用ユル十二ヶ月ノ期間ノ最終日ニ於ケル時價爲替ニ依リ圓貨ニ換算スヘシ。

本書中固定負債「(ファンデット・デット)」トハ本社債及ヒ會社ノ一切ノ社債並ニ一切ノ債務ニシテ其日附ヨリ一年以上ノ期間ヲ以テ期限トスルモノヲ云フ但シ通常ノ營業上生シ又ハ契約ス

ル銀行借入金又ハ支拂手形又ハ支拂勘定ヲ含マス。

固定負債ノ利息ニ引當テラルル會社ノ純收益ハ會社ノ營業ト同様ノ營業ニ對シ重米利加合衆國ニ於テ會計士カ用ユル善良ナル計算方式ニシテ財務擔當者ノ承認スルモノニ從ヒ決定スヘシ。

但シ斯ル純收益計算ニ當リ減價銷却ノ爲メ爲サルル控除ハ前記規定ノ計算ニ依ルヘク建設勘定ノ利息ニ對シテハ適當ノ注意ヲ用ヒラルヘキモノトス。

第十五條 會社ハ左記場合ノ外工場財團中ニ現在又ハ今後屬スル財産ヲ本書ニ基キ設定サレタル抵當權以外ノ抵當權ノ目的物ト爲サルルヘキコトヲ約ス。

但シ左ノ條件ヲ明示的ニ規定スル次順抵當權ノ設定ハ此ノ限リニ非ス即チ爾後抵當權ニ基キ抵當權ノ實行ニ依リ右爾後抵當權ノ目的物タル財産ヲ競賣ニ附スル場合ニ於テ右財産ハ斯ル競賣アルトモ本信託證書ニ基キ設定サレタル抵當權ノ目的物トシテ存續スヘキコト。

其當時未償還ニ屬スル前記抵當權ニ依リ擔保セラルル社債ノ元利金ニ對シ其債券文言ニ從フ適確ナル支拂及ヒ本信託證書ニ對スル一切ノ追加證書所定ノ一切ノ約定條件ノ適確ナル履行遵守ニ付競落人ハ本信託證書ニ依ル受託會社ニ満足ナル書式ニ依ル證書ヲ以テ明示的ニ認諾スヘキコト。

第十六條 會社ハ昭和二年十二月一日以後ニ生ズル會社ノ純收入ノ内ヨリ爲スノ外又ハ會社ノ「カーレント・アセツツ」ヨリ決定後未拂ニ屬スル配當其他ノ分配及役員社員ノ賞與トシテ支拂フヘキ金

額ヲ控除シタル後會社ノ純「カーレント・アセツツ」(本第十六條ノ規定ニ依ル)カ二百萬圓未滿ナルトキハ配當ヲ爲シ又ハ資本ニ對スル其他ノ分配ヲ決定シ又ハ之カ支拂ヲ爲ス可カラズ會社ノ配當又ハ資本ニ對スル其他ノ分配ニ充ツヘキ純收入ノ算出方法ハ「ファンデツト・デツト」(本章第十四條規定ノ定義ニ依ル)ニ對スル利息ニ充ツヘキ純收入(右純收入ハ昭和二年六月一日以後ニ生シタルモノニ限ル)ヨリ會社ノ凡ユル負債ニ對スル支拂濟又ハ未拂ノ一切ノ利息(建設利息ハ除ク)及會社ト同種ノ營業ニ對シ垂米利加合衆國ノ免許會計士カ用ユル完全ナル計算方法ニシテ財務擔當者ノ認ムル方法ニ從ヒ通常配當其他資本ニ對スル分配ニ充ツヘキ純益算出ノ際控除スル一切ノ其他ノ費用並ニ積立金ヲ控除シテ之ヲ算出スヘシ。

右一切ノ利息其他ノ費用ニシテ外國貨幣ヲ以テ支拂ハレタルモノ又ハ支拂ハルヘキモノハ其已ニ支拂濟ノモノニ付テハ其支拂當時ニ於ケル現行換算率ニ依リ又未拂ノモノニ付テハ前記配當又ハ其他ノ分配決定ノ日ノ直前ノ會社ノ營業年度ノ末日ニ於ケル現行換算率ニ依リ圓ニ換算スルモノトス純「カーレント・アセツツ」ハ「カーレント・アセツツ」ヨリ「カーレント・ライアビリティ」ヲ控除シテ算出スヘシ本書記載ノ用語「カーレント・アセツツ」トハ會社ノ左記資産ノミヲ増ス。

- (イ) 手元現金、銀行預金
- (ロ) 營業上取得シタル取立可能ノ受取手形受取勘定ニシテ質入セザルモノ及其手形勘定ノ日附後一

ケ年以内ニ滿期到來スルモノ但シ同系會社(會社ニ於テ其會社ノ株式ノ過半數ヲ有スルモノ)ノ負ヘル受取手形、受取勘定ハ會社ノ「カーレント・アセツツ」ト看做サス右同系會社ノ「カーレント・アセツツ」(本書定義ニ依ル)カ會社ニ對スル支拂手形支拂勘定ヲ含ム「カーレント・ライアビリティ」(本書定義ニ依ル)ノ少クトモ二倍ナルトキハ此限リニアラス。

- (ハ) 取引容易ナル株式、社債其他「ファンデツト・デツト」ノ證書(會社又ハ同系會社ノ發行セルモノヲ除ク)ニシテ其當時ノ市場價格ヲ附セルモノ

本書記載ノ用語「カーレント・ライアビリティ」トハ會社ト同營業ニ對スル亞米利加合衆國ノ免許會計士カ用フル完全ナル計算方法ニシテ財務擔當者ノ認ムル方法ニ從ヘバ「インデツトツドネス」ト稱セラルル會社ノ負債(税金、給料、豫定支拂利子及ヒ會社ノ「ファンデツト・デツト」償却ノ爲メ設ケララル減債基金勘定トシテ次期六ヶ月以内ニ支拂ハルヘキ金額ヲ含ム)ヲ指ス、但シ本社債又ハ本社債以外ノ「ファンデツト・デツト」ヲ含マズ。

配當又ハ會社資本ニ對スル其ノ分配ノ決定又ハ支拂ニ關スル本第十六條規定ニ基ク財産決定ノ爲メノ會社ノ「カーレント・アセツツ」及「カーレント・ライアビリティ」ノ計算ニ當リ外國貨幣ヲ圓ニ換算スル場合ニ右配當其他ノ分配決定ノ日ノ直前ノ會社ノ營業年度ノ末日ニ於ケル現行換算率ニ依リ之ヲ爲スヘキモノトス。

第十七條 會社ハ其計算書ニ付財務擔當者ノ認容スル免許會計士ノ検査ヲ半期毎ニ受ケ財務擔當者ニ對シ左記ノ特定ノ期間ニ左記ノ書類ヲ送付スベシ。

(イ) 年二回ノ事業年度ノ締切後九十日以内

(一) 右事業年度末現在ノ會社ノ資産状態ヲ示ス貸借對照表

(二) 右事業年度ニ於ケル會社ノ收入勘定

(三) 右事業年度ニ於ケル會社ノ利益處分勘定ニシテ配當並ニ役員及従業員ノ賞與並ニ積立金ノ割當ヲ示スモノ（右年度末ニ次イテ開カレタル株主總會ノ承認ヲ經タルモノ）

(四) 右事業年度末日ニ於ケル會社ノ「カーレント・アセツツ」及「カーレント・ライアビリテイス」ニ關スル相當詳細ナル書類

右全部免許會計士ノ證明ヲ附スルコト。

(ロ) 毎曆年中ニ終了スル後半期事業年度締切後九十日以内ニ右免許會計士ノ證明ニ係ル右事業年度締切前十二ヶ月間ニ於ケル相當詳細ナル會社ノ收入勘定書

(ハ) 會社株式ニ對スル配當又ハ資本ニ對スル分配決定後六十日以内ニ左記事項ニ關スル社長又ハ他ノ代表取締役ノ署名ヲ附セル書類右配當金額、配當決定ノ日並ニ之カ支拂ノ日昭和二年六月一日以後ニ生セルモノニシテ配當及資本ニ對スル其他ノ分配ニ充ツベキ會社ノ純益（本第六章第十六

條ノ規定ニ依ル）ハ右配當又ハ其他ノ分配金額ニ超過セルコト、會社ノ「カーレント・アセツツ」ノ額（本第六章第十六條規定ニ依リ算出スルコト）ハ配當又ハ其他ノ分配並ニ役員又ハ従業員ノ賞與（決定後未拂ノモノ）ノ額ヲ控除シタル後尙「カーレント・ライアビリテイス」（前記算出方法ニ依ル）ヲ超過スルコト少クモ二百萬圓以上ナルコト。

(ニ) 配當又ハ資本ニ對スル其他ノ分配金ノ支拂後六十日以内ニ右配當支拂ノ日ノ前月ノ末日現在ニ於ケル會社ノ「カーレント・アセツツ」及「カーレント・ライアビリテイス」（兩者共前記算出方法ニ依ル）ニ關スル相當詳細ナル書類ニシテ社長又ハ他ノ代表取締役ノ署名ヲ附セルモノ本條即チ第十七條ノ前記ノ諸項ニ基キ免許會計士ノ證明ヲ得テ提供サルル收入計算書ハ同時ニ財務擔當者ノ承認スル顧問技師ニヨル次ノ事項ヲ證明シタル證明書ヲ添附ス可キモノトス、即チ該計算書ニ包含セラレタル期間中會社財産ハ第六章第十一條ノ要旨ニ從ヒ保存サレタルコト保存維持費ハ該期間ノ運轉費用ニ加ヘラレタルコト、該期間中ノ償却費ハ第十一條ノ要件ニ從ヒ決定サレタルコト、會社ハ何時ニテモ技師ノ要求アル時ハ技師ガ上記ノ證明ヲナスニ必要ナル保存償却ニ關聯スル報告ヲ提供スベシ。

財務擔當者ノ要求アルトキ（但シ年一回限り）財務擔當者ノ認ムル顧問技師作成ニ係ル會社財産ノ状態、減價償却及ビ維持ノ爲メノ費用其他財務擔當者ガ右費用ガ維持及減價償却ニ充分ナリ

ヤ否ヤヲ決定スルニ必要トスル事實ニ關スル相當詳細ナル報告書ヲ會社ハ提出ス可シ又會社ハ尙財務擔當者ニ對シ、會社ノ計算、財産及營業ニ關シ相當要求セラルベキ報告書ヲ提出スベシ、且本條(イ)(ハ)及(ニ)ノ規定ニ基キ財務擔當者ニ提出スベク要求セラルル財産報告書ヲ受託會社ニ提供スベシ。

第十八條 會社ハ其當時存在スル工場財團全部又ハ一部ガ國家ノ權力ニ依リ買取ラレ又ハ沒收サレタルトキハ其代金ヲ本社債ノ擔保トシテ即時受託會社ニ供託スベキコトヲ約定ス、會社ハ第八章第四條(イ)ニ特定セル目的ノ爲メ右第四條所定ノ證明書及ビ意見書ヲ提出シタル上右受託會社ニ供託シタル金額ヲ引出スコトヲ得、又會社ハ受託會社ニ左記ノ書類ヲ提出シタル上右金額ヲ引出スコトヲ得、(イ)會社ガ記號番號アル債券ヲ抹消ノ爲メ立會署名者ニ提出シタル旨ノ立會署名者ヨリノ通知、(ロ)右立會署名者ニ提出シタル債券(記號番號ヲ掲グルコト)ハ會社ニ於テ社債償還ノ爲メ又ハ減債基金勘定トシテ財務擔當者ニ供託シタルモノ以外ノ資金ヲ以テ買入レタルコト又其元利金ニ對シ會社ノ支拂ヒタル金額ヲ示シタル社長又ハ他ノ代表取締役ノ署名ヲ附シタル書類(會社ガ隨時引出シ得ル金額ハ右社債元本ニ付會社カ支拂ヒタル金額ニ等シキコト且社債元本額ヲ超過セザルコト)右受託會社ニ供託シタル金額ニシテ三百萬圓ヲ超過シタルトキハ會社ノ要求ニ應ジ受託會社ハ右超過額ノ全部又ハ會社ノ指定スル額ヲ減債基金勘定トシテ會社ノ支拂フベキ金額ニ充當スル爲メ之ヲ

財務擔當者ニ送金スルモノトス。受託會社ヨリ財務擔當者ニ對シ支拂ハレタル金額ハ會社ガ減債基金勘定トシテ會社ガ支拂ヒタル他ノ金額ト同様ノ方法ニテ保持セラレ使用セラルベキモノトス。

第十九條 會社ハ左記事項ヲ約諾ス。

如何ナル場合ト雖モ受託會社又ハ財務擔當者ノ要求アルトキ會社ハ受託會社又ハ財務擔當者又ハ此目的ノ爲メ之等ノモノガ指定スル事務員、代理人、會計士及其他ノ者ヲシテ會社ノ工場其他ノ財産ヲ検査セシメ又受託會社又ハ財務擔當者ノ要求アルトキハ會社所有ニ係ル財産ノ正確ナル明細表ヲ提出スベシ、受託會社又ハ財務擔當者ノ要求アルトキハ會社ハ右相當要求セラルル方法及ビ詳細ノ程度ニ於テ會社ノ營業狀態ヲ示ス書類ヲ提出スベキコトヲ約諾ス、會社ハ其所有ニ係ル土地、工場、動産及ビ業務ニ關スル一切ノ事項ヲ網羅セル記録及ビ計算書ヲ備付クベシ。

第二十條 會社ハ會社ノ未償還ニ屬スル社債又ハ擔保附社債ノ引受人タル引受銀行團及之等ノ社債又ハ擔保附社債ノ所持人ハ本書ニ基キ設定サレタル抵當權ニ關シ會社又ハ本書社債ノ所持人ニ對シ何等法律上ノ抗爭事由ヲ有セザルコト並ニ本書ニ基ク抵當權設定ノ爲メ此等ノ社債ガ期日前ニ償還ヲ求メラル如キコトナキヲ保證ス。

第二十二條 會社ハ本社債以外時々未償還ニ屬スル「ファンデット・デット」(本章第十四條所定ノ定義ニ依ル)及右「ファンデット・デット」發生ノ原因タル一切ノ證書其他ノ書類ニ關シ其條件ニ

從ヒ一切ノ債務ヲ履行スベキコトヲ約定ス。

第二十二條 會社ニ於テ本章第一條、第四條、第六條、第八條、第十條、第十一條、第十二條、第十七條及第二十一條所定ノ事項ニ付不履行アリタルトキハ受託會社ハ會社ニ代ツテ之ヲ履行シ支拂ヲ爲スコトヲ得、斯ルトキハ會社ハ即時右支拂金並ニ右ノ件ニ關シ生シタル受託會社ノ一切ノ前拂金並ニ一切ノ立替金及費用ニ返濟當時ニ於ケル日本銀行當座貸越日歩ニ依ル利息ヲ附シ之ヲ受託會社ニ返濟スベシ。

右受託會社又ハ之ニ代リテ他ノ者ガ爲シタル支拂金並ニ之ニ關シ生シタル立替金、及費用ハ債券及利札ニ先タチ本書ニ基キ設定サレタル抵當權ニ依リ擔保セラルベキコトヲ茲ニ宣言ス。

受託會社ニ於テ右支拂ヲ爲シタル場合ト雖モ本書規定ニ依ル會社ノ不履行ノ責ヲ免除スルモノニアラズ。

### 第七章 受託會社及社債權者ノ有スル救濟方法

第一條 左記ノ事態ノ一又ハ夫レ以上ノ事態發生シタル時(本章ニテ之レヲ不履行ノ効果ト稱ス)

- (イ) 社債利子ノ支拂ニ付キ其ノ支拂期ニ於テ不履行アリ且ツ六拾日間繼續シタル場合
- (ロ) 社債元金ノ支拂ニ付キ其ノ支拂期日ニ於テ(滿期ニ依ルト又ハ期限ノ利益ヲ失ヒ又ハ其他ノ方

法ニ依ルトヲ問ハズ)不履行アリタル場合

- (ハ) 減債基金勘定トシテ要求サレタル金額ノ拂込ニ付キ不履行アリ且六十日間繼續シタル場合
- (ニ) 債券上又ハ本書中記載セル一切ノ規約又ハ條件ノ履行ニ付キ會社側ニ於テ不履行アリ而シテ受託會社ヨリ會社又ハ其承繼人又ハ讓受人ニ對シ不履行事實ヲ指摘シ之ガ救濟ヲ要求セル書面ニ依ル催告ヲ爲シタル後尙ホ六十日間右不履行繼續シタル場合(但右催告ハ其當時ニ於ケル社債總額ノ二割五分以上ニ當ル社債權者若クハ財務擔當者ノ書面ニ依ル要求ニ基キ受託會社ガ義務トシテ爲スベキモノトス)

(ホ) 當該官廳ノ決定ニ依リ會社ガ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合又ハ會社財産ニ對スル「レシーバー」若クハ其他ノ管理人ヲ選任スル法律規定制定シ之ニ依リ該工場財團又ハ其他ノ會社財産ノ全部若クハ主タル部分ニ對スル「レシーバー」若クハ管理人ノ選任アリタル場合

(ヘ) 會社自ラ破産申請ヲ爲シタル場合又ハ其債權者ノ爲メ財産讓渡ヲ爲シタル場合又ハ解散シタル場合

右各項ノ一ニ該當スル事態發生シタル時ハ

第一 斯ル不履行ノ効果繼續中

(一) 適法ニ招集セラレタル社債權者集會ニ於テ議決權行使ノ資格ヲ有スル社債權者(第十二章第一

條(三)規定) 總數ノ少クトモ半數以上ニシテ社債現存額ノ少クトモ半額以上ニ當ル社債權者ガ議決權ヲ行使シ其過半數ニ依ル決議(此ノ決議方法ヲ以下特別決議ト稱ス)ニ依リ或ハ

(二) 特別決議ヲ以テ選任サレ且適法ニ資格ヲ附與サレタル社債權者ノ代表者ニ依リ要求セラレタル時ハ受託會社ハ其當時ノ社債未償還總額ニ付即時期限ノ利益ヲ失ヘル旨宣言スベシ(其當時未ダ支拂期到來セザル場合)

右宣言アリタルトキハ債券又ハ本書中別段ノ記載アル場合ト雖モ社債元本ハ即時支拂ハルベキモノトス。

但シ本條(四)項ニ特定セル不履行ノ効果發生シタル場合又ハ會社ガ社債元利金又ハ本書規定ノ其他ノ支拂ヲ完了セズシテ解散スル場合ニ於テハ適法ニ召集サレタル社債權者集會ノ議決權ノ過半數ニ依リ(此場合議決權行使ノ社債權ノ員數又ハ社債金額ノ特定ナシ)或ハ集會ニ於テ選任サレ適法ニ資格ヲ附與サレタル代表者ニ依リ要求セラレタル時ハ受託會社ハ上記ノ手續ヲ採ルヘキモノトス。

社債元本ニ付キ期限ノ利益ヲ失フ旨宣言アリ支拂期到來シタル後而モ債券面記載ノ滿期日前ニシテ本書ニ基ク抵當權實行ニ因ル競賣アル迄ハ會社ハ法律ノ許ス場合社債ニ對スル未拂利息並ニ滿期後利息ニ年六分五厘ノ割合ニ依ル利子ヲ併セ支拂フベク或ハ工場財團賣却代金中ヨリ之ヲ取

立ツベキモノトス、又債券若クハ本書記載ノ約定又ハ條件ニ付キ一切ノ不履行救済サレ受託會社ノ満足スル保證ガ爲サレタルトキハ右不履行ヲ原因トシテ一旦社債元本ニ付期限ノ利益ヲ失ハシムル旨宣言シ支拂期到來シタル場合ト雖モ適法ニ召集サレタル社債權者集會ニ於テ議決權行使ノ資格アル社債權者(第十二章第一條(二)規定) 總數ノ少クトモ三分ノ二以上ニシテ現存社債總額ノ少クトモ三分ノ二以上ニ當ル社債權者ニ依リ議決權行使サレ其過半數ノ決議(此ノ決議方法ヲ以下超特別決議ト稱ス)ニ依リ又ハ右決議ヲ以テ選任シタル代表者ニ依リ要求セラレタル時ハ右不履行狀態ハ回復サレ受託會社ハ前記宣言及其効果ヲ取消スベキモノトス。

但右撤回、取消ハ其後ノ不履行ニ何等關係ナク將來ノ權利行使ヲ妨グルモノニアラズ。

第二 受託會社ハ其當時存在スル工場財團ノ保護及保存ノ爲メ自ラ必要トスルトキ及特別決議ニ依リ又ハ特別決議ヲ以テ選任サレタル代表者ニ依リ要求セラレタル時ハ日本法律ノ許ス限り自ラ又ハ代理人ヲシテ(又ハ受託會社ハ第三者ヲ指名シ其者自ラ又ハ其代理人ヲシテ) 右工場財團ノ全部又ハ一部ニ付代行權(エントリー)ヲ行使シ之ヲ占有シ又右工場財團ヲ使用シ運用シ支配シ且之ニ關スル營業ヲ爲シ工場財團ニ關係アル一切ノ水利使用權及電氣事業經營權ノ利益ヲ享有シ之ヲ使用スルコトヲ得、右代行權ノ場合受託會社ハ工場財團ノ負擔ニ於テ會社ノ營業ト同一ノ營業ヲ爲ス一般會社ガ通常行フト同様ノ方法及範圍ニ於テ右占有ニ屬スル工場建物、建設物、設備、

機械器具及其他ノ財産ヲ保險ニ附シ、又ハ之ヲ更新シ又ハ購入修繕若クハ建設ノ方法ニ依リ之ヲ維持スルコトヲ得、且又隨時受託會社ハ工場財團ノ負擔ニ於テ必要且適當ノ修繕、取換ヲ爲スコトヲ得、又右工場財團ノ保存上必要トスル範圍ニ於テ之ガ變更追加及ビ改良ヲ爲スコトヲ得、斯クノ如キ場合ニ於テハ受託會社ハ右工場財團ヲ支配シ又之ニ關スル會社ノ營業ヲ爲シ又會社ノ名ニ於テ之ニ關シ會社ノ有スル權利ヲ行使スベキモノトス、而シテ受託會社ハ工場財團ノ全部又ハ一部ニ關スル利益收入賃料ヲ回收シ受領スル權限アルモノトス而シテ其中ヨリ前記營業又ハ維持修繕、取換、變更、追加、改良ノ費用及税金保險又ハ其他ノ右工場財團ノ全部又ハ一部又ハ送電線、配電線、電話線ノ架設地使用契約侵水地使用契約又ハ前記電氣事業經營許可及水利使用許可ニ關スル一切ノ負擔ニ對スル支拂並ニ受託會社、前記第三者、財務擔當者及立會署名者及夫等ノ者ノ代理人、法律顧問、代理店、事務員、雇人又ハ其他ノ使用人ノ勞務ニ對スル報酬ヲ控除シタル上、之ヲ左記ノ目的ニ充當スルモノトス（受託會社ガ前記ノ如ク第三者ヲ指名シタル時ハ右第三者ハ前記ノ如ク生ジタル金錢ヲ右充當スル爲メ受託會社ニ支拂フベシ）

(イ) 社債元本ニ付期限ノ利益ヲ失ヒ又ハ其他ノ方法ニ依リ支拂期到來セザル時ハ不履行ニ係ル利息ノ支拂ニ充當スルコト、但シ各支拂期ノ順序ニ依リ且滿期後利息ニ對シテハ法律ノ許ス場合年六分五厘ノ割合ニ依ル利子ヲ併セ支拂フコト右支拂ハ利息請求權者ニ對シ等差又ハ優先ノ取

扱ヲ爲スコトナク平等ニ爲スモノトス、但シ本章第二條規定ノ場合ハ此限リニアラズ。

(ロ) 社債元本ニ付期限ノ利益ヲ失ヒ且ツ他ノ方法ニヨリ支拂期到來セルトキハ先ヅ不履行ニ係ル利息ノ支拂ニ充當スルコト、但シ各支拂期ノ順序ニヨリ且前記利子ヲ併セ支拂フコト、次テ社債元本ノ支拂ニ充當スルコト、右支拂ハ其權利者ニ對シ等差又ハ優先ノ取扱ヲ爲スコトナク平等ニ爲スモノトス、但シ本章第二條規定ノ場合ハ此ノ限ニアラズ。

(ハ) 社債元本ニ付期限ノ利益ヲ失ヒ、又ハ其他ノ方法ニ依リ支拂期到來セス且ツ利息ノ支拂ニ付不履行ナキトキハ其當時發行セル其他ノ不履行ニ對スル救済ニ充當スルコト。

前記不履行ノ効果繼續中受託會社ハ社債ニ對スル擔保トシテ其當時自己ニ質入サレアル株式ニ基キ議決權ヲ行使シ又社債權者ノ利益ノ爲メ本書第八章第五條規定ニ基キ受領スル權限アル金錢及證券ノ外更ニ質入サレアル株式ニ對スル一切ノ配當金及其他ノ證券ニ對スル利息トシテ支拂ハルル一切ノ金額ヲ回收シ受領スル權限ヲ有ス、且受託會社ハ本第二項所定ノ控除ヲ爲シタル後本第二項(イ)及(ハ)ニ特定セル處ニ從ヒ右受領セル一切ノ金錢ヲ充當スベキモノトス。

會社ガ元利金其他ノモノニ對シ支拂期到來シタルモノヲ完全ニ支拂ヒ且社債ノ次期半年分利息及次期減債基金ノ支拂ニ對シ受託會社ニ満足ナル方法ヲ講ジ、且其當時ノ不履行救済ノ爲メ必要ト信スル一切ノ行爲ヲ爲ストキハ工場財團ハ會社ノ要求ニ基キ會社又ハ其承繼人又ハ讓受



人ニ返還サルベキモノトス。

其後ニ於テハ會社ハ第八章第五條規定ニ依リ受託會社ニ質入サレタル一切ノ株式ニ基ク議決權ノ行使ヲ爲シ其株式ニ對スル配當トシテ支拂ハレタル金錢ヲ受領シ又其他ノ證券ニ對スル利息トシテ支拂ハレタル金錢ヲ受領スルコトヲ得。

會社ハ前記代行アリタル場合工場財團ニ關スル業務ノ運用ニ必要ナル一切ノ便宜ヲ講シ且會社ノ役員、使用人及代理人ヲ介シテ受託會社又ハ受託會社ノ指名スル第三者ノ要求スル方法範圍ニ於テ右運用ヲ援助スヘキコトヲ誓約ス。

第三 受託會社ハ特別決議ニヨリ又ハ特別決議ニヨリ選任サレタル代表者ニ依ル要求アルトキハ自ら又ハ代理人ニ依リ右決議又ハ代表者ノ指定スル方法又ハ斯ノ如キ指定ナキ時ハ受託會社ノ法律顧問ノ意見ニ基ク方法ニシテ法規ニ反セサル方法ニ依リ自己及ビ社債權者ノ權利（工場財團ノ全部又ハ一部及ビ受託會社ニ書入質入又ハ讓渡サレタル一切ノ擔保ノ全部又ハ一部ノ賣却、讓渡及右財産ニ關係アル水利使用權、電氣事業經營權及送電線、配電線、電話線架設地使用契約上ノ權利ノ全部又ハ一部並ニ其當時社債ノ擔保トシテ受託會社ニ質入サレアル一切ノ株券又ハ其他ノ證券ノ賣却、讓渡ニ關スル日本法律ノ規定ニ基ク法律手續ヲ爲ス權利ヲ含ム）ノ保護及實行ノ手段ヲ講スルモノトス。

第二條 利札ニシテ其支拂期日ヲ何等カノ方法ニ依リ延長シタルモノ又ハ其支拂期日ノ當時若クハ其後ニ於テ其債券ト分離シテ讓渡又ハ質入シタルモノ（債券ト共ニスル場合ハ此限りニ非ス）ハ會社ノ不履行ノ効果發生シタル場合凡テノ債券及前記ノ如キ延長又ハ讓渡又ハ質入サレサル利札ニ對スル支拂ヲ爲シタル後ニ非ザレハ本證書規定ノ利益ヲ受クル資格ナキモノトス。

第三條 本書規定ニ基キ工場財團全部ノ競賣ヲ爲ス場合ニ於テハ之ヲ一括シ全體トシテ賣却スヘキモノトス。但シ全體トシテノ賣却カ法規又ハ其他ノ理由ニヨリ實行不能ナル時或ハ受託會社カ集會ノ特別決議ニヨリ又ハ特別決議ニヨリ適法ニ選任サレタル代表者ニヨリ右財産ヲ分割シテ賣却スヘキ旨指定サレタル時ハ此ノ限りニアラス。

斯ル場合ニ於テハ法律規定ニ基キ又ハ前記決議或ハ前記代表者ノ特定スル處ノ分割方法及順位ニ從ヒ賣却セラルヘキモノニシテ右法律規定ニ基ク又ハ右特定ノ順位ナキトキハ受託會社ノ定ムル所ニ依リ之ヲ爲ス、本證書ノ規定ニ基キテ賣却スル場合ハ社債ノ擔保トシテ受託會社ニ質入サレタル擔保ハ公私競賣ニ於テ法律ニ禁止規定ナキ限り會社ニ何等通告スルコトナク受託會社ノ任意ノ部分ヲ處分スルコトヲ得。會社ハ今後何時ニテモ本書ニ基キ設定セラレタル抵當權ニ對シ劣順位ノ抵當權者タルコトアルヘキ自然人又ハ法人又ハ受託會社ニ質入讓渡サレアル擔保ニ付今後受託會社ノ有スル權利ニ次ク何等カノ權利ヲ取得スル者ニシテ今後會社ヲ通シテ又ハ會社ノ名ニ於テマーシヤル

權ヲ行使スル者ニ對シ茲ニ左ノ如ク明示ス、會社ハ本書ニ基ク抵當權ノ實行、又ハ本書規定ニ依ル其他ノ權利ノ實行アルトキハ前記工場財團ニ屬スル財産又ハ前記擔保ヲ總括スル一切ノ權利ヲ拋棄シ解放ス而シテ受託會社或ハ本書抵當權ノ實行又ハ前記擔保ノ賣却又ハ本書ニ依リ設定サレタル信託財産ノ管理ニ付管轄ヲ有スル裁判所ハ前記ノ如ク工場財團(各場合ニ依ル)ヲ分割シ又ハ全體トシテ賣却シ又前記擔保ヲ受託會社又ハ裁判所(各場合ニ依ル)ノ決定ニ依ル分割方法ニテ賣却スルノ權利ヲ有スルモノトス。

會社ハ右賣却ノ場合法律ノ許ス範圍ニ於テ右競賣ニ依リ移轉スル工場財團ノ其部分ノ運轉ニ必要ナル限リノ會社ノ送電線、配電線、電話線、架設地使用契約、電氣事業經營又ハ水利使用許可ノ權利ヲ買受人ニ有効ニ移轉セシムル爲メ法律又ハ右買受人ノ要求ニ依リ證書ヲ作成シ又ハ其他ノ手續ヲ採ルコトヲ約諾ス。

第四條 右工場財團又ハ其一部或ハ其他受託會社ニ質入讓渡セラレタル擔保カ競賣ノ場合法律法規ニ依ル通知ノ外受託會社ハ競賣ヲ行フ日時、場所並ニ賣却セラレル物件、品目、權利ノ概要ニ付(當該官廳ノ定メタル公告期間ノ許ス場合ハ)競賣ヲ行フ日以前每週一回(何曜日タルヲ問ハス)引續キ四週間重米利加合衆國紐育州紐育市マンハツタン區ニ於テ發行シ一般ニ頒布セラルル日刊新聞紙上及前記期間中少クトモ二回日本ノ官報及前記期間中少クトモ二回日本東京市ニ於テ發行シ會社ノ公

告方法トシテ其定款中ニ特定セル新聞紙上ニ公告スルコトニ依リ之カ通知ヲ爲スヘキモノトス。

第五條 工場財團又ハ前記擔保ノ全部又ハ一部ノ競賣完了シタル時ハ受託會社ハ競賣人ニ對シ賣却物件ニ關スル一切ノ權利利益ヲ讓渡セシムヘキ證書ヲ作成交付スヘシ。

右競賣アリタル時ハ會社ハ賣却物件ニ關スル一切ノ權利、利益請求ノ權利ヲ喪失ス、又會社其承繼人又ハ讓受人其他賣却物件ノ全部若クハ其一部ニ關シ會社ヲ通シ又ハ會社ノ名ニ於テ請求ヲ爲シ又ハ請求スヘキ凡テノ者ニ對シ永久ニ拘束力ヲ生スルモノトス。

第六條 右競賣ニ於ケル競賣人或ハ其代理人讓受人ハ右競賣ニ適用サルル法律規定ニ從ヒ代金ヲ支拂ヒ之ニ對シ受領證ヲ受取リタル後ハ其競賣代金ヲ信託事務ノ爲メ或ハ本書規定ノ目的ニ對シ充當セラルルヤ否ヤヲ監視スルノ責任ナク又競賣代金ノ全部又ハ一部ノ紛失充當違ヒ又ハ不充當ニ對シ如何ナル場合ト雖モ責任ナク又右競賣人ハ競賣ニ關スル權限必要ノ有無若クハ適否ニ關シ取調ヲ爲スル義務ナキモノトス。

第七條 右競賣アリタル時ハ社債元本ハ其レ以前ニ於テ滿期ニナラザルモノハ債券又ハ本書中別段ノ定メアル場合ト雖モ之ト同時ニ支拂期到來スルモノトス。

第八條 右競賣ノ代金又ハ利得並ニ其當時受託會社カ本書規定ニ基キ社債權者ノ爲メ保有スル其他ノ金額(第七章ノ規定ニ依ルト否トヲ問ハス)ハ左ノ如ク充當セラルヘキモノトス。

第一 競賣及其手續ノ費用、受託會社ノ報酬（右競賣ニ關スルモノ其他）財務擔當者、立會署名者及夫等ノ者ノ代理人及顧問ニ對スル相當ノ報酬及受託會社、財務擔當者、立會署名者ノ支出シ又ハ負擔シタル費用債務及立替金ノ支拂及一切ノ税金賦課若クハ本書ニ基ク抵當權ニ優先スル權利（但シ當該競賣ノ原因タル税金賦課優先權ヲ除ク）ニ對スル支拂

第二 社債元利金ノ滿期到來又ハ未拂ノ總額ヲ滿期後ノ元本及法律ノ範圍ニ於テ滿期後ノ分割拂利息ニ年六分五厘ノ割合ニ依ル利息ヲ併セ拂渡スコト、右代金額カ充分ナラサル時ハ社債元本及滿期後利息ノ合計額ニ從ヒ元本又ハ利息ノ支拂ニツキ差等ヲ受クルコトナク平等ニ全部ノ拂渡ヲ爲スコト、但シ第七章第二條ノ規定ニ準據スルコト。

第三 剩餘額アルトキハ會社其承繼人若クハ讓受人其ノ他之ヲ受領スルノ權限アルモノ又ハ當該官廳ノ指定スル者ニ對シテ之ヲ拂渡スコト。

第九條 右競賣ノ場合ニ於テ其當時法律ノ許ストキハ競落人ハ競賣物件ノ代金ノ支拂ノ爲メ債券及滿期後利札ヲ使用シ充當スルコトヲ得ルモノトス（但シ第七章第二條ニ準據スルコト）斯ル場合買受人ハ本書規定ニ依リ競賣ノ費用、報酬、其他ノ入費ヲ該代金ヨリ控除シタル後債券及利札所持人ニ對シ等分ノ配當トシテ該代金中ヨリ拂渡サルヘキ金額ト相殺スル爲メ右債券及利札ヲ右競賣ヲ取扱フ人、役人又ハ官廳ニ提出スルモノトス、而シテ右債券及利札ニ依リ支拂フヘキ金額カ會社カ是

等ノ債券利札ニ對シ支拂フヘキ金額ヨリ少額ナル時ハ右代金支拂ヲ受タル權限アル者ノ指圖ニ依リ相殺金額ヲ以テ會社ノ一部辨濟ヲ爲シタルモノトシ其金額ノ支拂證明ノ爲メ右債券及利札上ニ之カ受領ノ裏書ヲ爲スヘキモノトス。

第十條 會社ニ於テ萬一本書中第六章第十三條所定ノ約定ニ違反シテ其當時存在スル工場財團ノ全部又ハ實質上之ト同等ノモノヲ賣却シ讓渡シ又ハ賣却讓渡スヘク企テタル場合ニ於テハ受託會社ハ直ニ斯ル賣却讓渡ヲ防止スル手續ヲ採ルヘク又未然ニ防クコト能ハサル時ハ斯ル賣却讓渡ノ代金ノ支拂ヲ社債權者ノ爲メ確保スルノ手續ヲ採ルヘシ。

第十一條 會社ハ左ノ約諾ヲ爲ス。

會社ニ於テ萬一不履行アリタル債券若クハ利札又ハ本書規定ニ基ク權利實行ノ目的ノ爲メ其性質ノ如何ヲ問ハス受託會社ニ於テ訴訟又ハ其他法律上ノ手續ヲ開始シタル時ハ會社ハ直チニ辨論開始ニ到ル猶豫期間ノ利益ヲ拋棄シ右訴訟其他ノ手續ヲ自ラ制限シ受託會社カ當然本書ニ基キ有スル權利ニ對シテハ認證判決ノ言渡ヲ受ク可キコトニ同意ス。又會社ノ不履行アリタル後訴訟若クハ其他ノ手續開始シタル時ハ（若シ當時法律規定存在スル場合）會社ハ受託會社ノ要求ニ依リ其當時存在スル工場財團及社債ノ擔保トシテ其當時受託會社ニ質入サレアル擔保及ヒ之ヨリ生スル收益、賃料、利益配當、利息ニ關シ當該官廳ノ附與スル權限ヲ有スル「レシーバー」其ノ管理人ノ選任ニ同意ス

是等ノ者ハ第七章第一條第二項ノ規定ニ依ル受託會社ノ權限ト同様ノ權限ヲ有スルコトヲ得。

第十二條 受託會社ハ左記場合ノ一ニ依ルノ外本書規定ノ會社ノ不履行ニ對スル權利ヲ拋棄シ又ハ右不履行ノ効果ヲ免除シ又ハ之ヨリ生スル責任ニ付和解ヲ爲スヘカラス、即チ超特別決議又ハ超特別決議ニ依リ適法ニ選任サレタル代表者ニ依リ指定アリタル場合又ハ(イ)工場財團ノ全部若クハ一部又ハ社債ノ擔保トシテ受託會社ニ質入サレアル擔保ニ付本書ニ基ク競賣ニ先タチ右不履行行爲カ回復サレ(ロ)會社ニ於テ社債權者ノ爲メ受託會社ニ對シ會社ノ不履行ニ依リ社債權者ノ受ケタル一切ノ損害ヲ賠償シ並ニ元利金支拂ノ不履行ノトキハ其元利金額及ヒ滿期後元本ニ對スル利息及法律ノ許ス範圍ニ於テ滿期後利息ニ對シ年六分五厘ノ割合ニ依ル利息ヲ併セ支拂ヒ(ハ)受託會社、財務擔當者、立會署名者ノ費用ヲ支拂ヒ又ハ之ヲ支拂フニ充分ナル金額ヲ受託會社ニ供託シタル場合ニハ前記ノ如キ受託會社ノ權利拋棄アリ又ハ右不履行ニ對スル手續ヲ停止シ拋棄シ又ハ受託會社ニ對シ反對ノ決定アリタル時ハ會社ト受託會社及社債權者ハ各自從前ノ地位及權利關係ニ復歸スヘキモノトス、不履行効果ノ免除ハ再後又ハ其他ノ不履行ヲ免除スルモノニ非ス、又夫レニヨリテ生スル權利ニ影響スルコトナシ受託會社ハ(第八條ノ規定ニヨル以外)其當時存在スル工場財團ヨリ如何ナル財産ヲモ分離解除スルコトヲ得ス、但シ社債權者集會ノ超特別決議又ハ超特別決議ニ依リ選任サレ授權サレタル社債權者ノ代表者ノ指揮又ハ法律ノ強制ニヨル場合ハ此限リニ非ス。

第十三條 會社ハ左ノ如ク約定ス。

會社ノ不履行アリ且其効果繼續中ハ本書中前ニ規定セル方法ニ依ル不履行効果ノ免除ナキ限り受託會社ハ權利トシテ(其當時法律規定アル場合)即時社債元本ニ付滿期ヲ宣言シ又ハ滿期ヲ宣言セシテ其當時存在スル工場財團及受託會社ニ質入サレアル擔保及之ヨリ生スル一切ノ收益、賃料、利益、配當、利息ニ關シ當該官廳ノ附與スル權限ヲ有シ且第七章第一條第二項ノ規定ニ依リ受託會社カ行使スルト同様ノ權限ヲ有スル「レシーバー」又ハ其他ノ管理人ヲ選任スルコトヲ得、又會社ノ不履行アリタル後本書ニ依リ設定サレタル抵當權ノ實行又ハ受託會社ニ質入サレアル擔保ノ賣却又ハ之等ノ行爲ノ強制ノ手續ノ提起又ハ會社ノ財產營業若クハ收益ニ關シ受託會社又ハ社債權者ノ有スル權利ヲ實行スル爲メノ其他ノ手續ノ開始アリタル時ハ受託會社ハ權利トシテ(其當時法律規定アル場合)前記ノ如ク其當時存在スル工場財團及受託會社ニ讓渡質入サレアル擔保及之ヨリ生スル一切ノ收益、賃料、利益、配當、利息ニ關シ當該官廳カ附與スル權限ヲ有スル「レシーバー」又ハ其他ノ管理人ヲ選任スルコトヲ得。

第十四條 本書並ニ債券又ハ利札ニ基ク訴訟行爲ハ一切受託會社ニ依リ提起セララルモノニシテ此場合受託會社ハ債券又ハ利札ヲ所用スルコトヲ要セス、且辨論又ハ之ニ關スル其他ノ手續ニ際シ之ヲ提出スルコトヲ要セス、受託會社カ訴訟提起又ハ其他ノ手續ヲ爲ス場合ハ受託會社トシテ其名ニ於

テ之ヲ爲シ且判決ハ現存債券及添附利札ノ所持人ノ平等ノ利益ノ爲メニ受クヘキモノナリ（但シ第七章第二條ノ規定ニ依ル）

第十五條 社債權者及利札所持人各自ノ平等ノ權利ヲ向上シ保護シ且訴ノ重複ヲ防ク爲メ左ノ如ク約定合意ヲ爲ス（本書ニ基キ發行セル一切ノ社債券ハ此ノ條件ニ從フモノトス）

本書ニ基キ設定サレタル抵當權ヲ實行シ受託會社ニ讓渡質入サレアル擔保ヲ賣却スルノ權利ハ一切受託會社ニ歸屬ス。

受託會社カ會社ノ不履行ニ付通知ヲ受ケ特別決議ニ基キ會社ニ對シ訴訟行爲ヲ採ルヘク指圖サレ之ニ要スヘキ訴訟費用其他ノ費用負擔ニ對シ相當ノ擔保補償ノ提供ヲ受ケ且是等ノ通知指圖及補償ノ提供ヲ受ケタル後六十日間右手續ヲ採ラサルカ又ハ之ヲ爲ス事ヲ拒絕シタル場合ニ非サレハ社債權者又ハ利札所持人ハ前記手續ヲ提起シ又ハ提起ヲ要求シ又ハ前記抵當權ノ實行又ハ受託會社ニ讓渡質入サレアル擔保ノ賣却ニ付キ受託會社ニ代ルヘキ代表者ノ選任ヲ申請スルノ權限ナキモノトス。

各社債權者及受託會社ハ左記事項ヲ了解シ同意ス、如何ナル社債權者又ハ利札所持人ト雖モ他ノ社債權者又ハ利札所持人ノ權利ニ影響ヲ及ホシ又ハ之ヲ阻害スルカ如キ又ハ右人々ニ優先スル地位ヲ獲得スルカ如キ性質ノ權利ヲ有スヘカラス。

受託會社カ其義務ヲ怠リ又ハ履行ヲ拒絕シタル場合ニ於ケル社債權者代表者ニ依リ又ハ之ニ代ツテ爲ス手續ノ受益ハ其當時存在スル一切ノ債券及利札ニ對シ平等タルヘシ（第七章第二條ノ條項ニ基ク）

第十六條 本書中別段ノ定メアル場合ト雖モ受託會社ハ法律ノ許ス範圍ニ於テ社債權者ノ指示又ハ同意ナクトモ本社債及利札ノ擔保物ノ保護保存ノ爲メ又ハ本書ニ基ク受託會社、社債權者及利札所持人ノ權利ノ保護及實行ノ爲メ必要ト思惟スル訴訟行爲其他ノ手續ヲ爲スコトヲ得。

第十七條 本書中規定スル受託會社、社債權者又ハ利札所持人ニ對シ附與サレタル救濟方法ハ其他ノ救濟方法ヲ除外スルコトナク各救濟方法ハ累積的ニ爲サレ且本書規定ニ依ル又ハ現在若クハ將來存在スル他ノ各救濟方法ニ追加シテ爲サルヘキモノトス。

第十八條 受託會社、社債權者又ハ利札所持人ニ於テ會社不履行アリタル時其權利ヲ行使スルコトヲ遅延シ又ハ行使セサル場合ト雖モ夫等ノ權利ハ害セラルル事ナク又其不履行ノ責ヲ免除シ又ハ默認スルモノニ非ラス本書ニ依リ受託會社、社債權者又ハ利札所持人ニ附與サレタル權利及救濟方法ハ隨時夫等ノ者ガ便宜トスル時之ヲ行フコトヲ得。

第十九條 本書ニ規定スル所ハ其明示タルト默示タルトヲ問ハズ本書ノ規定又ハ本書記載ノ約定、條件ニ基ク權利、救濟方法又ハ請求權ハ本契約ノ當事者及ヒ社債權者利札所持人ニノミ附與セラルル

モノニシテ本書所定ノ約定合意ハ一切兩當事者及ヒ社債權者利社所持人ノ利益ノ爲ニシテ存スルモ  
フナリ。

第二十條 會社ハ何時ニテモ本書ニ規定スル履行ノ約定及期間ヲ左右スル如キ現在或ハ將來施行サル  
ル法律ニ依リ其ノ停止又ハ延長ヲ主張シ抗辨シ又ハ如何ナル方法ニ依ルモ之ヲ請求シ之カ利益ヲ得  
ルコトナキモノトス。

又本書規定又ハ當該官廳ノ決定、判決又ハ命令ニ基キテ爲サルル競賣ニ先タチ其ノ當時存在スル  
工場財團ノ全部又ハ一部又ハ受託會社ニ讓渡質入サレアル擔保ノ評價ヲ規定スル現在又ハ將來施行  
サルル法律ニ依リ其ノ法律ノ利益ヲ請求シ主張シ之カ利益ヲ得ルコトナキモノトス、又ハ右競賣ノ  
後ニ於テ將來又ハ今後施行サルル法律ニ基ク權利ノ主張又ハ行使ニ依リ右賣却サレタル物件ノ全部  
又ハ一部ヲ回収スルコトナキモノトス、會社ハ茲ニ斯ル法律ノ利益ヲ援用スルコトナキヲ明示シ且  
本書中受託會社ニ對シ許容サレタル權利ノ行使ヲ妨害シ遲延セシメ又ハ阻害スルコトナク恰モ斯ル  
法律ノ施行セラレサル場合ノ如ク夫等ノ權利ノ行使ヲ認容スヘキコトヲ約諾ス。

### 第八章 抵當物件ノ解除

第一條 會社ハ工場財團ヲ有スル間ハ何時ニテモ廢毀又ハ磨滅スルニ到リタル財團物件中ノ機械、附

屬品、器具、道具、補充品ノ如何ナル部分ヲモ會社ノ獨斷ニテ處分シ得ルモノトス、受託會社ハ會  
社ノ要求アル場合ハ上記ノ抵當物件變更ニ同意ヲナシ抵當物件變更ニ必要ナル手續ニ協力ス可キモ  
ノトス。

上記ノ工場財團ヨリ解除シタル物件ヲ處分スルコトニ依リ會社カ得タル代金ハ新機械、器具、補  
充品ノ購入ニ使用スヘキモノニシテ受託會社及會社ノ適法ナル行爲ニ依リ是等ハ更ニ工場財團ニ繰  
入ル可キモノトス、上記代金ノ全部又ハ一部カ其受領後六カ月内ニ新品購入ニ用ヒラレサル時ハ受  
託會社ニ之ヲ預入ル可シ、而シテ受託會社ハ自己ノ行爲ニヨリ解除シタル抵當物件ノ對價ニ關シ規  
定シタル第八章第四條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ處理ス可キモノトス、然レ共若シ斯ル金額カ本社債ノ償  
還ニ使用セララルトモ斯ル社債ノ利子ハ會社ヨリ別勘定ニテ支拂フモノニシテ賣上代金中ヨリ利子  
支拂ヲナス可カラス又賣上代金ヲ社債償還ニ使用シタル場合ニ於テモ會社カ減債基金勘定トシテ支  
拂フヘキ金額ヲ減スルコトヲ得ス。

會社ノ各營業年度ノ終了後七十五日以内ニ會社ハ受託會社及ヒ財務擔當者ニ對シ財務擔當者ノ承  
認スル顧問技師ニヨリ作製セラレ會社ノ社長又ハ他ノ代表取締役カ署名シタル相當詳細ノ説明書ヲ  
以テ

(イ) 該營業年度内ニ於テ會社ニヨリテ該工場財團ニ更ニ附加シ又之レヨリ分離シタル物件ノ性質、

用法、價格

(ロ) 分離物件ノ處分金ノ使用方法ヲ報告ス可シ。

受託會社  
ノ同意  
工場  
財團  
ヨリ  
分  
離  
物  
件  
ノ  
條  
件

第二條 工場財團ノ所有權カ會社ニ屬スル限リ受託會社ハ下記記載條件ニ從ヒ、會社ノ要求アル時ハ工場財團及ヒ之ニ時々附加スル物件ヲ抵當權ノ目的ヨリ解除スヘキモノトス。

條 件

(イ) 會社ノ取締役會及ヒ財務擔當者ノ承認スル顧問技師ノ判斷ニヨリ會社事業或ハ殘部トナル工場財團ノ運用、保持、使用ニ何等必要又ハ有用ナラサル物件ナリト認ムルトキ。

(ロ) 右解除當時ノ直前ノ營業年度末現在ニ於テ右解除後工場財團ニ屬スル財産ノ原價(第六章第十一條ノ規定ニ從ヒ計算シタル減價銷却金ヲ控除シタルモノ)カ其當時現存スル本社債元金總額ノ二倍以上ニ相當スルニ非レハ工場財團ニ屬スル財産ヲ財團ヨリ解除スルコトヲ得ス。

(ハ) 會社カ財團ヨリ解除セラル可キ物件ヲ賣却若クハ交換シタルカ又ハ賣却、交換ヲ爲ス契約ヲ爲シタル後ナルヘキコト。

(ニ) 上記ノ賣却、交換ニヨリ受取り又ハ受取ルヘキ金錢其他ノ對價ハ少クトモ解除セラル可キ物件ノ價格ト同等タルヘキコト。

本條規定ニヨリ求メラルル受託會社ノ一切ノ行爲ハ會社ヨリ書面ヲ以テ請求スヘキモノニシテ會

社カ斯ル請求ヲ爲スニ當リ、下記ノ書面ヲ受託會社ニ提出スヘキモノトス。

(一) 社長又ハ他ノ代表取締役カ自身證明ノ爲メ署名ヲ附シアル會社ノ取締役會ノ決議録ノ寫、財務擔當者ノ承認シタル顧問技師ノ證明書、上記二種ノ書面ハ解除ヲ求メラレタル物件カ工場財團ノ運用、保持、使用ニ何等必要又ハ有用ナラス、且會社ノ業務遂行上ニモ不用トナリタルコトヲ述フルコトヲ要ス。

(二) 會社ノ社長又ハ其他ノ代表取締役自身ノ署名セル證明書並ニ財務擔當者ノ承認スル會計士ノ證明書ニシテ夫等證明書ノ日附、直前ノ營業年度末現在ニ於テ右要求ニ係ル解除後工場財團ニ屬スル財産ノ原價(第六章第十一條ノ規定ニ從ヒ計算シタル減價銷却金ヲ控除シタルモノ)ヲ示セルモノ

(三) 社長ハ他ノ代表取締役ノ證明書ニシテ次ノ事項ヲ記載シタルモノ

(イ) 分離セントスル物件ノ表示

(ロ) 斯ル物件ノ正當ナル評價額即チ賣却ノ場合ハ其ノ受クヘキ代金額若シ物々交換ノ場合ハ對價物ノ評價

(ハ) 分離カ本章第二條ノ規定ニ基キ爲サレ得ヘキコトヲ示ス可キ其他必要ナル事項

(四) 若シ會社カ工場財團ニ屬スル財産ノ交代ニ財産ヲ取り又ハ取ルコトヲ約シタルトキハ左記事項

ニ關スル財務擔當者ノ承認スル法律顧問ノ意見書

(イ) 會社ハ交代物ニ對シ完全ナル所有權ヲ有シ其物ハ本書ニ基キ設定サレタル抵當權ニ優先スル何等ノ權利ノ目的タラズ、而シテ一番抵當ノ目的物トシテ工場財團ニ繰入レラレタルコト。

(ロ) 會社ハ右財産取得ニ關スル契約ノ完了ニ依リ交代物ニ對シ何等負擔ナキ完全ナル所有權ヲ有スヘキコト、而シテ本書ニ基ク一番抵當ノ目的物トシテ工場財團ニ繰入レラレ得ルコト。

(四) 會社カ工場財團中ノ物件ト交換ニ證券類ヲ取得シタル時ハ受託會社ノ認ムル法律顧問ノ意見トシテ

(イ) 會社ハ完全ナル所有權ヲ斯ル證券ニ對シ有シ社債ノ元利ノ支拂擔保トシテ受託會社ニ質入サレタルコト、證券ハ此質入ニ優ル何等ノ擔保ノ目的タラサルコト。

(ロ) 證券ト交換スル契約ノ履行ノ上ハ會社ハ何等負擔ナキ完全ナル所有權ヲ斯ル證券ニ付有シ受託會社ニ何等優先ノ負擔ナキ状態ニテ質入サレタルコト。

第三條 本第八章第二條、第三條及第四條ニ特定セル決議録寫、證明書及意見書ハ受託會社ニ對シ夫等ノ書類ニ記載サルル財産分離ノ權限ヲ附與スル爲メ前記條項中ニ確定スヘク要求サレタル事實ノ絶對的證據トナルモノニシテ之ニ關シテ爲ス受託會社ノ行爲ニ對シ完全ナル保證タルヘキモノナリ、乍併受託會社ハ其認定ニヨリ要求ニ係ル分離財産又ハ之ト交換ニ取得スヘキ擔保其他ノ財産ニ

關シ會社ノ費用ヲ以テ評價其他ノ方法ニ依ル受託會社カ相當ト認ムル證據ノ提出ヲ要求スルコトヲ得。

第四條 本書ニ基ク抵當權附ノ儘爲サレタル財産ノ賣却ノ對價(本第八章第一條ニ依リ認容サレタル同條所定ノ財産ノ處分ニ依リ會社カ取得シタル對價ヲ除外ス)ハソレカ金錢ナル場合ハ之ヲ受託會社ニ供託スヘシ、會社カ本書所定ノ不履行事實ナキトキハ右供託金額ハ隨時會社ノ選擇ニ依リ、(イ) 附加物件ノ獲得又ハ其當時存在スル工場財團ノ物件ノ改良、擴張、延長又ハ追加(是等ノ物ハ本書ニ基ク第一順位ノ抵當權ノ目的トシテ前記財團ニ繰入レラレタルモノナルコト)ヲ爲スニ要シタル金額(前記物件ノ正確ナル價格ヲ超過セサルコト)ノ補償トシテ受託會社ヨリ返還ヲ受クルコトヲ得。

但シ前記何レノ場合タルヲ問ハス補償セラルヘキ金額ハ昭和二年十二月一日以降ニ支出シタルモノニシテ受託會社カ斯ル供託ヲ受ケタル日前二ヶ月以内ニ支出シタルコトヲ要ス。

(ロ) 會社ノ書面ニ依ル要求ニ基キ受託會社ハ第四章ニ特定セル方法ニ依リ社債ノ償還ニ充ツルモノトス。

但スル社債ノ利子ハ會社ヨリ別途ニ支拂フモノトシ前記對價中ヨリ支拂フコトヲ得ス、又右方法ニ依ル償還アルモ會社カ減債基金勘定トシテ支拂フヘキ金額ヲ減少スルモノニ非ス。



受託會社ハ本第四條(イ)ノ規定ニ基キ會社カ金額ヲ引出スノ權限アルコトノ證據方法トシテ左記書類ヲ要求スヘシ。

第一 財務擔當者ノ承認スル顧問技師ノ左記事項ニ對スル證明書

物件ノ附加アリタルコト及工場財團ニ屬スル物件ノ改良、擴張、延長又ハ追加(新換、取替ニアラサルコト)カ爲サレタルコト及前記附加物件又ハ改良、擴張、延長、追加ノ物件ノ正格ナル價格

第二 會社ノ社長又ハ他ノ代表取締役カ署名シタル前記同一事項ノ證明書ニシテ更ニ左記事項ヲ記載シタルモノ、即チ前記各物件ニ對シ支出シタル金額、右支出ノ年月日及斯ル金額ハ本書ニ基キ補償ヲ受ケタルコトナキコト。

第三 受託會社ニ満足ナル法律家ノ左記事項ニ對スル證明書、即チ右附加物件、又ハ改良、擴張、延長、追加ノ物件ハ會社カ所有セルコト本書ニ基ク第一順位ノ抵當權ノ目的トシテ工場財團ニ繰入レラレタルコト。

本第四條ノ規定ニ基キ受託會社ニ供託サレタル金額ハ一切上記ノ如ク會社ニ對シ返還サレ又ハ上記ノ如ク充當サルル迄ハ債券及利札ノ支拂ニ對スル追加擔保トシテ受託會社之ヲ保有スヘキモノトス。

第五條 本書規定ニ基ク抵當權附ノ儘爲サレタル財産ノ一切ノ賣却又ハ交換ノ對價ニシテソレカ證券ナル場合ハ債券及利札ニ對スル追加擔保トシテ受託會社ニ預入レ質入スヘシ、受託會社ハ隨時一切ノ右證券ヲ自己又ハ其指圖人ノ名義ニ書換ヲナサシムルコトヲ得、又第七章第一條規定ノ不履行ノ効果發生シタルトキハ必ス斯ク爲サシムヘシ、而シテ受託會社ハ右證券ヲ自己又ハ其指圖人ノ名義ニ書換ヲ爲スタメ會社ノ事實上代理人ニ選任サルヘキモノトス(斯ル選任ハ本社債ノ未償還部分アル限り取消サレサルモノトス)

受託會社ハ右證券ノ元本ニ對シ支拂ハルル一切ノ金額及株式ニ對スル一切ノ配當金及斯ル株式又ハ證券ノ關係アル會社ノ合併又ハ再設立(リオーガニゼーション)又ハ抵當權ノ實行ニ依ル右會社財産ノ競賣又ハ其解散又ハ沒收ノ手續ニ因リ右會社ノ株式其他ノ證券ニ關シ何時ニテモ分配サルヘキ一切ノ金錢證券其他ノ財産ヲ受領スル權限ヲ有スルモノトス。

會社ハ第七章第一條ニ規定スル不履行ノ效果存在セザルトキハ  
(イ) 上記ノ如ク質入レサレタル株券ニ關シ利得金又ハ剩餘金ヨリ支拂ハルル一切ノ配當金(株式ニ對スル通常配當以外ノモノ)及質入レサレタル其他ノ證券ニ關シ支拂ハルル一切ノ利息ヲ受領シ  
(ロ) 右株式ニ基キノレカ質入レサレタル同様ノ權限及效果ノ下ニ議決權ノ行使ヲ爲スノ權限ヲ有スルモノトス右株式カ受託會社又ハ其指圖人ノ名義ニ書換ヘラレタルトキハ隨時(會社ニ於テ

本書ニ基ク不履行ナキ限り、受託會社ハ會社ノ社長又ハ其他ノ代表取締役ノ署名セル書面ニ依ル要求アルトキハ前記株式ニ基ク議決權行使ノ委任狀及利得金又ハ剩餘金ヨリ支拂ハルル配當金（株式ニ對スル通常配當以外ノモノ）及質入レサレタル其他ノ證券ニ關シ支拂フヘキ旨ノ適當ナル指圖書ヲ會社ニ對シ作成交付セシムヘシ、

本條ノ規定ニ依リ受託會社ニ供託サレ質入レサレタル擔保ハ本書ニ基キ設定サレタル抵當權ノ目的物ノ解除ニ關スル本章第二條ニ規定セルト同様ノ方法及ヒ條件（適用サルル限り）ニ從ヒ時々受託會社ニ於テ解除スヘキモノトス。

本書ノ規定ニ基キ受託會社ニ質入レサレタル證券ニ關シ第五條ノ規定ニ基キ受託會社カ受領シタル金錢ハ債券及利札ノ擔保トシテ之ヲ保有スヘク會社ハ第八章第四條所定ノ目的方法及ヒ條件ニ於テ之ヲ引出スコトヲ得、乍併右金錢カ社債ノ償還ニ充當サルル場合ハ其社債ノ經過利子ハ會社ヨリ別途ニ支拂フヘキモノニシテ右金錢ヲ以テ支拂フヘカラス、又斯ク償還ニ充當シタルトキト雖モ會社カ減債基金勘定トシテ支拂フヘキ金額ヲ減少スルコトナシ受託會社カ受領シタル證券ハ社債及利札ノ擔保トシテ之ニ預入レ質入レサルヘキモノニシテ會社ハ本書ニ基ク抵當權附ノ儘爲サルル財産ノ賣却、交換ノ對價タル證券ノ解放ニ關シ本第五條ニ規定シタルト同様隨時受託會社ニ於テ之ヲ解放スヘキモノトス、受託會社カ受領シタル其他ノ財産ハ本書ニ基ク第一順位ノ抵當

權ノ目的トシテ工場財團ニ繰入レラルヘキモノトス。

第六條 本書ニ基キ設定サレタル抵當權ノ目的物ヨリ解除サレタル物件又ハ曩ニ工場財團ノ一部ヲ構成セル物件ノ賣却代金タル擔保ノ交代物トシテ會社カ取得シタル一切ノ物件ハ本書ニ基キ設定サレタル一番抵當權ノ目的物トシテ工場財團ニ繰入レラルヘク會社ハ此ノ目的ノ爲メ法律ノ要求スル書類ヲ受託會社ヲ相手方トシテ作成シ更ニ必要ナル行爲ヲ爲スヘシ。

而シテ會社ハ右書類カ此ノ目的ノ爲メ有効且ツ充分ナル旨ニ付キ受託會社ノ承認スル法律顧問ノ意見書ヲ受託會社ニ交付スヘシ。

第七條 本第八章ノ規定ニ基キ賣却サレ又ハ處分サレタル物件ノ買受人ハ右代金ノ充當其他合併事由ニ關シ何等ノ責任ナシ。

第八條 當該官廳ノ命令ニ基キ萬一其當時存在スル工場財團ノ全部又ハ一部又ハ債券及利札ノ擔保トシテ受託會社ニ質入レサレタル擔保物カ第三者ノ占有ニ移リタル場合ニハ本章ニヨリ會社ニ附與サレタル權限ハ受託會社ノ承認ノ下ニ斯ル第三者ニヨリテ行使セラルヘキモノニシテ受託會社其指名人カ工場財團又ハ受託會社ヘ差入レタル其他ノ社債ノ擔保ノ全部又ハ一部ノ占有者トナリシ場合ハ受託會社ノ任意ニテ上記權限ハ受託會社自ラ又ハ其指名人之ヲ行使シ得可シ。

第九章 合併及賣渡

第二條 本書ノ如何ナル條項モ第六章第十三條ノ規定ニ適シタル場合ニハ會社カ他ノ法人ヲ合併シ又ハ他ノ法人ノ財産ヲ取得スルコト又ハ會社カ他ノ法人ニ合併セラレ又ハ其當時存在スル工場財團ノ所有權ヲ全體トシテ適法ニ取得スル權限アル法人ニ對シ賣買、讓渡、移轉ヲ爲スコト（但本書ニ基ク抵當權附ノ儘且本書並ニ追加證書ノ規定ニ從フコト）又ハ更ニ此等ノ法人カ再三ノ合併ヲ爲メニ其承繼者タル法人ニ移轉スルコトハ何等禁止スル處ニアラス、然レ其次ノ條件ニ從フモノトス。

(イ) 前記ノ如キ合併又ハ賣買、讓渡、移轉ハ本書ニ基キ設定セラレタル抵當權ノ効力及ビ受託會社、社債權者ノ權利ニ何等ノ影響ヲ及ホササルコト。

(ロ) 前記ノ如キ合併又ハ賣買、讓渡、移轉ニ際シ又ハ其後ト雖モ工場財團ハ依然トシテ前記ノ目的物トシテ存續スヘキコト。

(ハ) 其當時未償還ニ屬スル社債ノ元利金ノ適確ナル支拂及本證書及之カ追加證書ノ約定、條件ノ適確ナル履行、遵守ニ付前記合併又ハ賣買、讓渡、移轉ノ相手方タル法人ハ受託會社ニ満足ナル書式ニ依ル證書ヲ以テ之ヲ認諾スヘキコト。

第二條 前記ノ如キ合併ノ結果、會社ノ權利ヲ承繼シタル法人及前記ノ如キ賣買、讓渡、移轉ノ相手

方タル法人ハ上記ノ條件ニ從ヒ受託會社ニ満足ナル書式ノ證書其他法律ノ要求スル證書ヲ作成シ、且ツ合併又ハ賣買、讓渡、移轉ニ付受託會社ニ満足ナル證據ヲ交付シ、又ハ交付セシメタルトキハ會社ニ代リテ會社ノ有スル權利ヲ承繼スルモノニシテ本書ニ依リ會社ノ與ヘラレタル一切ノ權利ヲ行使シ得ヘキモノトス。

此場合受託會社ハ法律顧問ノ意見ヲ上記ノ各條項ニ準據シタル絶對證據トシテ採用スルコトヲ得ルモノトス、受託會社ハ會社ニ與ヘラレタル上記ノ權利カ承繼法人ニ移轉シタル結果、斯ル承繼法人カ社債ノ支拂及本書記載ノ各條件ノ履行義務ヲ遂行スヘキコトヲ監視ス可シ。

第三條 本書ニ明示的ニ別段ノ定メナキ限り前記ノ如キ合併又ハ賣買、讓渡、移轉アルモ又ハ前記ノ如キ證書ノ作成アルモ其當時存在スル工場財團以外ハ斯ル合併會社又ハ斯ル讓渡ノ相手方タル法人ニ對シ、其法人ノ財産、水利使用權又ハ電氣事業經營權ヲ本書ニ基ク抵當權ノ目的物ニ繰入ルルカ如キ義務ヲ負ハシムルコトナシ、然レトモ合併ニ依ルト又ハ賣買、讓渡、移轉ニ依ルトヲ問ハス、前記工場財團ニ關聯スル一切ノ取換、新換、擴張、改良、増設及附加物及前記工場財團ノ維持又ハ之ニ關スル電氣事業經營權、水利使用權、其他ノ權利、特權ノ維持、保全、更新及右工場財團ノ各部ノ修繕、更新、取換ノ爲メニ本書ノ約定ニ基キ會社カ取得スヘキ一切ノ財産並ニ會社ヨリ履行スヘキ其他契約ノ遂行ノ結果取得スヘキ一切ノ財産ハ前記抵當權ノ目的物トシテ法律ノ認ムル範圍内

ニテ本書ノ規定ニ從ヒ何等先順位ノ權利ノ拘束ヲ受ケサルモノトシテ之ヲ繰入ルヘキモノトス、受託會社ハ右工場財團及之ニ關係アル一切ノ水利使用權及電氣事業經營權ニ付上記第七章第一條ニ規定スル權限ヲ依然トシテ有スルモノナリ。

第四條 本章規定ニ依リ附與サルル權利ノ行使以前ニ會社ハ取締役會過半數ノ決議ニヨリ作成サレ受託會社ニ交付サレタル書面ヲ以テ前記ノ如ク會社又ハ其承繼人ニ保留サレタル權利ヲ拋棄スルコトヲ得

斯ク拋棄サレタル權利ハ消滅スルモノナリ。

### 第十章 受託會社ニ關スル規定

抵當權ノ登記  
第一條 受託會社ハ本書所定ノ信託ヲ引受ケ本書ニ基キ設定サレタル抵當權ヲ工場財團上第一順位ノ抵當權トシ及ヒ該抵當權ニヨリテ擔保サルル社債元利金ニ對スル擔保物及ヒ其當時存在スル工場財團ノ全部又ハ各部ニ付受託會社ノ有スル權利ヲ保護スル爲メ法律ノ必要トスル手續ニ從ヒ本書ヲ提出シ之レニ基キ登記ヲ受ク可シ。

受託會社ハ其上ニモ法律上必要トスル範圍ニ於テ擔保保證トナル可キ一切ノ必要ナル證書ヲ作成シ、本書ニ基キ設定サレタル抵當權ノ保持繼續ニ必要ナル行爲ヲ爲シ抵當權存在ノ公示ヲ爲シ擴張

追加物件ヲ本書ニ基ク抵當權ノ目的トシ工場財團ニ繰入ルヘキモノトス（本書ノ規定ニ依リ要求セラレタル所ニ從フ可シ）

工場財團ノ附保  
受託會社ハ會社カ其工場財團ニ對シ附スヘキ一切ノ保險ヲ附セシメ又ハ之ヲ繼續セシムヘシ、而シテ保險會社ノ性質、財政狀態及保險證券ノ約款ヲ取調ヘノ上満足スルニ非サレハ會社ニ對シ斯ル保險證券ヲ承認スヘカラス。

受託會社ノ調査  
受託會社ハ會社ノ費用ヲ以テ工場財團維持及保險並ニ前期抵當權ノ保護ニ關シ會社カ本書ニ基ク義務ヲ常ニ遂行セルヤ否ヤヲ確ムル爲メニ必要ナル調査ヲ常ニ爲スヘシ。

受託會社ハ常ニ會社トノ間ニ會社カ本書ノ條項ニ從ヒ又ハ本書記載ノ工場財團ニ關シ特ニ會社ニ許容サレタル權利ヲ行使スル爲メニ必要ナル可キ追加契約其他法律ノ要求スル證書ヲ作成スヘシ。會社カ本書記載ノ不履行アリシ時ハ受託會社ハ直チニ財務擔當者ニ之ヲ書面ニヨリ報告スヘシ。

第二條 受託會社ハ本書原本一通ヲ在日本東京ノ本店ニ、謄本ヲ各其支店ニ備付クヘシ、該原本及謄本ハ營業時間中何時ニテモ會社ノ社債權者、株主及會社ノ債權者ノ閱覽ニ供スヘキモノトス。受託會社ハ會社ノ社長又ハ他ノ代表取締役ノ一名カ會社ノ所有スル適法ナル社債原簿ト相違ナキ旨ノ證明ヲ爲シタル社債原簿ノ謄本ノ交付ヲ受クヘシ、而シテ原簿ノ記載ニ變更ヲ生シタル時ハ其

都度受託會社ノ謄本ノ其部分ヲモ變更シ置クモノトス。

受託會社ハ社債原簿ノ謄本ヲ其ノ本店ニ置キ社債權者ノ爲メ營業時間内閱覽ニ供スヘシ。

社債權者  
集會決議

第三條 受託會社ハ社債權者ノ各集會ノ決議録ヲ自ラ作成スルカ又ハ他ヲシテ作成セシメ右決議録ノ謄本ハ日本東京ノ受託會社ノ本店及其各地ノ支店ニ備附クヘシ。

右謄本ハ營業時間内何時ニテモ會社又ハ社債權者ノ閱覽ニ供スヘキモノトス、受託會社カ招集シタル社債權者集會ノ決議録原本ハ受託會社ノ本店ニ備付クヘシ。

此原本ハ營業時間内何時ニテモ會社及社債權者ノ閱覽ニ供スヘシ、社債權者集會後受託會社ハ直ニ決議録ノ謄本ヲ其主務役員又ハ秘書役ニヨリ相違ナキ證明ヲ受ケタル上財務擔當者ニ交付スヘシ。

受託會社  
ノ免責事  
項

第四條 受託會社ハ一切ノ通知書、決議録、要求書、同意書、命令書、證明書、報告書、意見書、債券其他ノ書類、證明カ該當事者ニヨリテ署名サレ提出セラレタル限り之ヲ真正ノモノトシテ取扱フコトニ對シ何等過失ノ責任ヲ負フコトナシ、本書記載ノ債券ノ證明及交付、本書條項ノ下ニ受託會社ノ保持スル金錢ノ支拂又ハ本書記載ノ免除證書ノ作成其他ノ受託會社ニ對スル申請許容等ニ對シテ條件タルヘキ本書各條項ニ基キ要請セラレタル決議録、證明書、陳述書、意見書、報告書、命令書及其他ノ書面ハ其記載事項ノ内容ヲ絕對證據トシテ受託會社ニ於テ受入レ得ルモノニシテ是等ノ書面ノ内容ヲ基礎トシテ行動スル限リ其内容事實ノミナラス内容トナレル意見ヲ基礎トスルトモ受

受託會社  
ノ認可ニ  
關スル免  
責事項

託會社ハ善意、無過失ニシテ萬一之等ノ内容ニ就キ虛偽不實アリトスルモ何等ノ責任ヲ負ハサルモノトス。  
但シ斯ル申請ヲ許容シ又ハ申請ニ基ク行爲ヲ爲ス以前ニ受託會社ハ社債未償還總額ノ四分ノ一以上ノ社債權者ニヨリ書面ニ依ル請求アル場合又ハ相當費用擔保ヲ提供シタル社債權者ノ請求アル場合或ハ受託會社自ラノ發意ニヨル場合ニハ其適當ト認ムル程度ニ於テ上記ノ事實ニ付更ニ獨立ノ調査取調ヲ爲スコトヲ得ヘシ。

若シ受託會社カ獨立調査ヲナサントシ又爲スヘキ請求ヲ受ケタル時ハ受託會社自身又ハ都合ニヨリ代人ヲシテ會社ノ上記事實ニ關スル陳述及之ニ關スル諸帳簿ヲ取調ヘ得ルモノナリ、而シテ調査ノ有無ニ不拘申請ノ要件トナレル是等ノ諸書類ノ真正正確ナルヲ信スルニ非ンハ斯ル申請ヲ許容スヘキ何等ノ義務ヲ負ハス、是等ノ調査取調ノ上申請許容ノ決定ヲナシタル時モ惡意ナキ限り一切ノ行爲ニ付責任ナキモノトス、調査ノ費用ハ會社ノ負擔シ若シ受託會社カ立替ヘタル時ハ其請求アリ次第返却ノ時ノ日本銀行ノ當座貸越日歩ノ利率ニヨリ利子ヲ附加シテ返却スヘシ。  
而シテ萬一支拂ナキ時ハ斯ル立替費用ハ債券及利札ニ優先シテ本書ニヨリ設定サレタル抵當權ニヨリ擔保セラルヘキモノトス。

本書ニ基ク信託事務ノ遂行中受託會社ニ於テ或行爲ヲ爲シ、許容シ又ハ省略スル以前ニ於テ或事  
第四 信越電力株式會社六分五厘利付米貨社債關係  
四八七

實證明ヲ爲ス必要アリトスル場合ニ斯ル事實ハ會社ノ社長又ハ他ノ代表取締役ノ一名カ署名シ、受託會社ニ交付シタル證明書ニヨリテ絕對的ニ證明サレタルモノト看做スコトヲ得（但シ本書ニ依リ特ニ定メタル他ノ證據ヲ要求スル場合ヲ除ク）斯ル證明書ハ受託會社カ或ル行爲ヲ爲シ許容シ又ハ省略スル場合ニ信憑シ得ル絕對的ノモノト看做スモ萬一自己ノ任意ニテ適當ナル追加證據ヲ要求スルモ妨ケナシ。

信託報酬  
其他諸費用

第五條 會社ハ常ニ請求ニ從ヒ、受託會社ニ對シ其信託事務ニ對スル相當ノ報酬及信託事務處理上其權利義務遂行ニ關シ生スル相當ノ費用、法律顧問ノ報酬其他ノ立替費又ハ其代理人、代理店、雇人等ノ費用ヲ支拂フ可キモノトス。

會社カ斯ル支拂ヲ遲延シタル場合ハ本書ニ依リ設定サレタル抵當權ニ依リ社債ノ元利金支拂ニ優先シテ保護ヲ受クヘシ。

受託會社  
ノ預リ金  
利息

第六條 受託會社ハ會社ヨリ預リタル金額ニ對シテ受託會社カ一般同一性質ノ預金ニ附スル同率ノ利子ヲ支拂フ可シ。

受託會社  
ノ代理人  
社債權者  
集會書類  
ノ未提出  
ノ處置

第七條 受託會社ハ受託者トシテノ權利義務カ本書ノ規定ニヨリ生スルト法律ノ効果トシテ生スルトヲ問ハス、自身之レヲ爲スカ又ハ代理人、代理店、雇人ニヨリテ之レヲ遂行シ得ルモノトス。其債權者集會ノ決議録又ハ其謄本又ハ其集會ニテ選任セラレタル代表者タルコトヲ證スヘキ書面

ヲ該集會ヲ指揮セシ役員又ハ秘書役ヨリ提出セラレサルカ或ハ該集會カ適法ニ招集開會決議ヲナシ又ハ代表者カ適法ニ選任セラレタルコトヲ證スヘキ其他ノ證據ヲ提供セラレサル場合ニハ受託會社ハ社債權者集會決議又ハ其選任ニヨル代表者ノ指揮ニ服スヘキ義務ナシ。

受託會社  
ノ辭任

第八條 次ノ場合ニ於テ受託會社ハ本書ニヨリ定メラレタル信託事務ヲ辭任スルコトヲ得。

- (イ) 法律ノ定メニ從ヒ已ムコトヲ得サル事由ノ爲メ主務官廳ノ許可ヲ受ケタル時
- (ロ) 會社及財務擔當者ノ同意スル承繼會社ヲ定メ書面ヲ以テ會社及財務擔當者ニ承繼會社ノ商號及事務承繼ノ効力發生ノ時日ヲ通告シ、且ツ斯ル事實ヲ承繼ノ日時前少クトモ三十日以内ニ相繼ク三週間（一週何曜日タルヲ問ハス）ヲ選ヒ、各週少クトモ一回米國紐育市マンハツタン區ニテ發行シ一般ニ頒布スル日刊新聞ニ又該三十日ノ期間内ニ日本ノ官報ニ一回公告スヘキモノトス、然ルトキハ公告ニヨリ定メラレタル日ニ於テ辭任ノ効力ヲ發生スルモノトス、但シ承繼者カ本第十章第九條所定ノ方法ニ依リ本書ニ基ク信託事務ヲ引受クルニ非サレハ右辭任ハ其効力ヲ生セス、且承繼ノ効力ヲ生スルニハ其ノ他法律ニヨリ定メラレタル其ノ他ノ公告ヲ爲スハ勿論受託會社ハ其契約違反不適當ノ處置、其他法律ニヨリ除去ヲ求メラレタル事實ヲ完全ニ除去スルコトヲ條件トスルモノナリ。

第九條 選任セラレタル新受託會社ハ前受託會社及ヒ會社トノ間ニ其ノ選任ヲ承諾シ本書ニ規定セル

一切ノ權利義務ヲ承繼スヘキ旨ノ契約書ヲ作成シ其贖本ヲ財務擔當者ニ交付スヘシ。  
茲ニ於テ新受託會社ハ何等其レ以上ノ行爲ナクシテ當然最初ヨリ本書ニ受託會社トシテ記載サレ居ルト同様ニ前受託會社ノ有セシ一切ノ工場財團ニ對スル抵當權其他信託ニ關スル一切ノ權利義務ヲ承繼ス、然レトモ辭任スル受託會社ハ會社又ハ財務擔當者又ハ承繼ス可キ受託會社ノ書面ニヨル要求アラハ前受託會社トシテ抵當財產ニ關スル權利、利益及其他一切ノ權利、利益ヲ更ニ明瞭ニ確實ニ承繼セシムル様證書ヲ作成シ又ハ其他相當必要ナル行爲ヲ爲スヘシ、又若シ承繼スヘキ權利義務ヲ更ニ明瞭正確ニスル爲ニ會社ヨリ證書ヲ受クル事ヲ新受託會社カ必要トスルトキハ會社ハ此等ノ諸證書ヲ作成交付スヘシ。

受託會社  
ノ合併

第十條 特ニ反對規定カ法律ニナキ限り受託會社ヲ合併スル法人又ハ受託會社ト新設合併スル法人ニシテ會社及財務擔當者ノ承認アリ且店舗ヲ東京市ニ有スル場合ニハ本書ニ基キ承繼受託會社トナリ得ヘキモノニシテ本契約ノ當時者間ニ特ニ積極的ニ此ノ爲ニ契約ヲナシ又ハ行爲ヲ爲スヲ要セス、債券カ證明サレ然カモ交付未了ノ場合ニハ承繼受託會社ハ前受託會社ノ證明ヲ受託者トシテ其以後使用スルコトヲ得、而シテ斯ク證明セラレタル債券ヲ立會署名者ニ交付ス可シ、而シテ又債券ノ一部カ未タ證明ナクシテ承繼起リシ場合ハ新受託會社ハ自己ノ名義ヲ以テ之ヲ證明シ得、斯ル證明ハ本書又ハ債券中ニ受託會社ノ證明トシテ効力アリト規定シタルト同様ノ効力ヲ有ス。

第十一章 立會署名者ニ關スル規定

免責事項 第一條 立會署名者ハ工場財團ニ關スル一切及會社ノ之ニ關スル所有權、本書ニ基ク抵當權設定、副署シタル債券ノ分配、交付及社債拂込金ノ使途ニ關シ如何ナル場合モ何等責任ヲ負フコトナシ。  
代理人 立會署名者ハ授權サレタル權限ニ於テ自己又ハ代理人雇人ヲシテ其權限ヲ行使セシムルコトヲ得、但シ其選任、使用ニ付相當ノ注意ヲ爲シタル限り是等代理人、雇人ノ故意過失ニ對シ責任ナキモノニシテ自己ノ故意アル場合ハ此限りニ非ス。

立會署名  
者ノ免責  
行爲

立會署名者ハ債券取調ニ際シ提出ヲ求メラレタル社債權者カ債券ヲ提出シ社債權者タルヤ否ヤニ付争アル場合ハ其權利カ確定サル迄ハ何人ヲモ社債權者トシテ認ムルノ義務無キモノトス。  
立會署名者ハ該當事者ヨリ署名ノ上真正ナルモノトシテ提出交付セラレタル通知書、決議錄、要求書、命令書、證明書、債券其他ノ書類ヲ基礎トシテ行動スル限り假令是等ノ書類ニ虛偽、過誤アルモ自己ノ行爲ニ何等ノ責ナシ、立會署名者ハ自己ノ法律顧問ノ意見ニ從ヒ善意ニ行動スル限り斯ル意見ハ絕對的ノモノニシテ立會署名者トシテ爲ス積極行爲、免除、省略ニ付何等ノ過失責任ナキモノトス。

本書ノ條項ニ基キ債券ノ立會署名及交付ノ申請ヲ受ケ又ハ其他ノ申請ヲ本書ニ基キ受ケタルトキ

ハ本書ノ條項ニ依リ斯ル申請ヲ許容スル條件トシテ提出スヘキ決議録、證明書、命令書、其他ノ書面及是等ノ記載内容ハ絕對證據トシテ立會署名者ニ依リ信憑セラルベキモノニシテ立會署名者カ善意ニ於テ是等ヲ基礎トシテ行動スル限り何等過失責任ナキモノトス。

立會署名者カ斯ル申請許可前ニ於テ是等ノ書類ニ現ハル事實ヲ更ニ取調フルノ義務ナシ、然レトモ自己ノ責任ニ於テ適當ト認ムル獨立ノ調査ヲ爲スコトヲ妨ケス、獨立調査ヲ爲シタル後申請許可ヲ決シタル場合ニモ善意ヲ以テ爲シタル一切ノ行動ニ付テハ何等ノ責任ヲ責ハス。

立會署名者ノ調査費用

社債現在高證明書

獨立調査ニ要シタル相當額ノ費用ハ申請アリ次第年六分ノ利子ヲ附シ會社ヨリ返却スヘキモノニシテ返却アル迄之カ立替ニ係ル金錢債權ハ社債元利金ニ優先シテ抵當權ニ依リ保護サルモノトス

第二條 立會署名者ハ各利息支拂日ニ於テ其記録ニ依リ其前日ノ營業時間末現在ニ於ケル殘存社債元金總額ヲ示セル證明書ヲ作成シ之ヲ財務擔當者ニ交付スヘシ。

立會署名者ノ報酬及費用

第三條 立會署名者ノ要求アリ次第會社ハ本書ニ基キ立會署名者カ爲シタル一切ノ仕事ニ對シ相當額ノ報酬及費用、法律顧問ノ報酬及其他ノ費用又ハ代理人、代理店、雇人ニ依リテ其權利義務遂行上ニ要シタル費用ヲ支拂フモノトス、會社カ是等ノ費用ノ支拂ヲ怠リタル時ハ抵當權ニヨリ社債元利金ニ優先シテ保護ヲ受ク可シ。

立會署名者ノ證明書

第四條 本書ニ依ル立會署名者ノ權利義務遂行ニ際シ或行爲、免除、省略ヲ爲ス以前ニ或ル事實ノ證明

明ノ存在ヲ必要ト看做ストキニモ會社ノ社長又ハ其他ノ代表取締役ニ依リ其證明、存在ノ立證目的ノ爲メニ署名シテ交付セラレタル證明書ヲ以テ絕對證據ト爲スコトヲ得ルモノナリ、故ニ善意ニテ行動スル限り是等ノ證明書ヲ基礎トシテ爲シタル行爲、免除、省略ノ行爲ハ絕對無過失タルモノトス、然レトモ立會署名者ノ選擇ニヨリ是等ノ證明書ニ代ヘルニ他ノ證據ヲ採用シ又ハ追加證據ヲ要求スルコトヲ得ヘシ。

立會署名者ノ辭任

第五條 立會署名者又ハ其後選任サレタル承繼人ハ何時ニテモ會社ニ通告シ同時ニ辭任効力ノ發生スル日時ヲ定メテ之ヲ米國紐育市マンハツタン區ニテ發行スル一般ニ頒布セラルル日刊新聞紙ニ引續キ參週間（何曜日ヨリ起算スルモ可ナリ）一週一回宛公告ヲナシテ辭任スルコトヲ得。

辭任ハ承繼立會署名者カ豫メ選任サレ非ラサル場合以外ハ公告ニ定メラレタル日ニ於テ其効力ヲ生ス、豫メ選任アル場合ハ選任アリ承認アリ次第辭任ノ効力ヲ發生ス。

立會署名者ノ承繼人

第六條 立會署名者其承繼人カ辭任シ或ハ行爲無能力トナリ或ハ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合或ハ立會署名者、其承繼人若クハ其財産ノ「レシーバー」カ選任セラルル場合、紐育州銀行監督官其他ノ官公吏カ立會署名者、其承繼人、其財産又ハ業務ヲ監督支配スルニ至レル場合ハ承繼人ハ會社ノ重役ノ命ニ基キ擔當役員ノ作成ニ係ル書面ニ依リ會社之ヲ選任ス、會社之ヲ選任シタル場合ハ垂米利加合衆國紐育州紐育市マンハツタン區ニ於テ發行セラルル一般閱讀ノ日刊新聞ニ少クトモ一週一回引



續キ二週間公告スヘキモノトス。

立會署名者承繼ニ關スル本條ノ各項ニ基キ選任セラレタル立會署名者ハ紐育州法ニ依リ設立サレタル信託會社ニシテ前記マンハツタン區ニ於テ業務ヲ爲スモノナルカ或ハ同所ニ於テ業務ヲ營ム全米銀行組合或ハ紐育州銀行組合ニシテ斯ル信託會社又ハ銀行組合カ通常相當ノ慣習條件ノ下ニ立會署名者ノ義務ヲ履行スルコトヲ希望シ、又ハ之カ可能ナルモノタルトキニ限ル。

立會署名者ノ合併

第七條 立會署名者ヲ合併シ又ハ之ト新設合併ス可キ新會社ハマンハツタン區ニ於テ業務ヲ取扱フ事務所ヲ有スルモノタル可ク本書當事者ノ何レヨリモ如何ナル證書又ハ行爲ヲ要求スルコトナク本書ニ基キ立會署名者タルヘキ者タルヲ要ス。

債券カ證明サレタル後交付未了ノモノアルトキハ立會署名者ノ承繼人ニ於テ前任者ノ立會署名ヲ使用シ之ヲ交付スルコトヲ得。

債券カ署名未了ノモノアルトキハ立會署名者承繼人ハ前任者又ハ自己ノ立會署名何レニテモ使用スルコトヲ得、右何レノ場合タルヲ問ハス右立會署名ハ社債券又ハ本書規定ニヨリ立會署名者ノ署名ノ有スヘキ効力ヲ有スルモノトス。

#### 第十二章 社債權者集會、行爲、債券ノ所持及ヒ表現ノ資格

第一條 本件ニ關シ適用サル法律ニ別段ノ定メ又ハ更ニ必要トスルモノアル場合ノ外本書所定ノ目的又ハ法律ノ許シ又ハ必要トスル目的ノ爲メノ社債權者集會ハ左記ノ方法ニヨリ招集開催シ又其議決權ノ行使其他ノ手續ハ左記ノ方法ニヨリ定メラル可キモノトス。

(イ) 集會ハ總テ亞米利加合衆國紐育州紐育市マンハツタン區立會署名者本店ニ於テ開催スルモノトス。

(ロ) 集會ハ受託會社、財務擔當者、若クハ其承繼人又ハ其當時殘存スル社債總額ノ十分ノ一以上ニ當ル社債權者之ヲ招集スルコトヲ得。

(ハ) 集會ハ集會招集者ノ氏名ヲ以テ社債權者ニ通知シテ之ヲ招集ス、右通知ニハ集會ノ日時及場所、集會ノ目的タル事項ノ概要、集會招集ノ理由、其當時ノ法律ニ依ル本章第一條(二)規定ノ如ク社債權者ノ議決權行使ニ必要ナル債券供託ニ關スル條件ヲ掲載ス可シ。

右通知ハ少クトモ一週一回引續キ三週間(第一回ノ公告ハ集會日ヨリ二十一日前四十日以内ノ期間内ニ爲スコトヲ要ス)前記マンハツタン區ニ於テ發行シ一般ニ頒布セラルル日刊新聞及前記期間中少クトモ一回日本官報ニ公告シテ之ヲ爲スヘシ、尙集會日ヨリ少クトモ三週間前ニ受託會社及財務擔當者ニ對シ通知ヲ發シ又會社ノ出席ヲ求ムルトキハ會社ニ對シ同様ノ通知ヲ爲スヘシ。

(ニ) 日本現行法ト改正ニ依ル場合ヲ除キ日本東京ノ會社本店又ハ前記マンハツタン區ノ立會署名者

ノ本店ニ集會日前尠クトモ一週間以内ニ社債券ヲ供託シ又委任ニヨル場合ハ其事實ヲ證スル書面ヲモ共ニ供託シタル社債權者ノミヲ以テ議決權行使ノ資格アルモノト認ムヘシ。

(ホ) 右集會ニ於ケル議決權行使ニ付テハ適法ナル債券ノ額面五百弗ニ付一個トス、議決權ノ行使ハ社債權者自ラ爲シ又ハ其作成ニ係ル書面ヲ以テ爲シ又ハ適法ノ委任狀ニヨリ代理人ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得。

前記書類作成ノ事實及日附ハ公證人又ハ其他ノ役人ニシテ證書ヲ認證スル權限ヲ有スル者ニ於テ書類ニ署名シタル者カ其作成ノ事實ヲ承認シタル旨ノ證明書又ハ右作成ニ對スル立會人ノ宣誓陳述書ヲ以テ之ヲ證スルコトヲ得。

(ハ) 集會ニ於テハ過半数ノ決議ヲ以テ隨時之ヲ閉會スルコトヲ得、而シテ其再招集ノ通知ヲ要求スルコトナシ。

(ト) 「テイロン・リード・エンド・コンパニー」(會社社債ノ全額引受者)又ハ財務擔當者トシテノ其承繼人ハ右集會ノ臨時議長トシテ行動スル者ヲ指名スルコトヲ得。

集會開催サルル迄ハ議決權行使者ノ資格、委任狀、其他ノ證書ノ効力並ニ集會開催ニ關シ生スル一切ノ問題ニ關シ處理サル可キ手續ニ付右臨時議長ノ取極メタル事項ハ絶對的ノモノトス、但右取極メハ法律又ハ本書ノ規定ニ違反スルコトヲ得ス。

(イ) 集會ニ於テ永久的ノ議長及秘書役ヲ選任スルモノトス、而シテ右集會ニ於テ爲サレタル行爲又ハ手續ハ右議長又ハ秘書役カ書面ヲ以テ之ヲ證明シタル時ハ本書記載ノ一切ノ目的ノ爲メ有効ナルモノトス。

(ロ) 適法ニ招集サレタル集會ニ於テ本書又ハ法律ノ規定ニ從フ議決權ヲ以テ決議サレタル事項又ハ行爲ハ各債券及利札所持人(其者カ自ラ集會ニ出席シタルト又ハ代理人ヲシテ出席セシメタルト)議決權ヲ行使シタルト否トヲ問ハス)ニ對シ拘束力アリ且絶對的ノモノトス。

第二條 會社ハ受託會社又ハ財務擔當者ノ招集シタル集會ノ開催ニ關スル一切ノ費用ヲ支拂フヘシ。

第三條 財務擔當者ハ社債權者集會ニ於テ選任セラルヘキ代表者トシテ選任セラルヘキモノトス。財務擔當者又ハ其書面ニ因リ指名セラレタル代表者ハ如何ナル社債權者集會ニモ出席シ意見ヲ述べ又ハ書面ヲ以テ意見ヲ述フルコトヲ得。

第四條 本書規定ニ關シ受託會社ニ對スル請求又ハ要求ニ付社債權者ニ於テ書面ヲ作成スル場合ニ於テハ同一文言ノ同様書式ニヨル證書ヲ以テ爲スコトヲ得、且社債權者自ラ又ハ適法ナル委任狀ニヨリ代理人之ヲ作成スルコトヲ得、右請求要求ノ書面作成、委任狀又ハ債券ノ所持ヲ證スル書面(社債權者集會ニ於ケル議決權行使者ノ資格ヲ證スル目的ノ爲メニスル場合ヲ除ク)ニシテ左記ノ方法

ニ依リ作成サレタルトキハ其目的ノ爲メ有効ナルモノニシテ受託會社カ右請求、要求ニ基キ行爲ヲ爲スニ付絶對的ノモノナリ、即チ

(イ) 右請求書又ハ要求書作成ノ事實及日附ヲ公證人又ハ其他證書認證ノ權限アル役人ニ於テ右書類ニ署名シタル者カ其作成ノ事實ヲ承認シタル旨ヲ證スル證明書又ハ右作成ニ對スル立會人ノ宣誓陳述書ヲ以テ證明スル場合

(ロ) 債券所持ノ事實、其ノ金額、債券ノ記號番號及ヒ右所持ノ日附ガ其債券ヲ受託會社ニ呈示スルコトニヨリ又ハ受託會社カ信賴スルニ足ルト認ムル信託會社、銀行、銀行業者又ハ其他ノ供託取扱人ノ作成ニ係ル證明書ニシテ其中ニ記載ノ日ニ於テ其中ニ記載ノ記號、番號ヲ有スル債券ノ供託アリタル旨ヲ證スル書面ニ依リ證明サル場合ハ受託會社ニ對シ之ニ反スル通知書ノ送達アル迄ハ右所持ノ事實ヲ認ムルモノトス。

### 第十三章 抵當權解除前ニ於ケル工場財團

第一條 第七章第一條ニ特定セル不履行ノ効果發生セル迄ハ會社其承繼人及ヒ讓受人ハ其追次附加シタル一切ノ物件ヲ包含スル工場財團ヲ所有シ其全部及ヒ各部並ニ之ニ伴フ權利、水利使用權及電氣事業經營權(本書ニヨリ受託會社ニ讓渡サレアルト否トヲ問ハス)ト共ニ支配シ、運轉シ、使用、

收益シ、且之ヨリ生スル又ハ之ニ關スル會社ノ營業ヨリ生スル利潤收入及ヒ利益ヲ取立テ受領シ使用分配スルコトヲ得。

第二條 本社債カ滿期其他本書ノ規定スル處ニ依リ支拂期トナリタル時ハ其當時存スル債券及利札ニ對スル元利金全額ヲ完全ニ拂渡シ又ハ拂渡サシメ又ハ斯ル場合ニ於テ會社カ右元利金支拂ノ資金トシテ元利金ノ支拂額全部ヲ財務擔當者ニ供託シテ支拂ニ當テタル場合又ハ會社ニ於テ昭和二十七年六月一日及ヒ其ノ以後昭和二十七年十二月一日迄ニ何時ニテモ(但シ會社ニ於テ不履行ナキコト)受託會社ニ通告シテ右元利金支拂ノ資金トシテ其當時存在スル社債ノ元金全額並ニ昭和二十七年十二月一日拂渡期トナル利息全額ヲ併セ財務擔當者ニ供託シタル場合右各場合ニ於テ(但シ會社ニ於テ加之本書規定ニ基キ會社ニヨリ支拂ハルヘキ其他一切ノ額ヲ支拂ヒ又ハ支拂ハシメ且本書規定ノ主旨及ヒ意義ニ從ヒ會社ニ履行ヲ要求セル一切ノ事項ヲ完全ニ履行スヘキコト)本書ニ基キ抵當權ノ目的トナリタル一切ノ財産及權利並ニ受託會社ニ質入、書入レ讓渡シタル擔保ニツキ法律ノ許ス限リ前記抵當權ハ解除サルヘキモノニシテ之ニ就キ受託會社ノ有スル權利ハ消滅シ右各場合ニ於テ受託會社ハ會社ノ要求ニ應シ會社ノ費用ヲ以テ且財務擔當者ヨリ全額ノ支拂ヒアリタル旨ノ書面ヲ受取リタル上直チニ右抵當權ノ満足アリタルコトヲ記録上ニ記入シ且ツ會社其承繼人又ハ讓受人ニ對シ其當時受託會社カ所有セル一切ノ動産並ニ本書規定ニ基キ所持セル一切ノ金錢、權利及

證書ヲ引渡スヘキモノトス。

本第二條ノ規定ニ基キ財務擔當者ニ供託サレタル金銭ハ前記拂渡期ニ於テ債券及利札ニ對スル支拂ニ充當サルヘキモノナリ。

第三條 會社ハ何時ニテモ其當時未償還ニ屬スル社債全額ヲ償還スルニ必要ナル金額ヲ信託資金トシテ財務擔當者ニ供託シ右社債全部償還ノ通知ヲ第四章ニ規定スル公告方法ニ依リ爲シタルコトノ證據又ハ右社債全部償還ノ當籤及ヒ前記公告方法ニ依ル償還通知ヲ爲スコトニ就キ財務擔當者ニ満足ナル準備ヲ完了シタルコトノ證據ヲ受託會社及ヒ財務擔當者ニ提出シ受託會社ハ財務擔當者及立會署名者ニ對シ一切ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ社債ハ最早本書ノ目的ノ爲メ存在セサルモノト看做サレ且ツ本書ニ基キ抵當權ノ目的トナリタル一切ノ財産及ヒ權利ニ付(法律ノ許ス限リ)右抵當權ハ解除サルヘキモノニシテ之ニ付受託會社ノ有スル權利並ニ受託會社ニ質入、書入又ハ讓渡サレタル擔保權ハ消滅シ受託會社ハ會社ノ要求ニ應ジ會社ノ費用ヲ以テ且ツ財務擔當者ヨリ全額ノ支拂ヲ受ケタル旨ノ書面ヲ受取りタル上直チニ本抵當權ノ満足アリタルコトヲ記録上ニ記入シ、且ツ會社其承繼人及ヒ讓受人ニ對シ其當時受託會社カ所有セル一切ノ動産並ニ本書規定ニ基キ所持セル一切ノ金銭、權利及證書ヲ引渡スヘキモノトス。

財務擔當者ニ供託サレタル右金額ハ本書規定ニ基キ直後ノ利息支拂日ニ於テ利息ト共ニ社債ノ償

還ニ充當サルヘキモノナリ。

第四條 財務擔當者ハ本章第二條及第三條ノ規定ニ基キ財務擔當者ニ供託サレタル金員ヲ使用スル迄ハ之ヲ紐育州法ニ依リ設立セルモノニシテ紐育州紐育市マンハツタン區ニ店舗ヲ有シ資本金及ヒ積立金合計五百萬弗以上ヲ有スル國立銀行又ハ信託會社ニ別勘定トシテ預金スヘキモノトス。

第五條 如何ナル場合ト雖モ會社カ社債ノ償還又ハ支拂若クハ利息ノ支拂ノ爲メ財務擔當者ニ供託シタル金員ハ之ヲ以テ支拂ハルヘキ債券又ハ利札ノ所持人ニ對スル受託者トシテノ財務擔當者ニ對シ信託的ニ讓渡サレタルモノナリ(但社債償還ノ爲メ供託サレタル金員ニ付テハ第四章第三條及第五章第四條ノ規定ニ從フ)而シテ會社ハ右供託セル金員ニ付テハ最早何等權利ヲ有セサルモノトス、但シ右金員ニ對シテハ財務擔當者ハ其承認スル利率ニヨリ利息ヲ會社ニ支拂フモノトス。

第六條 其當時未償還ニ屬スル社債全部カ支拂期トナリタル日(滿期タルト抽籤ニヨリ償還日タルトヲ問ハス)以後十ヶ年間前ニ規定セル所ニヨリ支拂ノ爲メ債券ノ呈示ナキカ又ハ前ニ規定セル如ク社債ノ元利金ノ支拂ノ爲メ財務擔當者ニ供託セル金額ニ付社債權者又ハ利札所持人ヨリ請求ナキトキハ財務擔當者ハ會社ノ書面ニヨル指圖ニ從ヒ會社ニ對シ右供託金額ヲ拂戻スモノトス。

但シ財務擔當者ハ右拂戻ノ要求アル迄會社ノ費用ヲ以テ右金額ニ付支拂請求ナカリシ旨及之ニ特定スル日以後之ヲ會社ニ拂戻スヘキ旨ヲ一週間一回連續的ニ四週間亞米利加合衆國紐育州紐育市マ

シハツタン區ニ於テ發刊シ一般ニ頒布サルル日刊新聞及右期間内少クトモ一回日本官報ニ公告シテ之ヲ通知ヲ爲スコトヲ得。

會社ノ社長ノ證明書又ハ財務擔當者カ適當ト認ムル會社ノ其他ノ役員ヲ作成ニ係ル證明書ニシテ其中ニ特記セル債券及ヒ利札ハ支拂ノ爲メノ呈示ナカリシ旨ヲ記載シタルキハ右事實ニ充分ナル證據ト看做サレ、財務擔當者ハ本第六條ノ規定ニヨリ附與サレタル權限ニ基キ行爲スルコトヲ得ルモノトス。

社債權者ハ會社又ハ財務擔當者ニ對シ前記供託金額ニ對スル利息ヲ請求スルコトヲ得ス會社ハ左記事項ヲ約ス。

會社ハ前ニ規定セル如ク財務擔當者ヨリ支拂未請求ノ金額ノ交付ヲ受ケタルトキハ爾後債券及利札ノ支拂ノ爲メノ呈示ヲ遲滯シタルニ付相當ナル理由アル旨會社ニ満足ナル立證ヲ爲シ債券及利札ノ呈示アリタルトキハ未拂額全部ノ支拂ヲ爲スヘシ。

第十四章 日米兩國戰時狀態ニ於テ適用セラルヘキ條項

財務擔當者ニ對スル支拂ノ繼續

第一條 會社ハ日米兩國戰爭開始ノ場合モ明カニ法律ニヨリ禁止セラレサル限り本書中ニ規定セル條項ニ從ヒ紐育ノ財務擔當者ニ對シ支拂ヲ繼續シ本書中規定セル其他ノ財務擔當者ニ對シ爲スヘキ事

項ヲ履行スヘキコトヲ約諾ス。

第二條 日米開戰ノ爲メ財務擔當者ニ對スル支拂ノ一部又ハ全部又ハ本書中ノ條項ノ一部又ハ全部カ法律ノ禁止ノ爲メ或ハ事實上履行不能トナリシ場合ハ英國カ中立ナル場合ニハ日米戰爭ノ爲メ法律上又ハ事實上履行不能狀態繼續スル限り會社ハ「ジエー・ヘンリー・シユレーダー・エンド・コンパニー」カ前記各條項ニ關シ財務擔當者ノ代リニ其名ヲ記載セラレタルト同様ニ一切ノ支拂及ヒ其他ノ義務ヲ該「ジエー・ヘンリー・シユレーダー・エンド・コンパニー」ニ對シ履行スヘキモノトス。

斯ル場合ニハ「ジエー・ヘンリー・シユレーダー・エンド・コンパニー」ハ財務擔當者ニ代リテ依然本書中ニ財務擔當者ナル名稱ヲ用ヒタル所ニ「ジエー・ヘンリー・シユレーダー・エンド・コンパニー」ト記載シアルト同様ニ行爲スルモノナリ。

本第二條ノ條項ニヨリ「ジエー・ヘンリー・シユレーダー・エンド・コンパニー」ニ對シテ爲ス一切ノ支拂ハ英國貨幣ヲ以テ爲スヘキモノニシテ各支拂ノ金額ハ財務擔當者ニ對シ米貨ヲ以テ支拂ハルヘキ金額ヲ英貨壹磅ニ付四・八六五弗ノ換算率ニヨリ換算シ之ヲ決定スヘシ。

第三條 日米戰爭中ニ於ケル社債權者集會ハ英國カ中立ナル場合ハ英國倫敦市ノ「ジエー・ヘンリー・シユレーダー・エンド・コンパニー」ノ本店ニ於テ之ヲ開催ス。

第十五章 財務擔當者ニ関スル條項

財務擔當者ノ意義

第一條 本書「財務擔當者」ナル語ハ亜米利加合衆國紐育州法ニ準據シ設立サレ主タル營業所ヲ同國紐育州紐育市マンハツタン區ニ有スル株式合資組合タル本書作成當時現存スル「テイロン・リード・エンド・コンパニー」及其承繼人ヲ指スモノナリ。

前記組合又ハ其承繼人ノ名稱ノ變更ハ本書ニ基ク其權限ニ何等影響ヲ及ホサス。

財務擔當者ノ辭任

第二條 前記「テイロン・リード・エンド・コンパニー」及其承繼人ニシテ存在セサルニ至リ又ハ廢業シ又ハ受託會社ニ書面ヲ提出シテ本書ニ基ク財務擔當者タルコトヲ辭任スルトキハ財務擔當者ノ一切ノ權限ハ受託會社ニ依リ行使セラルヘキモノトス。

但會社ハ受託會社ノ同意ヲ以テ財務擔當者ニ代ハルヘキ個人組合又ハ會社ヲ指定スルコトヲ得、受託會社ハ重大ナル過失又ハ故意ノ懈怠ナキ限リ上記選任シタル者ノ行爲ニ對シ何ヲ責任ヲ負ハサルモノトス。

財務擔當者ノ代理人

第三條 財務擔當者ハ事實上代理人ヲ雇入ルルコトヲ得、而シテ財務擔當者ハ相當ノ注意ヲ以テ之ヲ選擇シタル場合ハ夫等ノ者ノ懈怠又ハ過失ニ對シ何等責任ヲ負ハス、財務擔當者ニ重大ナル過失又ハ故意ノ懈怠ナキ限リ上記ノ行爲ニ付何等責任ヲ負ハス。

證明書作成ノ權限

第四條 財務擔當者ハ社債元利金ノ支拂及本書ニ依リ要求セラルル減債基金ノ支拂及財務擔當者カ本書並ニ債券面ノ規定ニ基キ履行シ又ハ履行セシムヘキ權限アル其他一切ノ事項ニ對スル絶對的證據トシテノ證明書ヲ作成シ立證シ且之ヲ受託會社ニ交付スルノ權限ヲ有ス。

第十六章 雜 則

第一條 本書ニ記載サレタル契約ノ各條項ハ其明示タルト默示タルトヲ問ハス會社並ニ其承繼人ヲ拘束スルモノニシテ現在及將來ノ凡ユル社債權者ノ爲メニ共同ニ同一ノ順位ニ於テ利益擔保トナルモノナリ、而シテ債券ノ發行賣買ハ取引ノ前後ニヨリテ或ル一部ノ社債權者カ他ノ社債權者ニ對シ何等優先的又ハ區別的待遇ヲ受クルモノニアラス。

第二條 會社ハ財務擔當者ニ對シ社債ノ償還又ハ減債基金勘定ノ爲メ預入レタル以外ノ金錢ヲ以テ買入銷却ヲ爲スコトヲ得、然レトモ斯ル買入銷却ヲ爲シタル場合ト雖モ第五章第二條ニ規定セル減債基金勘定トシテ支拂ハルヘキ金額ヲ減少セシムルコトナシ。

會社ハ何時ニテモ買入レタル債券ヲ其利札ト共ニ抹消シタル上之ヲ受託會社ニ交付スヘシ。受託會社ハ會社ノ書面ニ依ル要求ニ應シ右抹消債券及利札ヲ會社ニ交付シ會社ニ依リ買入レラレ

タル抹消債券ハ再度發行セザルモノトス。

第三條 會社ハ財務擔當者ニ預入レタル金額ニ對シ該財務擔當者カ同一性質ノ預金ニ對シ其當時附スル利率ニ依ル利息ヲ受領スル權利ヲ有ス。

第四條 本書並ニ債券ノ作成發行及使用ニ際シ「會社」「信越電力株式會社」又ハ「シンエツ・エレクトリック・パワー・コンパニー・リミテッド」ナル名稱ハ單ニ本契約ノ第一當事者ヲ指スノミナラス合併又ハ日本法律ニ基ク其他ノ方法ニ依リ其承繼者トナリタル法人又ハ合併ニヨリ工場財團ノ實質上全部ヲ第九章ノ規定ニ依リ取得シタル一切ノ法人ヲモ指スモノナリ。

斯ル承繼者タル法人ハ信越電力株式會社（シンエツ・エレクトリック・パワー・コンパニー・リミテッド）カ自己又ハ其他ノ名義ニ於テ有シ得ヘキ是等ノ權利ヲ所有シ且隨時之ヲ行使シ得ルモノトス。

第五條 本書ノ規定ニ依リ會社ノ取締役會又ハ役員カ爲シ又ハ履行スルコトヲ求メラレタル行爲又ハ手續ハ會社ノ適法ノ承繼者タル法人ノ取締役會又ハ役員ニ依リ同一効力ノ下ニ爲サルヘキモノナリ。會社ニ對スル又ハ債券利札ニ關スル通告、呈示、催告ハ債券又ハ利札所持人ニ依リテ爲サルル場合ハ日本東京市ノ會社ノ本店又ハ北米合衆國紐育州紐育市マンハツタン區ノ「デイロン・リード・エンド・コンパニー」ノ本店又ハ英國倫敦市ノ「ジェー・ヘンリー・シユレーダー・エンド・コン

パニー」本店ニ對シ爲スコトヲ得、然レトモ債券又ハ其利札所持人以外ノ者ノ爲ス通告、呈示、催告ハ會社本店ニ對シテノミ爲サル可キモノトス。

受託會社ニ對シ爲サルヘキ通告又ハ要求ハ一切日本東京市ノ受託會社本店ニ於テ爲サルヘキモノトス。

本書規定ニ基キ財務擔當者ニ對シ爲スヘキ支拂ハ上記マンハツタン區ノ財務擔當者ノ本店ニ於テ履行ス可キモノナリ、又本書ノ規定ニ基キ「ジェー・ヘンリー・シユレーダー・エンド・コンパニー」ニ對シ爲ス可キ支拂ハ英國倫敦市ノ「ジェー・ヘンリー・シユレーダー・エンド・コンパニー」ノ本店ニ於テ履行ス可シ、財務擔當者ニ對シ爲ス可キ通告、報告其他ノ書面ハ總テ上記マンハツタン區ノ財務擔當者ノ本店ニ於テ交付スヘキモノトス。

第六條 「會社ノ命ニ依リ」又ハ「會社ノ要求ニ依リ」ナル文字カ本書中ニ使用セラレアル時ハ如何ナル場合ニテモ（特ニ別段ノ明記ナキ限り）會社ノ社長又ハ其他ノ代表取締役ニヨリ署名セラレタル書面又ハ電報ニ依ル命令要求ヲ意味ス、而シテ本書ノ條項ニ依ル會社ニ對スル金錢ノ支拂又ハ債券ノ交付ハ上記ノ書面又ハ電報ニ依ル命令要求ヲ待テテノミ爲サルヘキモノトス。

本書中「デイロン・リード・エンド・コンパニー」トハ前記株式合資組合ヲ指スノミナラス又其承繼者ヲモ指稱ス。

又「ジエー・ヘンリー・シユレーダー・エンド・コンパニー」トハ前記組合タル「ジエー・ヘンリー・シユレーダー・エンド・コンパニー」ヲ指スノミナラス其承繼者ヲモ指稱ス、(組合タルト法人タルトヲ問ハス)

特ニ反對ノ意志表示ナキ限り本書中ニ用ヒタル如ク「受託會社」又ハ之ト同様ノ文字ハ其原受託會社ト其承繼者トナレル受託會社トヲ問ハス其時々ノ受託會社ヲ意味シ「立會署名者」トハ原立會署名者タルト其承繼者タルトヲ問ハス其時々ノ立會署名者ヲ意味ス。

「利札」トハ債券ニ附シタル利札ノコトニシテ「利札」「債券」「所持人」ナル文字ハ特ニ別段ノ定メナキ限り單數ニモ複數ニモ用ヒラル、社債權者ニ關シテ「人」ナル文字アル時ハ債券ヲ所持スル組合、法人ヲモ包含セル意味ナリ。

第七條 本書ノ條項ニ基キ會社カ爲ス「書面ニ依ル要求、通知、承認、拋棄、指圖、指揮、指名」ナル文字ハ皆會社ノ社長又ハ其他ノ代表取締役ニ依リ作成サレタル時ハ完全ニ爲サレタルモノト看做ス可キモノトス。

別段ノ定メナキ限り受託會社ハ會社ノ社長又ハ其他ノ代表取締役カ自ラ署名ヲ附シタル證明書ヲ以テ會社ノ取締役會ノ決議ヲ經タルコトノ完全ナル證據ト看做スコトヲ得。

第八條 本書ハ英文ヲ原本トシテ日本譯文ヲ之ニ添附シ之ヲ登記所ニ提出シ第六條ノ規定ノ如ク本書

ニ基キ設定サレタル抵當權ノ設定登記ヲ受クヘキモノトス。

法律ノ許容スル限り日本内外ニ於テ本書記載事項ノ意味効力ハ英文ニ依ルヘキモノトス。

第九條 本書ハ原本數通ヲ作成スルモノニシテ各通俱ニ同一ノ効力ヲ有スルモノトス。

本書契約締結ノ證據トシテ信越電力株式會社ハ株主總會及取締役會ノ決議ニ基キ專務取締役八卷彌一ニヨリ會社ノ名ニ於テ本書ニ署名シ、且ツ秘書役又ハ副秘書役ノ一名之ニ社印ヲ押捺シ之ヲ證明シ、三井信託株式會社ハ重役會ノ決議ニ基キ社長會社ノ名ニ於テ本書ニ署名シ、且ツ副社長之ニ行印ヲ押捺シ證明シ以テ上記ノ日附ヨリ効力ヲ生スル證書トシテ昭和二年十二月九日、日本東京市ニ於テ作成ス。

信越電力株式會社(シンエツ・エレクトリック・パワー・コンパ

ニー・リミテツド)

專務取締役 八 卷 彌 一

右社印ヲ證明ス

秘書役 綾 部 健 太 郎  
立 會 人 佐 野 精 一

三井信託株式會社



(ゼ・ミツイ・トラスト・コンパニー・リミテッド)

右社印ヲ證明ス

社	長	米	山	梅	吉	
副	社	長	神	崎	平	二
立	會	人	井	上	信	

本證書ニ記載セル一番抵當六分五厘利減債基金附社債ノ總額ハ米貨七百六十五萬弗ニシテ右總額ハ紐育州法ノ下ニ設立サレ其本店ヲ北米合衆國紐育州紐育市ニ有スル株式組合「テイロン・リード・エシンド・コンパニー」ニ依リ發行價格社債額面百弗ニ付八十九弗ニテ引受ケラル可キモノナリ。

右證據ノ爲メ西曆千九百二十七年(昭和二年)十二月九日當事者左ニ署名ス。

信越電力株式會社

取締役 八 卷 彌 一

三井信託株式會社

社長 米 山 梅 吉

於 日本東京 亞米利加合衆國總領事館

昭和二年十二月九日日本東京駐劄亞米利加合衆國領事エドウィン・エル・ネヴィルノ面前ニ八卷彌

一自ら出頭シタリ、彼ハ余ニ對シ前掲證書記載ノ法人ノ一ニシテ前掲證書ヲ作成シタル信越電力株式會社(英文ニテ「シンエツ・エレクトリック・パワー・コンパニー・リミテッド」)ノ專務取締役ナルコト、彼ハ前記會社ノ社印ヲ知レルコト前記證書ニ押捺シアルハ右社印ナルコト及右社印ハ前記會社ノ株主總會並ニ取締役會ニ依リ附與サレタル權限ニ依リ押捺サレタルモノナルコト及彼ハ同様ノ權限ニ依リ署名シタルコトヲ承認シタリ。

日本東京駐在

亞米利加合衆國

領 事 エドウィン・エル・ネヴィル

於 日本東京 亞米利加合衆國總領事

昭和二年十二月九日日本東京駐劄亞米利加合衆國領事エドウィン・エル・ネヴィルノ面前ニ米山梅吉自ら出頭シタリ、彼 余ニ對シ本書記載ノ法人ノ一ニシテ前掲證書ヲ作成シタル三井信託株式會社(英文ニテ「ゼ・ミツイ・トラスト・コンパニー・リミテッド」)ノ社長ナルコト彼ハ前記會社ノ社印ヲ知レルコト、前記證書ニ押捺シアルハ右社印ナルコト、右社印ハ前記會社ノ重役會ニヨリ附與サレタル權限ニ依リ押捺サレタルモノナルコト及彼ハ同様ノ權限ニ依リ署名シタルコトヲ承認シタリ。

日本東京駐在

亞米利加合衆國

領事 エドウィン・エル・ネヴィル

右譯文ニ相違之ナク候也

昭和二年十二月九日

信越電力株式會社

取締役 八卷 彌一

三井信託株式會社

社長 米山 梅吉

(二) 信越電力六分五厘利付米貨社債券面訳文

前掲(一)ノ信託證書關係ニ登載(四〇三頁)セルヲ以テ省略